自己点検・評価報告書

平成 17(2005)年7月

広島文化短期大学

目次

はじめに ・・ 1

本学の特色等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1.1　建学の精神・教育理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
1.2　教育目的・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
1.3　定期的な点検等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
1.4　特記事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
1.5　自己評価及び今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Ⅱ　教育の内容

2.1　教育課程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
2.2　授業内容・教育方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
2.3　教育改善への努力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
2.4　特記事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
2.5　自己評価及び今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

Ⅲ　教育の実施体制

3.1　教員組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
3.2　教育環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
3.3　図書館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
3.4　自己評価及び今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

4.1　単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
4.2　授業に対する学生の満足度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
4.3　退学、休学、留年等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
4.4　資格取得の取組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
4.5　学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
4.6　自己評価及び今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

Ⅴ　学生支援

5.1　入学に関する支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
5.2　学習支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
5.3　学生生活支援体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
5.4　進路支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
5.5　多様な学生に対する支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

5.6　特記事項 …… 84
5.7　自己評価及び今後の課題 …… 85

Ⅵ　研究
6.1　教員の研究活動全般 …… 86
6.2　研究のための条件 …… 88
6.3　自己評価及び今後の課題 …… 89

Ⅶ　社会的活動
7.1　社会的活動への取組み …… 91
7.2　学生の社会的活動 …… 94
7.3　国際交流・協力への取組み …… 95
7.4　特記事項 …… 95
7.5　自己評価及び今後の課題 …… 95

Ⅷ　管理運営
8.1　法人組織の管理運営体制 …… 96
8.2　教授会等の運営体制 …… 99
8.3　事務組織 …… 103
8.4　人事管理 …… 106
8.5　特記事項 …… 108
8.6　自己評価及び今後の課題 …… 108

Ⅸ　財務
9.1　財務運営 …… 109
9.2　財務体質の健全性と教育研究経費 …… 111
9.3　施設設備の管理 …… 113
9.4　自己評価及び今後の課題 …… 114

Ⅹ　改革・改善
10.1　自己点検・評価 …… 115
10.2　自己点検・評価の教職員の関与と活用 …… 115
10.3　相互評価や外部評価 …… 115
10.4　第三者評価（認証評価） …… 116
10.5　特記事項 …… 117
10.6　自己評価及び今後の課題 …… 118

将来計画の策定 …… 119

おわりに …… 120

はじめに

大学全入時代の到来及び短期大学のコミュニティカレッジへの移行を視野に、文部科学大臣が認証した認証評価機関による「第三者評価」が平成16年４月にすべての大学等に義務付けられた。この新しい認証評価制度は、大学等の事後評価の中核として、高等教育の質を保証するもので、従前の自己点検・評価活動を質的に大きく変化させるものである。各高等教育機関はその質の維持・向上を図るために、教育・研究活動等について積極的に自己点検・評価を行い、結果を公表し、その改善・充実に向けて不断の努力をすることが求められている。

本学では、自己点検・評価が自主的な努力義務とされた平成３年に、すでにその意義を全学的に認識して「自己点検・評価規程」を作成した。平成４年からは各部門と各教員が教育・研究・施設整備等について自己点検・評価と改革・改善に取り組み、組織的なものについては「本学の自己点検・評価公表資料」として毎年公表してきた。さらに、外部評価が努力義務化された平成11年には、短期大学基準協会の「相互評価」実施要領に基づいた相互評価を帝塚山短期大学との間で行った。

この度本学は、平成17年度に(財)短期大学基準協会による「第三者評価」を受けることとし、同協会の評価基準に基づいてこの自己点検・評価報告書を作成した。報告書の作成に当たっては、現在の本学の教育・研究活動が「短期大学の担う教育の本質とは何かを全教職員で追求・実践してきたものであること、また多様な学生のニーズ及び地域社会のニーズに応えるという課題に挑戦し続けたものであること」を念頭に置き、そこに至った背景や経緯をも含めて記述することとした。各評価項目については本学の現状を自己点検・評価し、加えて特記事項として各領域における本学の特色も記述した。また各領域には、自己評価及び今後の課題の項目を設け、改善・充実に向けての検討を行った。

本学がこの自己点検・評価報告書をもとに第三者評価を受けることは、各組織（改革推進部、ＦＤ委員会、ＳＤ委員会等）及び全教職員の今後の自己点検・評価、相互評価活動の原動力となり、そのことが本学の改革とさらなる質の向上につながっていくものと確信している。

本学の特色等

本学の特色等

（１）沿革

１）学校法人広島文化学園の沿革の概要

年月日	内容
昭 26. 2.27	学校法人筒井学園寄附行為認可（広島高等洋裁女学院設置）
昭 39. 1.25	学校法人筒井学園寄附行為変更認可（広島文化女子短期大学設置）
昭 46. 9. 9	学校法人筒井学園寄附行為変更認可（広島文化学園に名称変更）
昭 61. 2. 3	学校法人広島文化学園寄附行為変更認可（呉女子短期大学設置）
平 6.12.21	学校法人広島文化学園寄附行為変更認可（呉大学設置）
平 8. 9.13	呉女子短期大学を呉大学短期大学部に名称変更
平 10. 8.14	広島文化女子短期大学を広島文化短期大学に名称変更
平 10.12.22	学校法人広島文化学園寄附行為変更認可（呉大学大学院設置）

２）広島文化短期大学の沿革の概要

年月日	内容
昭 39. 1.25	広島文化女子短期大学設置認可(被服科定員 100 名)
昭 41.12. 2	被服科入学定員変更(100 名→150 名)
昭 42. 1.23	食物栄養科設置認可(定員 100 名)
昭 42. 3.15	栄養士養成施設指定
昭 44. 4. 1	被服科を被服学科に、食物栄養科を食物栄養学科に名称変更
昭 48. 1.26	被服学科入学定員変更(150 名→100 名)
昭 51. 1.10	音楽学科設置認可(器楽専攻定員 30 名、声楽専攻定員 40 名)
昭 52.12.26	専攻科音楽専攻(1年課程)設置届出受理(定員 10 名)
昭 57. 1.16	幼児教育学科設置認可(定員 50 名)
昭 60.12.17	専攻科音楽演奏専攻(2年課程)設置届出受理(定員5名)
昭 60.12.17	専攻科音楽専攻(1年課程)定員変更届出受理(定員5名)
昭 60.12.25	期限付き入学定員変更認可(平成 11 年度まで) （被服学科 100 名→150 名、食物栄養学科 100 名→150 名）
昭 62.12. 9	被服学科を生活文化学科に名称変更
平 2.12.21	食物栄養学科を生活科学科に名称変更
平 2.12.21	生活科学科専攻課程設置届出受理(生活科学専攻定員 100 名、栄養専攻定員 50 名)
平 2.12.21	生活文化学科期限付き(平成 11 年度まで)入学定員変更認可(150 名→175 名)
平 3.12.20	音楽学科入学定員変更届出受理(再配分)(器楽専攻 30 名→45 名、声楽専攻 40 名→25 名)
平 3.12.20	専攻科音楽専攻(1年課程)入学定員変更届出受理(5名→10 名)
平 4. 3.31	専攻科音楽専攻(1年課程)、音楽演奏専攻(2年課程)学位授与機構認定
平 4.12.21	専攻科幼児教育専攻(1年課程)設置届出受理(定員5名)
平 6.12.21	生活文化学科入学定員変更届出受理(100 名→50 名)(恒定分)
平 6.12.21	生活科学科生活科学専攻入学定員変更届出受理(50 名→25 名)(恒定分)
平 6.12.21	専攻科栄養専攻(1年課程)設置届出受理(定員5名)
平 6.12.21	専攻科音楽演奏専攻(2年課程)入学定員変更届出受理(5名→10 名)
平 6.12.26	専攻科栄養専攻(1年課程)栄養士養成施設指定
平 7. 2. 1	専攻科栄養専攻(1年課程)学位授与機構認定
平 9. 2.25	幼児教育学科保母養成施設指定認可
平 10. 8.14	広島文化女子短期大学を広島文化短期大学に名称変更認可
平 10.12.22	専攻科栄養専攻(2年課程)設置届出受理(定員5名)
平 11. 2.10	専攻科栄養専攻(2年課程)学位授与機構認定
平 11. 3.12	専攻科栄養専攻(2年課程)栄養士養成施設指定
平 11.10.22	入学定員変更(臨定恒定化)認可 （生活文化学科 125 名→87 名(恒定 50 名＋臨定恒定化 37 名)） （生活科学科生活科学専攻 75 名→50 名(恒定 25 名＋臨定恒定化 25 名)）

年月日	内容
平 13.12.20	専攻科生活文化専攻(1年課程)設置届出受理(定員5名)
平 14. 1.11	「長期履修学生」受け入れ制度届出受理
平 14. 5.29	幼児教育学科入学定員変更認可 (50 名→100 名)*
平 14. 5.29	幼児教育学科専攻分離認可 幼児教育専攻(定員 50 名)・保育専攻(定員 50 名)設置
平 14. 5.29	コミュニティ生活学科設置届出受理(定員 87 名)**
平 14. 5.29	生活文化学科及び生活科学科生活科学専攻募集停止受理
平 14. 7.30	コミュニティ生活学科が地域総合科学科として適格認定
平 14. 8.16	生活科学科栄養専攻を食物栄養学科に名称変更受理(定員 50 名)
平 14. 8.16	幼児教育学科を保育学科に名称変更受理
平 15. 4. 1	保育学科保育専攻保育士養成施設指定
平 15. 5. 7	音楽学科器楽専攻・声楽専攻募集停止受理(専攻分離廃止)
平 15. 9.19	音楽学科が地域総合科学科として適格認定
平 16. 9.30	生活文化学科廃止届出受理
平 16.10. 6	専攻科幼児教育専攻を専攻科保育専攻に名称変更届出受理

注1:*の定員 50 名は、生活文化学科から 37 名及び生活科学科生活科学専攻から 13 名を振り替えたもの。
注2:**の定員 87 名は、生活文化学科 50 名及び生活科学科生活科学専攻 37 名を合わせたもの。

（２）所在地、位置、周囲の状況等

１）所在地

広島県広島市安佐南区長束西三丁目５番１号

２）位置

広島市の中心部から北へ約３㎞のところに位置する（下図参照)。なお、本学へのアクセスは次頁に示すとおりである。

３）周囲の状況

広島市は、明治 22 年に全国で最初に市制を施行し、昭和 55 年には全国で 10 番目の政令指定都市となり、人口は 110 万人を超える。マツダ、三菱を中心に重工業とその関連企業により産業、経済は順調に伸びている。また、平和都市として世界へ向けた核廃絶の運動が盛んである。その中でも安佐南区は広島市のベッドタウンとして発展を続けると共に、６つの高等学校、５つの大学・短期大学が存在する学園地区としても位置づけられている。

本学へのアクセスマップ

アクセス方法

【ＪＲ便】可部線・安芸長束駅下車、西方向へ約 800m
（可部線の運行間隔は 10～20 分）

【バス便】広島交通・「広島文化短大行き」
（広島駅前バス乗り場 10 番から約 30 分、横川駅前バス停から約 15 分）

（３）法人理事長・学長、ＡＬＯの氏名、連絡先及びその略歴等

１）法人理事長・学長

氏　　名	坂　田　正　二
連 絡 先	TEL・FAX　(082)228-5527
生年月日	昭和６年４月３日
最終学歴	昭和 34 年３月　広島大学大学院文学研究科博士課程単位取得 昭和 50 年２月　文学博士（広島大学第 502 号）
略　　歴	昭和 39 年４月　広島文化女子短期大学（現広島文化短期大学）助教授（昭和 45 年３月まで） 昭和 45 年４月　　同　　教授（平成 12 年３月まで） 昭和 51 年４月　　同　　学長（平成 13 年３月まで） 昭和 61 年４月　呉女子短期大学　学長（併任）（平成８年９月まで） 平成　２年６月　学校法人広島文化学園　理事長（現在に至る） 平成　８年４月　呉大学　学長（併任）（平成 17 年３月まで） 平成 12 年１月　呉大学短期大学部　学長（再任）（平成 17 年３月まで） 平成 15 年４月　広島文化短期大学　学長（再任）（現在に至る）
兼　　職	日本私立短期大学協会　常任理事 同　　教務研究委員長 (財)短期大学基準協会　副理事長 同　　自己点検・相互評価委員長
専門分野	西洋史学
主な著書	「ゲルマン社会史の研究」 「対話」の教育・「対話」の経営　他
賞　　罰	第 58 回中国文化賞受賞（平成 13 年 11 月３日） 勲三等旭日中綬章受章（平成 14 年４月 29 日）

２）ＡＬＯ

氏　　名	水　井　富　美　恵
連 絡 先	TEL　(082)877-8484　　E-mail:mizui@h-bunka.ac.jp
生年月日	昭和 18 年９月 18 日
最終学歴	昭和 41 年３月　岡山大学教育学部中学校教員養成課程（家庭）卒業 昭和 43 年３月　日本女子大学大学院家政学研究科（食物・栄養学専攻）修士課程修了 平成　２年３月　薬学博士（広島大学第 1974 号）
略　　歴	昭和 43 年４月　広島文化女子短期大学（現広島文化短期大学）助手（昭和 44 年３月まで） 昭和 44 年４月　　同　　講師（昭和 52 年３月まで） 昭和 52 年４月　　同　　助教授（平成２年８月まで） 平成　２年９月　　同　　教授（現在に至る）
専門分野	食品学
賞　　罰	全国栄養士養成施設協会会長表彰（平成５年 11 月）

（４）過去７年間の改廃状況及び現在の設置学科・専攻ごとの入学者数等

１）短期大学の改廃状況

（　）内は定員の数

現学科	コミュニティ生活学科	食物栄養学科	音楽学科	保育学科
10 年度	生活文化学科 （125）	生活科学科 栄養専攻　（50） 生活科学専攻（75）	音楽学科 器楽専攻　（45） 声楽専攻　（25）	幼児教育学科 （50）
12 年度	生活文化学科（87） ＊臨定恒定化による	生活科学専攻（50） ＊臨定恒定化による		
15 年度	コミュニティ生活学科を開設　（87） ＊生活文化学科と生活科学科生活科学専攻による改組	生活科学科栄養専攻を食物栄養学科に名称変更　（50）		幼児教育学科を幼児教育専攻と保育専攻に専攻分離し保育学科に名称変更 （各専攻 50、計 100） ＊増加分は生活文化学科と生活科学科生活科学専攻から振替
16 年度			専攻分離を廃止 （70）	

２）専攻科の改廃状況

（　）内は定員の数

現専攻科	生活文化専攻	栄養専攻	音楽専攻 音楽演奏専攻	保育専攻
10 年度	－	栄養専攻　（5） （１年課程） 学位授与機構より認定	音楽専攻　（10） （１年課程） 学位授与機構より認定 音楽演奏専攻（10） （２年課程） 学位授与機構より認定	幼児教育専攻（5） （１年課程）
11 年度	－	栄養専攻設置（5） （２年課程） 学位授与機構より認定 ＊１年課程は廃止		
14 年度	生活文化専攻設置（5） （１年課程）			
17 年度				幼児教育専攻から保育専攻に名称変更

３）現在の設置学科の状況

平成 17 年５月１日現在

学科		定員	入学者数	定員充足率
コミュニティ生活学科		87	90	1.03
食物栄養学科		50	53	1.06
音楽学科		70	74	1.06
保育学科	幼児教育専攻	50	63	1.26
	保育専攻	50	64	1.28

専攻科	定員	入学者数	定員充足率
生活文化専攻	5	0	0.00
栄養専攻	5	5	1.00
音楽専攻	10	5	0.50
音楽演奏専攻	10	13	1.30
保育専攻	5	2	0.40

（５）過去３ヶ年に入学した学生の出身地別人数及び割合

１）短期大学

入学年度	14 年度		15 年度		16 年度	
学生数	273		353		339	
	人数	%	人数	%	人数	%
広　島	223	81.7	292	82.7	288	85.0
山　口	17	6.2	21	5.9	15	4.4
岡　山	1	0.4	0	0.0	1	0.3
島　根	19	7.0	17	4.8	23	6.8
鳥　取	3	1.1	1	0.3	1	0.3
四　国	4	1.5	3	0.9	2	0.6
九　州	5	1.8	8	2.3	5	1.5
その他	1	0.4	11	3.1	4	1.2

２）専攻科

入学年度	14 年度		15 年度		16 年度	
学生数	7		17		13	
	人数	%	人数	%	人数	%
広　島	7	100.0	14	82.4	12	92.3
山　口	0	0.0	1	5.9	0	0.0
島　根	0	0.0	1	5.9	1	7.7
愛　媛	0	0.0	1	5.9	0	0.0

（６）法人が設置する他の教育機関の所在地、現在の入学定員等

平成 17 年５月１日現在

大学の名称等	所在地	入学定員(人)	収容定員(人)	実員(人)
呉大学　大学院				
社会情報研究科	広島県呉市郷原学びの丘			
博士課程前期	一丁目１番１号	10	20	10
博士課程後期		5	15	3
看護学研究科	広島県呉市阿賀南			
修士課程	二丁目 10 番２号	10	20	10
呉大学				
社会情報学部				
社会情報学科	広島県呉市郷原学びの丘	100	445	471
	一丁目１番１号	2年次 5		
		3年次 15		
福祉情報学科	広島県安芸郡坂町平成ヶ浜	75	250	136
	三丁目３番 20 号	2年次 5		
		3年次 15		
看護学部				
看護学科	広島県呉市阿賀南	95	400	485
	二丁目 10 番２号	3年次 10		
呉大学短期大学部				
コミュニティデザイン学科	広島県呉市阿賀南	85	170	65
	二丁目 10 番２号			

注：呉大学社会情報学部福祉情報学科は平成 15 年度開設のため、収容定員と実員は３年次までの数である。

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1.1　建学の精神・教育理念

1.1.1　建学の精神

広島文化学園の建学の精神は「究理実践」という語句に表現されている。本来は矛盾する可能性を秘めている理論と実践を敢えて１つに結び合わせようとする懸命の努力の中にこそ人間の成長の可能性があり、またそこにこそ社会の発展の原動力が潜んでいるという思想的根拠をもって、建学の精神としてこの語句を用いている。仮に理論は理論、実践は実践と切り分ければ、あるいは本音は本音、建前は建前として切り分ければ、思想的混迷を招き、人間の堕落さえも引き起こすと思われる。本学園が、学生のみならず教職員も究理実践を貫くことができる人間として成長していく場であり続けたいとの思いから、これを建学の精神として高く掲げているのである。

しかし、理論と実践とを結びつけることは容易ではない。この２つの要素を知行合一などのように二元論的に解釈すれば、水と油のように瞬く間に乖離するであろう。この困難な作業、２つの要素を融合させるにはM.ブーバーの「対話」の思想の助けが必要となったのである。いま、広島文化学園は「究理実践」と、それらを結びつける「対話」の思想を大きな精神的な柱として教育に当たっている。

一方、広島文化短期大学の学生便覧１ページによると教育目標と教育方針の二通りに書き分けられている。それは、それぞれ経緯があってのことである。最初にできたのは下記の教育方針である。これは昭和 39（1964）年の開学のとき、当時、副学長の飯野至誠先生によって書かれたもので、一見して判るように、教育基本法の精神を基にして書かれており、かなり妥当性の高いもので今日でもそれなりの命脈は保っている。これを拡大して、各学科あるいは各専攻科の具体的な教育方針を定めている。

> 教育方針（昭和 39 年開学当時のもの）
> 本学の教育は、教育基本法・学校教育法の規程に従い、民主的・自主的精神を基調としてその名の示すごとく、文化社会の形成者としての、豊かな教養と円満な人格とを涵養することを目標とする。

しかし、本学も第一次ベビーブームが去ると学生募集が困難となり経営が不安定になった。その時「全職員協議会」（全ての教員と事務職員による協議会）という、いわば自然発生的な団体が結成され、学園内外の総見直しを行った。そこで取り上げられた課題の１つに「建学の精神の個性化」があった。全職員の間で討議が続けられ、遂にモットーを公募することになり、公募作品の中に「究理実践」というのがあったのである。そして昭和 45 年の全職員協議会・教授会で最終決定をしたものである。その席上、提案者の坂田助教授・学生課長（現、理事長・学長）から、「究理実践」は昭和 41 年５月 19 日付けの学生新聞に寄稿している「テオリア　クム　プラクシ」を翻訳したものだという説明があった。この「究理実践」を建学の精神として掲げたのである。従って、学生便覧には当初作られた教育方針もそのまま残し、新たに建学の精神を教育目標という形で追加するという体裁になり、今日まで二様に書かれているのである。

（坂田理事長・学長のコメント）

これは、当時、一研究者として読んでいたドイツの出版社（Akademie Verlag）の商標からヒントを与えられた。

左のこの商標にはG.W.ライプニッツ（1646～1716）の横顔がtheoria cum praxi　というラテン語で囲まれている。言うまでもなく、ライプニッツは近代思想の祖であり、その思想が後世に与えた影響は図り知れない。彼の思想の原点となるところがtheoria cum praxiであり、その日本語訳として「究理実践」を当てたのである。因みにライプニッツ学会は Theorie und Praxis Gesellschaft と呼ばれていた。なお、究理実践といっても陽明学とは関係がない。しかし、古典的な theoria cum praxi（究理実践）を二元論的な解釈で理解するとすぐ限界がくるのである。そこでさらに現代的な見直しを迫られ、追加したのが「対話（dialogue－我と汝－）」を取り入れた教育論である。これがM.ブーバー（1878～1965）の思想を根拠にしているのは言うまでもない。これらの点検、見直しの作業をしたのは、学園の教員・事務職員すべてが加入する「全職員協議会」であった。

1.1.2　建学の精神・教育理念の周知方法

大学案内、学生便覧、各種パンフレットに究理実践 theoria cum praxi の文言を載せ、建学の精神を常に身近なところに提示している。また、大学の正面入り口には書道部の部長であった油目智子さん（昭和 49 年卒）が寄贈してくれた書「究理実践」の掲額を、8 号館 2 階の会議室には美術部の学生が協力して作ってくれた銅版の「theoria cum praxi」の額を、玄関前の庭には卒業生で書家の安達春汀氏（昭和 44 年卒）の碑を置き、すべての学生・教員・事務職員が建学の精神に立ち戻ることを誘っている。その他、入学式、卒業式・修了式、オリエンテーション等における学長の講話の中で必ず建学の精神に触れている。

1.2　教育目的・教育目標

1.2.1　学科等の教育目的・教育目標

本学の教育は、民主的・自主的精神を基調として、その名の示すごとく文化社会の形成者として、理論に裏付けされた高度の実践力を持ち、対話の精神を自得した円満な人格を形成することを目標としている。

【コミュニティ生活学科】

生活（衣・食・住・人間関係等）の基本を学びながら人と交わる力、仲間のネットワークを広げていく力を養い、個性豊かな生活と地域社会の文化形成に寄与しうる人材を育成する。

【食物栄養学科】

今日の生活状況を正しく認識し、食と健康に関わる知識を科学的・総合的に修得させ、栄養士として、健康的で人間性豊かな生活づくりを指導できる人材を育成する。

【音楽学科】

専門性の追求をめざす従来の教育に加え、音楽の知識と実践によってコミュニティの音楽文化の発展に寄与し、積極的に地域社会に貢献する人材を育成する。

【保育学科】

教科に関する科目や教職に関する科目及び保育内容や福祉等に関する理論と技術を修得させ、幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得させて、実力と熱意をもった保育者を養成する。

【専攻科】(生活文化専攻･栄養専攻･音楽専攻･音楽演奏専攻･保育専攻)

専攻科の教育目標は、さらに高い専門的知識と技術を修得させることを共通の目標としている。各専攻科の具体的な目標は次のとおりである。生活文化専攻では、ファッション、フードの領域において専門職として活躍できる人材を育成する。栄養専攻では、深い専門性を備えた優れた栄養指導者を育成する。音楽専攻及び音楽演奏専攻では、音楽活動に積極的に貢献できる人材を育成する。保育専攻では、幼稚園・保育所等の幼児教育・児童福祉施設でリーダーとなりうる優れた指導者を育成する。

1.2.2　学生や教職員への教育目標の周知方法

【コミュニティ生活学科】

コミュニティ生活学科は学生便覧に教育目標を掲げ、学生・教職員への周知を図っている。特に学生に対しては、入学時のオリエンテーション及び入学約１ヶ月後に行うオリエンテーション・キャンプにおいて、資料を配付して教育目標の理解を深めるように努めている。また各学期末には学年ごとにジョイントミートを実施し、教育目標の確認を行っている。

一方、学科以外の教職員に対しては、コミュニティ生活学科を開設する前（平成 14 年６月）に全員を集めて教育目標及び教育内容の説明を詳しく行った。また、毎年５月末に実施される全職員協議会による教育内容の勉強会においても教育目標の周知を図っている。

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、学生便覧に教育目標を掲げ、学生・教職員への周知を図っている。また、食物栄養学科では目標とする栄養士像を、科学的知識に基づいた指導力・確かな調理技術・豊かな心という３つの柱で表現し、学生募集の段階から大学案内、大学ホームページ、オープンキャンパス、高校教員対象の教育内容説明会などを利用して広報している。また、入学手続きを終えた生徒には「入学前オリエンテーション」という位置づけのパンフレットを配付し、大学生活の説明と共に、めざすべき栄養士像として理解するように求めている。

教職員に対しては、全職員協議会による教育内容の勉強会においても周知を図っている。

【音楽学科】

音楽学科は学生便覧に教育目標を掲げ、学生・教職員への周知を図っている。学生に対しては、入学後のオリエンテーションとオリエンテーション･キャンプの２回にわたり、「学科長挨拶」として文書の配付と説明を行い、さらにチューターとの対話を通して理解の促進を図っている。また、教職員に対しては、全職員協議会による教育内容の勉強会においても周知を図っている。

さらに、音楽の専門教育と音楽学習による人格形成の２つを目標とする本学科の教育内容を「音楽教育・二つの途」として表現し、大学案内、大学ホームページ、学生募集要項、オープンキャンパス、高校教員対象の教育内容説明会等で周知を図っている。

【保育学科】

保育学科の教育目標については、学生便覧に掲げ、学生や教職員への周知に努めている。

教育目標及び目標達成へのプロセスについては、大学案内、大学ホームページ、オープンキャンパス、高校教員対象の教育内容説明会などで詳細に説明しており、入学時の学科オリエンテーションでは、さらに具体的なイメージが描けるよう周知徹底を図っている。入学して約１ヶ月後に行われるオリエンテーション・キャンプでも、毎年、実践を通して理解を深めるための様々なプログラムが用意されている。２年間を通して随時行われる教育実習は、まさに教育目標を再確認する場となっている。

なお、保育学科の教職員は、学科の教育目標に沿った共同研究を行う中で、目的の意識化に努めている。学科以外の教職員に対しては、全職員協議会による教育内容の勉強会において周知を図っている。

【専攻科】

各専攻の教育目標を学生便覧に掲げ、学生・教職員に周知を図っている。専攻科の入学生は本学卒業生が大半を占めているので、教育目標はもとより教育内容に関しても十分に理解した上で入学している。

特に栄養専攻では、教育目標に基づく個人の目標設定として４段階（①専攻科修了を目標、②専攻科修了と管理栄養士国家試験受験を目標、③専攻科修了と学位取得を目標、④専攻科修了・管理栄養士国家試験受験・学位取得のすべてを目標）があることを説明し、どの目標をめざすかについて考えさせている。

1.3　定期的な点検等

1.3.1　概要

建学の精神、教育理念の解釈や見直しの前例はあるが、定期的な点検を行う組織は整っていない。

しかし、学科、専攻科の教育目標についても定期的な点検は行っていないが、学科の改組・名称変更、地域総合科学科としての適格認定、コース制の廃止、フィールド&ユニット制の導入などの転換点においては、教育目標について十分に検討し、必要に応じて変更を行っている。

1.3.2　学生や教職員に周知する施策

建学の精神については、理事長・学長が、入学式、入学式翌日の全体オリエンテーション、卒業・修了式等において、具体的な例を交えながら学生に直接語りかけている。これは、学生への周知方法として最も効果がある。教職員もその場で学生と共に聴くことによって、さらに理解を深めることができる。

1.4　特記事項

1.4.1　「対話」の教育の実践例

「究理実践」という建学の精神に関連して特記すべきことは、これを言葉だけの問題とするのではなく、実践の中や意識の中で学生一人ひとりを徹底的に把握する教育を進めているということである。最も象徴的なことは入学式の日にはクラス主任はクラスの学生の名前と顔を覚えていて、初対面のときに名前を呼びながら対応していることである。これは新入生にドラマチックな印象を与えている。出欠管理も学生一人ひとりの安否を確認するのが目的であり、学期末試験の受験資格のことは枝葉末節であると思っている。美化、服装指導にしても学生一人ひとりの成人(おとな)になるためのマナー・アップのために行っているのであって、管理体制の一環として行っているものではない。学生自身による自己点検・評価もこれらの教育の中から生まれたものである。このことを一言で要約すれば、「対話」の教育に徹しているということである。直接体験学習を重視するのも正にこの教育が教員と学生の対話の場になるからである。

1.4.2　建学の精神に基づく改革の歩み

本学は、「究理実践」という建学の精神を普及・拡大すべく、常に新しいテーマに立ち向かいながら改革の道を歩んできた。その中で、全国の短期大学に先駆けて取り組んだ課題の主なものは次のとおりである。

実施年度	改革の内容
昭和 41 年	全国で初めて（学内措置であったが）コース制の設置を行った。これによりカリキュラムの多様化が可能になった。
昭和 61 年	全国で初めて音楽系の２年制の専攻科（音楽演奏専攻）を設置した。
平成　4 年	全国で初めて音楽系の専攻科（音楽専攻、音楽演奏専攻）が学位授与機構によって認定された。
平成　6 年	実務教育（秘書士資格取得）のための学則改正（学則外で行っていた授業を正式に学則内で行える）を行い、全国のモデルとなった。
平成　9 年	全国で初めて短期大学としてＡＯ入学制度（ノンセレクティブ、対話、接続重視を特徴とする）を導入し、のちに広島文化短大方式と呼ばれるようになった。
平成 14 年	全国で初めて長期履修学生制度を導入し、入学金の分納、履修する科目の単位数に応じた授業料の納入方法などが全国のモデルとなった。
平成 15 年	全国で初めてコミュニティ生活学科という名称で地域総合科学科として適格認定を受け、家政系の新しい教育の展開を開始した。
平成 16 年	全国で初めて音楽系の学科として音楽学科が地域総合科学科として適格認定を受け、「音楽教育・二つの途」をテーゼとする多様な音楽教育の展開を開始した。

1.5　自己評価及び今後の課題

1.5.1　自己評価

「建学の精神」に基づき、以来 40 年の歴史の中で、困難に直面したとき、新しい課題に対して、理事長・学長のリーダーシップの下、全教職員が常に協力して解決の糸口を見いだし、今日の広島文化短期大学を築いてきたことは評価に値する。

1.5.2　今後の課題

（１）建学の精神、教育目標について定期的に点検を行う。

（２）その点検結果について、教職員及び学生に周知する方法を確立する。

Ⅱ　教育の内容

Ⅱ　教育の内容

2.1　教育課程

2.1.1　学科等の教育目的・教育目標（再掲）

本学の教育は、民主的・自主的精神を基調として、その名の示すごとく文化社会の形成者として、理論に裏付けされた高度の実践力を持ち、対話の精神を自得した円満な人格を形成することを目標としている。

【コミュニティ生活学科】

生活（衣・食・住・人間関係等）の基本を学びながら人と交わる力、仲間のネットワークを広げていく力を養い、個性豊かな生活と地域社会の文化形成に寄与しうる人材を育成する。

【食物栄養学科】

今日の生活状況を正しく認識し、食と健康に関わる知識を科学的・総合的に修得させ、栄養士として、健康的で人間性豊かな生活づくりを指導できる人材を育成する。

【音楽学科】

専門性の追求をめざす従来の教育に加え、音楽の知識と実践によってコミュニティの音楽文化の発展に寄与し、積極的に地域社会に貢献する人材を育成する。

【保育学科】

教科に関する科目や教職に関する科目及び保育内容や福祉等に関する理論と技術を修得させ、幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得させて、実力と熱意をもった保育者を養成する。

【専攻科】（生活文化専攻・栄養専攻・音楽専攻・音楽演奏専攻・保育専攻）

専攻科の教育目標は、さらに高い専門的知識と技術を修得させることを共通の目標としている。各専攻科の具体的な目標は次のとおりである。生活文化専攻では、ファッション、フードの領域において専門職として活躍できる人材を育成する。栄養専攻では、深い専門性を備えた優れた栄養指導者を育成する。音楽専攻及び音楽演奏専攻では、音楽活動に積極的に貢献できる人材を育成する。保育専攻では、幼稚園・保育所等の幼児教育・児童福祉施設でリーダーとなりうる優れた指導者を育成する。

2.1.2　学科等の現在の教育課程

各学科・専攻科では上記の教育目標を達成するために、より具体的な方針を立てた上で教育課程を定めている。

また本学では、他学科の科目を履修すること（他学科履修）も勧め、時間割も工夫している。その結果、知識の幅を広げたり、資格取得等を目的とした他学科履修が増えている。

各学科・専攻科の平成 17 年度の教育課程は、次のとおりである。なお、履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員をいくつのクラスに分けているかを示す。

【コミュニティ生活学科】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養	日本国憲法	○				2				○	91	
	くらしと法律	○				2				○	77	
	くらしと音楽	○				2				○	45(2)	
	自然と人間	○				2				○		18 年度より開講
	日本語学	○				2				○	53	
	国語表現	○				2				○		17 年度より開講
	英語会話	○				2				○	93	
	中国語入門	○				2				○		17 年度より開講
	総合演習		○			2			○		24	
	情報と社会	○				2				○	44	
	コンピュータ演習Ⅰ		○			1				○	75(3)	教員3名で実施
	コンピュータ演習Ⅱ		○			1				○	74(3)	教員2名で実施
	体育Ⅰ		○			1				○	61(2)	
	体育Ⅱ		○			1				○	58(2)	
専門	セミナーⅠ		○		1			○			85	教員9名で実施
	セミナーⅡ		○		1			○			79	教員9名で実施
	卒業研究		○		2			○			105	教員9名で実施
	コミュニティ論	○			2					○	86	
	社会心理学	○			2			○			98	
	人間関係論	○			2			○			89	
	地域文化論	○			2			○			81	
	生活科学論	○				2			○		29	
	生活と環境	○				2		○			30	
	生活経済学	○				2				○	27	
	生活経営	○				2				○	30	
	保育学	○				2				○	35	
	衣生活論	○				2		○			49	
	食生活論	○				2				○	36	
	住居学	○				2		○			52	
	ライフデザイン論	○				2				○	6	
	生活とマナー	○				2				○	32	
	家庭科教育法	○				2		○			12	
	ボランティアⅠ		○			1		○			7	
	ボランティアⅡ		○			1		○				17 年度より開講
	家庭介護	○				2		○			7	
	ファッションデザイン論	○				2		○				17 年度より開講
	ファッション文化史	○				2		○			21	
	ファッションスタイリング論	○				2		○				18 年度より開講
	カラーアナリスト演習		○			1				○		18 年度より開講
	ネイルテクノロジー		○			1		○				17 年度より開講
	ネイリスト演習		○			1		○				17 年度より開講
	メイクテクノロジー		○			1				○		17 年度より開講
	メイクアップ演習		○			1				○	42(2)	前・後期で開講
	ファッションビジネス論	○				2		○			31	
	ブライダル総論	○				2		○			30	
	ファッション販売論	○				2				○		17 年度より開講
	インターンシップA		○			1				○		17 年度より開講
	商品企画		○			1		○				18 年度より開講
	起業論	○				2				○		17 年度より開講
	アパレル製作論	○				2		○			38	
	アパレル製作演習		○			1				○	35	
	オリジナルソーイングⅠ		○			1		○			13	
	オリジナルソーイングⅡ		○			1		○			17	
	ファッション CAD 演習		○			1		○				17 年度より開講
	パターンメーキング		○			1		○			19	
	ドレスメーキング論	○				2		○				18 年度より開講
	ウエディングドレス演習		○			1		○				18 年度より開講
	テキスタイル論	○				2		○				17 年度より開講
	テキスタイル演習		○			1		○				17 年度より開講

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	テキスタイルデザイン(染)		○			1		○			20	
	テキスタイルデザイン(編)		○			1		○			11	
	ファッションドローイングⅠ		○			1		○			22	
	ファッションドローイングⅡ		○			1		○			6	
	ファッションクリエイトⅠ		○			1		○			31	
	ファッションクリエイトⅡ		○			1		○			31	
	ウォーキング演習		○			1				○	29	
	プロモーション企画		○			1		○			35	
	身体表現Ⅰ		○			1				○		17年度より開講
	身体表現Ⅱ		○			1				○		17年度より開講
	食物学	○				2			○		43	
	食物学演習		○			1			○		37	
	ダイエット論	○				2			○		32	
	ライフステージの食事		○			1			○		27	
	食文化論	○				2				○		17年度より開講
	食文化演習		○			1		○			50	
	食環境と流通	○				2			○			17年度より開講
	食品衛生学演習		○			1			○			17年度より開講
	食空間デザイン	○				2		○			35	
	デザインリサーチ		○			1		○				17年度より開講
	調理学	○				2		○			49(2)	
	調理学演習		○			1		○			49(2)	
	基礎料理実習Ⅰ			○		1		○				17年度より開講
	基礎料理実習Ⅱ			○		1		○				17年度より開講
	料理実習Ⅰ			○		1				○		18年度より開講
	料理実習Ⅱ			○		1				○		18年度より開講
	製菓論	○				2				○	64(2)	前・後期で開講
	製菓演習		○			1				○		17年度より開講
	製菓実習Ⅰ			○		1				○		18年度より開講
	製菓実習Ⅱ			○		1				○		18年度より開講
	フードコーディネート論	○				2		○			33	
	フードコーディネート演習		○			1		○				17年度より開講
	イベントプランニング論	○				2		○				17年度より開講
	パーティプランニング		○			1		○				18年度より開講
	メニュープランニング		○			1		○				17年度より開講
	創作料理・創作製菓		○			1		○				18年度より開講
	テーブルコーディネート論	○				2		○				17年度より開講
	テーブルコーディネート演習		○			1		○				17年度より開講
	フードマネージメント論	○				2				○		17年度より開講
	フードマネージメント演習		○			1				○		18年度より開講
	フードサービス論	○				2				○	33	
	フードサービス演習		○			1				○	8	
	フードビジネス研究	○				2		○				17年度より開講
	インターンシップB		○			1		○				17年度より開講
	ビジネスワーク論	○				2		○			16	
	ビジネスワーク演習		○			1		○			13	
	情報ビジネス演習Ⅰ		○			1				○		17年度より開講
	情報ビジネス演習Ⅱ		○			1				○		17年度より開講
	Word 活用演習		○			1		○			37	
	PowerPoint 活用演習		○			1				○	30	
	Excel 活用演習		○			1				○	37	
	Access 活用演習		○			1				○	10	
	ビジネス英語Ⅰ	○				2				○		17年度より開講
	ビジネス英語Ⅱ	○				2				○		17年度より開講
	企業研究	○				2		○			23	
	インターンシップ C		○			1		○				17年度より開講
	企業経営論	○				2				○	55	
	簿記会計		○			1				○		18年度より開講
	就職対策講座Ⅰ		○			1				○		17年度より開講
	就職対策講座Ⅱ		○			1				○		17年度より開講

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	Web デザイン演習		○			1				○		17 年度より開講
	インターネットビジネス		○			1				○		17 年度より開講
	色彩学	○				2		○			77	
	カラーコーディネート		○			1		○			36	
	美術史	○				2		○				17 年度より開講
	アートリサーチ	○				2		○				17 年度より開講
	基礎デザイン		○			1		○			23	
	CG 演習		○			1		○			8	
	ディスプレイ演習		○			1				○		17 年度より開講
	POP&ラッピング		○			1				○		17 年度より開講
	染色Ⅰ		○			1		○			3	
	染色Ⅱ		○			1		○			12	
	織物Ⅰ		○			1		○			8	
	織物Ⅱ		○			1		○			6	
	陶芸Ⅰ		○			1		○			7	
	陶芸Ⅱ		○			1		○			12	
	オリジナルグッズ制作Ⅰ		○			1		○				18 年度より開講
	オリジナルグッズ制作Ⅱ		○			1		○				18 年度より開講
	生活とデザイン	○				2		○				18 年度より開講
	インテリアグッズ制作		○			1		○				18 年度より開講
	インテリアコーディネート		○			1				○		17 年度より開講
	ガーデンコーディネート		○			1				○		17 年度より開講
	ビジネス検定講座	○				2				○	13	
	パソコン検定講座Ⅰ		○			1		○			12	
	パソコン検定講座Ⅱ		○			1				○	6	
	色彩検定講座	○				2		○			7	
教職	教育原理	○				2			○		24	
	教育制度	○				2			○		24	
	教育心理学	○				2			○		18	
	教育相談	○				2			○		24	
	道徳教育論	○				1			○		12	
	特別活動論	○				1				○	12	
	教師論	○				2			○		18	
	教育方法論	○				2		○			9	
	生徒指導論	○				2				○	12	
	教育実習			○		5		○			12	

【食物栄養学科】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養	社会生活とマナー	○				2			○		45	
	芸術(絵画)	○				2			○		9	
	くらしと法律	○				2				○	11	
	日本国憲法	○				2				○	16	
	日本語コミュニケーション	○				2				○	48	
	国語表現	○				2				○		17 年度より開講
	社会心理学	○				2			○		48	
	基礎化学	○				2		○			49	
	英語会話	○				2				○	30	
	情報と社会	○				2				○	16	
	コンピュータ演習Ⅰ		○			1				○	50(2)	教員2名で実施
	コンピュータ演習Ⅱ		○			1				○	44(2)	教員2名で実施
	体育Ⅰ		○			1				○	50(2)	教員2名で実施
	体育Ⅱ		○			1				○	36(2)	教員2名で実施
	総合演習		○			2			○			18 年度より開講
専門	セミナーⅠ		○		1			○			49	教員6名で実施
	セミナーⅡ		○		1			○			49	教員6名で実施
	卒業報告		○		2			○			44	教員6名で実施
	生活科学論	○			2			○			29	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	人間関係論	○				2			○		20	
	公衆衛生学	○			2			○			45	
	社会福祉概論	○				2			○		46	
	解剖生理学Ⅰ	○			2					○	49	
	解剖生理学Ⅱ	○				2		○			49	
	解剖生理学実習			○		1		○			44(2)	
	入門生化学	○			2			○			51	
	生化学	○				2		○			44	
	生化学実験			○		1		○			43(2)	
	運動生理学	○				2				○	20	
	食品学Ⅰ	○			2			○			49	
	食品学Ⅱ	○			2			○			50	
	食品学実験			○		1		○			49(2)	
	食品衛生学	○			2			○			49	
	食品衛生学実験			○		1		○			44(2)	
	基礎栄養学	○			2					○	49	
	栄養生理学	○				2		○			45	
	ライフステージの栄養学	○				2		○			50	
	ライフステージの栄養学実習			○		1		○			45(2)	
	臨床栄養学総論	○			2					○	45	
	臨床栄養学各論	○				2				○	17	
	臨床栄養学実習			○		1		○			45(2)	
	栄養指導総論	○			2			○			49	
	栄養指導各論	○				2		○			50	
	栄養指導各論実習Ⅰ			○		1		○			45(2)	
	栄養指導各論実習Ⅱ			○		1		○			44(2)	
	公衆栄養学	○			2			○			45	
	調理学	○			2					○	49	
	調理科学実験			○		1				○		17 年度より開講
	調理実習(初級)			○		1				○	49(2)	
	調理実習(中級)			○		1				○	49(2)	
	調理実習(上級)			○		1				○		17 年度より開講
	給食計画・実務論	○				2		○			49	
	給食計画・実務論実習			○		1		○			50(2)	
	栄養演習		○		2			○				18 年度より開講
	給食実務校外実習			○		1		○			44	
	保健所実習			○		1		○			10	
	老人ホーム実習			○		1		○			18	
	病院実習			○		1		○			18	
	フードスペシャリスト論	○				2		○			33	
	フードコーディネート論	○				2			○		33	
	食品流通論	○				2			○		36	
教職	教育原理	○				2			○			18 年度より開講
	教育制度	○				2			○			18 年度より開講
	教育心理学	○				2			○			17 年度より開講
	教育相談	○				2			○			18 年度より開講
	道徳教育論	○				1				○		17 年度より開講
	特別活動論	○				1				○		17 年度より開講
	教師論	○				2			○			17 年度より開講
	教育方法論	○				2		○				17 年度より開講
	生徒指導論	○				2				○		18 年度より開講
	学校栄養教育論	○				2		○		○		18 年度より開講
	栄養教育実習			○		2		○				18 年度より開講

【音楽学科】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養	日本国憲法	○				2				○	44	
	日本語コミュニケーション	○				2				○	46	
	英語会話	○				2				○	54	
	社会心理学	○				2			○		47	
	総合演習		○			2			○		26	
	社会福祉論	○				2			○		27	
	コンピュータ演習Ⅰ		○			1				○	63(2)	教員2名で実施
	コンピュータ演習Ⅱ		○			1				○	65(2)	
	体育Ⅰ		○			1				○	58(2)	
	体育Ⅱ		○			1				○	62(2)	
	コミュニティ論	○				2				○	70	
	人間関係論	○				2			○		71	
専門	セミナーⅠ		○		1			○			80	教員8名で実施
	セミナーⅡ		○		1			○			79	教員8名で実施
	セミナーⅢ		○		2			○				17 年度より開講
	セミナーⅣ		○		2			○				17 年度より開講
	音楽環境論	○			2			○			77	
	音楽史	○			2			○			73(2)	
	やさしいソルフェージュⅠ		○			1		○		○	18	
	やさしいソルフェージュⅡ		○			1		○		○	16	
	ソルフェージュⅠ		○			1		○		○	55	教員3名で実施
	ソルフェージュⅡ		○			1		○		○	55	教員3名で実施
	音楽通論Ⅰ	○				2				○	17	
	音楽通論Ⅱ	○				2				○	15	
	音楽理論Ⅰ	○				2		○			55	
	音楽理論Ⅱ	○				2		○			57	
	ピアノⅠ		○			2		○		○	18	教員9名で実施
	ピアノⅡ		○			2		○		○	16	教員9名で実施
	ピアノⅢ		○			2		○		○		17 年度より開講
	ピアノⅣ		○			2		○		○		17 年度より開講
	管楽器Ⅰ		○			2		○		○	26	教員 10 名で実施
	管楽器Ⅱ		○			2		○		○	26	教員 10 名で実施
	管楽器Ⅲ		○			2		○		○		17 年度より開講
	管楽器Ⅳ		○			2		○		○		17 年度より開講
	弦楽器Ⅰ		○			2		○		○	0	
	弦楽器Ⅱ		○			2		○		○	0	
	弦楽器Ⅲ		○			2		○		○		17 年度より開講
	弦楽器Ⅳ		○			2		○		○		17 年度より開講
	打楽器Ⅰ		○			2		○			8	
	打楽器Ⅱ		○			2		○			8	
	打楽器Ⅲ		○			2		○				17 年度より開講
	打楽器Ⅳ		○			2		○				17 年度より開講
	声楽Ⅰ		○			2		○		○	9	教員6名で実施
	声楽Ⅱ		○			2		○		○	9	教員6名で実施
	声楽Ⅲ		○			2		○		○	8	教員6名で実施
	声楽Ⅳ		○			2		○		○	8	教員6名で実施
	電子オルガンⅠ		○			2				○	10	教員2名で実施
	電子オルガンⅡ		○			2				○	10	教員2名で実施
	電子オルガンⅢ		○			2				○	3	教員2名で実施
	電子オルガンⅣ		○			2				○	3	教員2名で実施
	ポピュラーピアノⅠ		○			2		○			7	
	ポピュラーピアノⅡ		○			2		○			7	
	ポピュラーピアノⅢ		○			2		○		○		17 年度より開講
	ポピュラーピアノⅣ		○			2		○		○		17 年度より開講
	ギターⅠ		○			2				○		17 年度より開講
	ギターⅡ		○			2				○		17 年度より開講
	ギターⅢ		○			2				○		18 年度より開講
	ギターⅣ		○			2				○		18 年度より開講
	ポピュラーパーカッションⅠ		○			2				○		17 年度より開講

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
	ポピュラーパーカッションⅡ		○			2				○		17 年度より開講
	ポピュラーパーカッションⅢ		○			2				○		18 年度より開講
	ポピュラーパーカッションⅣ		○			2				○		18 年度より開講
	副科ピアノⅠ		○			1		○		○	41	教員9名で実施
	副科ピアノⅡ		○			1		○		○	42	教員9名で実施
	副科ピアノⅢ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ピアノⅣ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科管楽器Ⅰ		○			1		○		○	10	教員 10 名で実施
	副科管楽器Ⅱ		○			1		○		○	11	教員 10 名で実施
	副科管楽器Ⅲ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科管楽器Ⅲ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科弦楽器Ⅰ		○			1		○		○	9	教員6名で実施
	副科弦楽器Ⅱ		○			1		○		○	4	教員6名で実施
	副科弦楽器Ⅲ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科弦楽器Ⅳ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科打楽器Ⅰ		○			1		○			2	
	副科打楽器Ⅱ		○			1		○			1	
	副科打楽器Ⅲ		○			1		○				17 年度より開講
	副科打楽器Ⅳ		○			1		○				17 年度より開講
	副科声楽Ⅰ		○			1		○		○	43	教員5名で実施
	副科声楽Ⅱ		○			1		○		○	46	教員5名で実施
	副科声楽Ⅲ		○			1		○		○	18	教員5名で実施
	副科声楽Ⅳ		○			1		○		○	17	教員5名で実施
	副科電子オルガンⅠ		○			1				○	6	教員2名で実施
	副科電子オルガンⅡ		○			1				○	7	教員2名で実施
	副科電子オルガンⅢ		○			1				○	3	教員2名で実施
	副科電子オルガンⅣ		○			1				○	4	教員2名で実施
	副科ポピュラーピアノⅠ		○			1		○			11	
	副科ポピュラーピアノⅡ		○			1		○			8	
専門	副科ポピュラーピアノⅢ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ポピュラーピアノⅣ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ギターⅠ		○			1				○	10	
	副科ギターⅡ		○			1				○	13	
	副科ギターⅢ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ギターⅣ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッションⅠ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッションⅡ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッションⅢ		○			1				○		18 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッションⅣ		○			1				○		18 年度より開講
	ソルフェージュⅢ		○			1		○		○	62	教員5名で実施
	ソルフェージュⅣ		○			1		○		○	56	教員5名で実施
	ピアノ演奏テクニック	○				2		○			12	
	ピアノ演奏解釈	○				2		○			17	
	弦楽アンサンブルⅠ		○			1		○		○		17 年度より開講
	弦楽アンサンブルⅡ		○			1		○		○		17 年度より開講
	弦楽アンサンブルⅢ		○			1		○		○		18 年度より開講
	弦楽アンサンブルⅣ		○			1		○		○		18 年度より開講
	管楽アンサンブルⅠ		○			1		○		○		17 年度より開講
	管楽アンサンブルⅡ		○			1		○		○		17 年度より開講
	管楽アンサンブルⅢ		○			1		○		○		18 年度より開講
	管楽アンサンブルⅣ		○			1		○		○		18 年度より開講
	イタリア語ディクション	○				2		○			19	
	ドイツ語ディクション	○				2		○			14	
	重唱Ⅰ		○			1		○			8	
	重唱Ⅱ		○			1		○			8	
	合唱Ⅰ		○			1		○		○	53	教員2名で実施
	合唱Ⅱ		○			1		○		○	53	教員2名で実施
	合唱Ⅲ		○			1		○		○	58	教員2名で実施
	合唱Ⅳ		○			1		○		○	57	教員2名で実施
	演奏活動概論	○				2		○			19	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	演奏活動演習	○				2		○			10	
	管楽器ポピュラー実技	○				2				○		17 年度より開講
	ポピュラー音楽演習 I	○				2				○		17 年度より開講
	ポピュラー音楽演習 II	○				2				○		17 年度より開講
	ジャズ演奏法 I	○				2		○			44	
	ジャズ演奏法 II	○				2		○				17 年度より開講
	ピアノレッスンメソード	○				2		○				17 年度より開講
	教材研究	○				2		○				17 年度より開講
	吹奏楽指導法 I	○				2		○				17 年度より開講
	吹奏楽指導法 II	○				2		○				17 年度より開講
	グレード演習 I		○			1				○	14	
	グレード演習 II		○			1				○	15	
	グレード演習 III		○			1				○		17 年度より開講
	グレード演習 IV		○			1				○		17 年度より開講
	音楽科教育法	○				2		○			23	
	日本伝統音楽 I	○				1				○	27	
	日本伝統音楽 II	○				1				○	27	
	音楽表現 I		○			1				○		17 年度より開講
	音楽表現 II		○			1			○			17 年度より開講
	ピアノアンサンブル I		○			1		○			13	
	ピアノアンサンブル II		○			1		○			11	
	リコーダーアンサンブル I		○			1		○			7	
	リコーダーアンサンブル II		○			1		○			5	
	ラテンパーカッション I		○			1				○	43	
	ラテンパーカッション II		○			1				○		17 年度より開講
	和太鼓		○			1				○	22	
	アカペラコーラス I		○			1				○		17 年度より開講
	アカペラコーラス II		○			1				○		17 年度より開講
	親しみやすいうた I		○			1				○		17 年度より開講
	親しみやすいうた II		○			1				○		17 年度より開講
	ポピュラーアンサンブル I		○			1				○	23	
	ポピュラーアンサンブル II		○			1				○		17 年度より開講
	音楽鑑賞 I	○				2		○			50	
	音楽鑑賞 II	○				2		○			41	
	演奏発表	○				2		○				17 年度より開講
	合奏		○			1		○				17 年度より開講
	指揮法	○				2				○		17 年度より開講
	伴奏法	○				2		○				17 年度より開講
	簡易伴奏法	○				2		○			56	
	リトミック	○				2				○	39	
	諸民族の音楽	○				2		○			57	
	音楽療法概論	○				2			○		36	
	音楽療法各論 I（基礎・臨床）	○				2				○	29	
	音楽療法各論 II（技法）		○			1				○		17 年度より開講
	音楽療法各論 III（技法）		○			1				○		17 年度より開講
	音楽療法研究		○			1				○	16	
	音楽療法総合演習 I		○			1		○				17 年度より開講
	音楽療法総合演習 II		○			1		○				17 年度より開講
	音楽療法実習			○		3		○			20	
教職	教育原理	○				2			○		36	
	教育制度	○				2			○		39	
	教育心理学	○				2			○		31	
	教育相談	○				2			○		26	
	道徳教育論	○				1				○	22	
	特別活動論	○				1				○	22	
	教師論	○				2			○		31	
	教育方法論	○				2		○			25	
	生徒指導論	○				2				○	22	
	教育実習			○		5		○			22	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
音楽療法	医学概論	○				2				○	23	
	精神保健	○				2			○			17 年度より開講
	臨床心理学	○				2				○	20	
	障害児教育	○				2				○		17 年度より開講

【保育学科幼児教育専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養	哲学	○				2				○		開講せず
	日本文化論	○				2				○		18 年度より開講
	日本語学	○				2				○	63(2)	
	日本国憲法	○				2				○	63	
	社会生活論	○				2			○		61	
	社会学	○				2		○				開講せず
	自然と人間	○				2				○		開講せず
	生命科学	○				2				○		開講せず
	コンピュータ演習Ⅰ		○			1				○	64(2)	教員2名で実施
	コンピュータ演習Ⅱ		○			1				○	63(2)	教員2名で実施
	情報活用基礎	○				2				○		17 年度より開講
	英語Ⅰ		○			2		○		○	65(2)	
	英語Ⅱ		○			2		○		○	3(2)	
	体育理論	○				1		○			64(2)	
	体育実技			○		1		○			63(2)	
専門	社会福祉	○				2		○			63(2)	
	社会福祉援助技術		○			2				○	65	
	児童福祉Ⅰ	○			2			○			61(2)	
	保育原理Ⅰ	○				4				○	64(2)	
	養護原理	○				2				○	63	
	教育原理	○			2			○			63(2)	
	教師論	○			2					○	63(2)	
	教育制度	○			2			○			65	
	幼児教育史	○				2				○	29	
	教育課程論	○			2			○			67	
	教育相談	○			2					○	61(2)	
	発達心理学	○			2			○			63	
	カウンセリング	○				2		○			3	
	教育心理学	○			2			○			62	
	小児保健	○			2					○	63	教員3名で実施
	小児保健実習			○		2				○	65(2)	教員2名で実施
	小児栄養Ⅰ		○		2			○			63(2)	
	精神保健	○				2		○			68(2)	
	家族援助論	○				2		○			65	
	保育内容の研究(健康)		○		1			○			69(2)	
	保育内容の研究(人間関係)		○		1					○	77(2)	
	保育内容の研究(環境Ⅰ)		○		1					○	71(2)	
	保育内容の研究(環境Ⅱ)		○			1				○	74(2)	
	保育内容の研究(言葉Ⅰ)		○		1					○	88(2)	
	保育内容の研究(言葉Ⅱ)		○			1				○	88(2)	
	保育内容の研究(音楽表現Ⅰ)		○		1					○	65(2)	
	保育内容の研究(音楽表現Ⅱ)		○			1				○	65(2)	
	保育内容の研究(造形表現Ⅰ)		○		1			○			65(2)	
	保育内容の研究(造形表現Ⅱ)		○			1		○			77(2)	
	保育内容の研究(リズム表現)		○		1			○			69(2)	
	乳児保育Ⅰ		○			2		○			63(2)	
	障害児保育Ⅰ		○			1				○	65(2)	
	養護内容		○			1				○	64	
	音楽		○			2		○	○		64(2)	教員2名で実施
	器楽Ⅰ		○			1		○		○	64	教員6名で実施
	器楽Ⅱ		○			1		○		○	64	教員6名で実施

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	器楽Ⅲ		○			1		○		○	65	教員6名で実施
	器楽Ⅳ		○			1		○		○	65	教員6名で実施
	幼児音楽Ⅰ		○		1					○	50(4)	教員3名で実施
	幼児音楽Ⅱ		○			1				○	38(4)	教員3名で実施
	図画工作Ⅰ		○		2			○			78(2)	
	図画工作Ⅱ		○			2		○			41(2)	
	幼児体育Ⅰ		○		2			○			77(2)	
	幼児体育Ⅱ		○			2		○			50(2)	
	国語	○				2				○	63(2)	
	生活	○				2				○	61(2)	
	幼児英語指導法	○				2		○				17 年度より開講
	教育実習			○	5			○			65	
	保育実習Ⅰ			○		5		○			65	
	保育実習Ⅱ			○		2		○			65	
	保育実習Ⅲ			○		2		○			3	
	総合演習		○		2			○			65(2)	
	卒業研究		○		2			○			65	教員 13 名で実施

【保育学科保育専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
教養	哲学	○				2				○		開講せず
	日本文化論	○				2				○		18 年度より開講
	日本語学	○				2				○	63(2)	
	日本国憲法	○				2				○	59	
	社会生活論	○				2			○		63	
	社会学	○				2		○				開講せず
	自然と人間	○				2				○		開講せず
	生命科学	○				2				○		開講せず
	コンピュータ演習Ⅰ		○			1				○	63(2)	
	コンピュータ演習Ⅱ		○			1				○	63(2)	教員2名で実施
	情報活用基礎	○				2				○		17 年度より開講
	英語Ⅰ		○			2		○		○	59(2)	
	英語Ⅱ		○			2		○		○	19(2)	
	体育理論	○				1		○			65(2)	
	体育実技			○		1		○			63(2)	
専門	社会福祉	○			2			○			63(2)	
	社会福祉援助技術		○		2					○	60	
	児童福祉Ⅰ	○			2			○			63(2)	
	児童福祉Ⅱ	○				2		○			53(2)	
	保育原理Ⅰ	○			4					○	63(2)	
	保育原理Ⅱ	○				2				○		開講せず
	養護原理	○			2					○	63	
	教育原理	○			2			○			65(2)	
	教師論	○			2					○	63(2)	
	教育制度	○			2			○			59(2)	
	教育課程論	○			2			○			72	
	教育相談	○			2					○	64(2)	
	発達心理学	○			2			○			62	
	カウンセリング	○				2		○			8(2)	
	教育心理学	○			2			○			63(2)	
	小児保健	○			2					○	64	教員3名で実施
	小児保健実習			○		1				○	59(2)	教員2名で実施
	小児栄養Ⅰ		○		2			○			63(2)	
	小児栄養Ⅱ		○			1		○			55(2)	
	精神保健	○				2		○			65(2)	
	障害児臨床心理学	○				2				○	63(2)	
	家族援助論	○				2		○			59	
	保育内容の研究(健康)		○		1			○			61(2)	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	保育内容の研究(人間関係)		○		1			○		○	62(2)	
	保育内容の研究(環境Ⅰ)		○		1					○	70(2)	
	保育内容の研究(環境Ⅱ)		○			1				○	67(2)	
	保育内容の研究(言葉Ⅰ)		○		1					○	69(2)	
	保育内容の研究(言葉Ⅱ)		○			1				○	68(2)	
	保育内容の研究(音楽表現Ⅰ)		○		1					○	59(2)	
	保育内容の研究(音楽表現Ⅱ)		○			1		○			59(2)	
	保育内容の研究(造形表現Ⅰ)		○		1			○			71(2)	
	保育内容の研究(造形表現Ⅱ)		○			1		○			59(2)	
	保育内容の研究(リズム表現)		○		1			○			71(2)	
	乳児保育Ⅰ		○			2		○			63(2)	
	乳児保育Ⅱ		○			1				○	57	
	乳児保育Ⅲ		○			1				○	6	
	障害児保育Ⅰ		○			1				○	63(2)	
	障害児保育Ⅱ		○			1				○	65(2)	
	障害児保育Ⅲ		○			1				○	59(2)	
	養護内容		○			1				○	63	
	小児医学	○				2				○	13	
	療養保育	○				2				○	16	
	音楽療法	○				2		○			19	
	音楽		○			2		○	○		63(2)	教員2名で実施
	器楽Ⅰ		○			1		○		○	64	教員6名で実施
	器楽Ⅱ		○			1		○		○	64	教員6名で実施
	器楽Ⅲ		○			1		○		○	59	教員6名で実施
	器楽Ⅳ		○			1		○		○	59	教員6名で実施
	図画工作Ⅰ		○		2			○			77(2)	
	幼児体育Ⅰ		○		2					○	72(2)	
	国語	○				2				○	63(2)	
	生活	○				2				○	63(2)	
	幼児英語指導法	○				2		○				17 年度より開講
	教育実習			○	5			○			59	
	保育実習Ⅰ			○		5		○			59	
	保育実習Ⅱ			○		2		○			59	
	保育実習Ⅲ			○		2		○			13	
	特別実習Ⅰ			○		1		○			2	
	特別実習Ⅱ			○		1		○			0	
	特別実習Ⅲ			○		1		○			2	
	総合演習		○		2			○			60(2)	
	卒業研究		○		2			○			59	教員 13 名で実施

【専攻科生活文化専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	生活文化特論	○			2			○				前年度の
	地域文化特論	○			2			○				在籍者なし
	社会心理学特論	○			2			○				
	色彩学特論	○				2		○				
	人間関係特論	○				2		○				
	カラーコーディネート特論	○				2		○				
	ファッション文化特論	○				2		○				
	ファッションデザイン特論	○				2		○				
	アパレル製作特論	○				2		○				
	アパレル製作特別演習		○			2		○				
	アパレル CAD 特別演習		○			2		○				
	テキスタイル特論	○				2		○				
	テキスタイル特別演習		○			2		○				
	テキスタイルデザイン特論	○				2		○				
	調理学特論	○				2		○				
	食文化特論	○				2		○				
	フードコーディネート特論	○				2		○				
	食空間デザイン特論	○				2		○				
	テーブルコーディネート特論	○				2		○				
	プランニング演習特論		○			2		○				
	食生活とデザイン特別演習		○			2		○				
	特別研究	○			4			○				

【専攻科栄養専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	解剖生理学特論	○				2		○			3	
	解剖生理学特論演習		○			2		○				17 年度より開講
	病理学特論Ⅰ	○				2		○			2	
	病理学特論Ⅱ	○				2		○				17 年度より開講
	生化学特論Ⅰ	○			2			○			2	
	生化学特論Ⅱ	○				2		○			2	
	生化学特論Ⅲ	○				2		○			3	
	食品学特論Ⅰ	○			2			○			2	
	食品学特論Ⅱ	○				2		○			2	
	食品学特論Ⅲ	○				2		○			3	
	食品学特論実験			○		1		○			3	
	栄養学特論	○				2		○			3	
	栄養学特論実習			○		1		○			2	
	栄養指導特論Ⅰ	○			2			○			2	
	栄養指導特論Ⅱ	○				2		○			2	
	栄養指導特論実習			○		1		○			3	
	臨床栄養学特論Ⅰ	○				2				○	2	
	臨床栄養学特論Ⅱ	○				2				○	3	
	臨床栄養学演習	○				2		○				17 年度より開講
	公衆養学特論	○				2		○			2	
	食品衛生学特論Ⅰ	○				2		○			2	
	食品衛生学特論Ⅱ	○				2		○			2	
	公衆衛生学特論Ⅰ	○			2			○			3	
	公衆衛生学特論Ⅱ	○				2		○			3	
	調理科学特論	○				2			○		2	
	調理科学特論実験			○		1			○		3	
	臨地実習Ⅰ			○		1		○				開講せず
	臨地実習Ⅱ			○		1		○				開講せず
	社会福祉特論	○				2			○		3	
	生活経済学特論	○				2			○		2	
	外国文献講読Ⅰ		○			1			○		2	
	外国文献講読Ⅱ		○			1			○		2	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	情報処理特論	○				2				○	5	
	情報処理特論演習Ⅰ		○			1				○	2	
	情報処理特論演習Ⅱ		○			1				○	3	
	家政学特論	○				2			○			開講せず
	陶磁器文化論	○				2			○			開講せず
	ボランティア論	○				2			○			開講せず
	特別研究		○		8			○			5	教員6名で実施

【専攻科音楽専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	ピアノ奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	7	教員3名で実施
	ピアノ奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	6	教員3名で実施
	弦楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	0	
	弦楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	0	
	管楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	2	教員2名で実施
	管楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	0	
	打楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○			0	
	打楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○			0	
	声楽研究Ⅰ		○		2			○		○	3	
	声楽研究Ⅱ		○		2			○		○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅰ		○		2					○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅱ		○		2					○	0	
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅰ		○		2			○		○		17 年度より開講
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅱ		○		2			○		○		17 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅰ		○		2					○		17 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅱ		○		2					○		17 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅰ		○		2					○		17 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅱ		○		2					○		17 年度より開講
	副科ピアノ奏法研究Ⅰ		○			1		○		○	4	教員3名で実施
	副科ピアノ奏法研究Ⅱ		○			1		○		○	2	教員3名で実施
	副科管弦打楽器研究Ⅰ		○			1		○		○	4	教員4名で実施
	副科管弦打楽器研究Ⅱ		○			1		○		○	0	
	副科声楽研究Ⅰ		○			1		○		○	5	
	副科声楽研究Ⅱ		○			1		○		○	3	
	副科電子オルガン奏法研究Ⅰ		○			1				○		17 年度より開講
	副科電子オルガン奏法研究Ⅱ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅰ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅱ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅰ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅱ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅰ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅱ		○			1				○		17 年度より開講
	合奏研究		○			4		○			9	
	合唱研究Ⅰ		○			1		○			11	
	合唱研究Ⅱ		○			1		○			11	
	重奏Ⅰ	○				2		○			7	教員5名で実施
	重奏Ⅱ	○				2		○			6	教員5名で実施
	オペラ演習		○			2		○		○	4	教員2名で実施
	伴奏法研究Ⅰ		○			1		○			11	
	伴奏法研究Ⅱ		○			1		○			11	
	現代音楽作品研究Ⅰ	○				2				○		開講せず
	現代音楽作品研究Ⅱ	○				2				○		開講せず
	特別研究	○			2			○			11	教員6名で実施
	楽曲分析Ⅰ	○			2			○			11	
	楽曲分析Ⅱ	○			2			○			11	
	対位法Ⅰ	○				2		○			10	
	対位法Ⅱ	○				2		○			7	
	音楽史特講	○				2		○			10	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	音楽学	○			2				○		11	
	演奏活動Ⅰ	○				2		○			1	
	演奏活動Ⅱ	○				2		○			1	
	ディクションⅠ	○				2		○			4	
	ディクションⅡ	○				2		○			4	
	ドイツ語中級Ⅰ	○				2				○	11	
	ドイツ語中級Ⅱ	○				2				○	11	
	教育思想史	○				2			○			開講せず
	学外演奏		○		2			○			5	教員2名で実施
	修了演奏		○		4			○			10	

【専攻科音楽演奏専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
専門	ピアノ奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	7	教員3名で実施
	ピアノ奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	6	教員3名で実施
	ピアノ奏法研究Ⅲ		○		2			○		○	4	教員3名で実施
	ピアノ奏法研究Ⅳ		○		2			○		○	3	教員3名で実施
	弦楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	0	
	弦楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	0	
	弦楽器奏法研究Ⅲ		○		2			○		○	0	
	弦楽器奏法研究Ⅳ		○		2			○		○	0	
	管楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○		○	2	教員2名で実施
	管楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○		○	4	教員2名で実施
	管楽器奏法研究Ⅲ		○		2			○		○	0	
	管楽器奏法研究Ⅳ		○		2			○		○	0	
	打楽器奏法研究Ⅰ		○		2			○			0	
	打楽器奏法研究Ⅱ		○		2			○			0	
	打楽器奏法研究Ⅲ		○		2			○			0	
	打楽器奏法研究Ⅳ		○		2			○			0	
	声楽研究Ⅰ		○		2			○		○	5	
	声楽研究Ⅱ		○		2			○		○	3	
	声楽研究Ⅲ		○		2			○		○	0	
	声楽研究Ⅳ		○		2			○		○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅰ		○		2					○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅱ		○		2					○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅲ		○		2					○	0	
	電子オルガン奏法研究Ⅳ		○		2					○	0	
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅰ		○		2			○		○		17 年度より開講
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅱ		○		2			○		○		17 年度より開講
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅲ		○		2			○		○		18 年度より開講
	ポピュラーピアノ奏法研究Ⅳ		○		2			○		○		18 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅰ		○		2					○		17 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅱ		○		2					○		17 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅲ		○		2					○		18 年度より開講
	ギター奏法研究Ⅳ		○		2					○		18 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅰ		○		2					○		17 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅱ		○		2					○		17 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅲ		○		2					○		18 年度より開講
	ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅳ		○		2			○		○		18 年度より開講
	副科ピアノ研究Ⅰ		○			1		○		○	4	教員3名で実施
	副科ピアノ研究Ⅱ		○			1		○		○	2	教員3名で実施
	副科ピアノ研究Ⅲ		○			1		○		○	5	教員3名で実施
	副科ピアノ研究Ⅳ		○			1		○		○	4	教員3名で実施
	副科管弦打楽器研究Ⅰ		○			1		○		○	4	教員4名で実施
	副科管弦打楽器研究Ⅱ		○			1		○		○	2	教員4名で実施
	副科管弦打楽器研究Ⅲ		○			1		○		○	0	
	副科管弦打楽器研究Ⅳ		○			1		○		○	0	
	副科声楽研究Ⅰ		○			1		○		○	5	
	副科声楽研究Ⅱ		○			1		○		○	3	
	副科声楽研究Ⅲ		○			1		○		○	0	
	副科声楽研究Ⅳ		○			1		○		○	0	
	副科電子オルガン奏法研究Ⅰ		○			1				○	0	
	副科電子オルガン奏法研究Ⅱ		○			1				○	0	
	副科電子オルガン奏法研究Ⅲ		○			1				○	0	

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門	副科電子オルガン奏法研究Ⅳ		○			1				○	0	
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅰ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅱ		○			1		○		○		17 年度より開講
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅲ		○			1		○		○		18 年度より開講
	副科ポピュラーピアノ奏法研究Ⅳ		○			1		○		○		18 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅰ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅱ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅲ		○			1				○		18 年度より開講
	副科ギター奏法研究Ⅳ		○			1				○		18 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅰ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅱ		○			1				○		17 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅲ		○			1				○		18 年度より開講
	副科ポピュラーパーカッション奏法研究Ⅳ		○			1				○		18 年度より開講
	合奏研究Ⅰ		○		4			○			9	
	合奏研究Ⅱ		○		4			○			14	
	合唱研究Ⅰ		○		1			○			11	
	合唱研究Ⅱ		○		1			○			11	
	合唱研究Ⅲ		○		1			○			8	
	合唱研究Ⅳ		○		1			○			7	
	重奏Ⅰ		○			2		○			7	教員5名で実施
	重奏Ⅱ		○			2		○			6	教員5名で実施
	室内楽Ⅰ		○			2		○			9	
	室内楽Ⅱ		○			2		○			9	
	オペラ演習Ⅰ		○			2			○	○	4	教員2名で実施
	オペラ演習Ⅱ		○			2			○	○	4	教員2名で実施
	スコア・リーディング	○				2		○			9	
	DTM演習	○				2		○			9	
	伴奏法研究Ⅰ		○			1		○			11	
	伴奏法研究Ⅱ		○			1		○			11	
	ピアノ作品研究Ⅰ	○				2		○			8	
	ピアノ作品研究Ⅱ	○				2		○			8	
	管弦打楽器作品研究Ⅰ	○				2		○			4	
	管弦打楽器作品研究Ⅱ	○				2		○			2	
	声楽作品研究Ⅰ	○				2		○			0	
	声楽作品研究Ⅱ	○				2		○			0	
	現代音楽作品研究Ⅰ	○				2				○		開講せず
	現代音楽作品研究Ⅱ	○				2				○		開講せず
	特別研究	○			2			○			11	教員6名で実施
	楽曲分析Ⅰ	○			2			○			11	
	楽曲分析Ⅱ	○			2			○			11	
	対位法Ⅰ	○				2		○			10	
	対位法Ⅱ	○				2		○			7	
	音楽史特講	○				2		○			10	
	音楽学	○			2				○		11	
	演奏活動Ⅰ	○				2		○			1	
	演奏活動Ⅱ	○				2		○			1	
	ディクションⅠ	○				2		○			4	
	ディクションⅡ	○				2		○			4	
	ドイツ語中級Ⅰ	○				2				○	11	
	ドイツ語中級Ⅱ	○				2				○	11	
	教育思想史	○				2			○			開講せず
	発達心理学	○				2			○		5	
	生理学	○				2			○		3	
	美学	○				2			○		9	
	音楽科教授法Ⅰ	○				2			○		5	
	音楽科教授法Ⅱ	○				2			○		5	
	合奏指揮法	○				2		○			6	
	合唱指揮法	○				2			○		3	
	日本伝統音楽研究	○				2				○	9	
	学外演奏Ⅰ		○		2			○			5	教員2名で実施
	学外演奏Ⅱ		○		2			○			9	
	修了演奏Ⅰ		○		4			○			10	
	修了演奏Ⅱ		○		4			○			9	
	教育課程研究		○			2				○		開講せず
	道徳教育研究		○			1				○	8	
	特別活動研究		○			2				○	8	

【専攻科保育専攻】

種別	授業科目名	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
	教育学特論Ⅰ	○			2			○				前年度の
	教育学特論Ⅱ	○				2		○				在籍者なし
	教育心理学特論Ⅰ	○			2			○				
	教育心理学特論Ⅱ	○				2		○				
	保育学特論	○			2			○				
	児童福祉特論	○				2		○				
	子ども文化論	○				2		○				
	音楽特別研究		○		2			○				
	図画工作特別研究		○		2				○			
	体育特別研究		○		2			○				
専	保育内容特別研究(健康)	○				2		○				
門	保育内容特別研究(人間関係)	○				2		○				
	保育内容特別研究(言葉)	○				2				○		
	保育内容特別研究(環境)	○				2				○		
	保育内容特別研究(表現Ⅰ)	○				2		○				
	保育内容特別研究(表現Ⅱ)	○				2		○				
	保育特別演習		○			2		○				
	子育て支援論	○				2		○				
	総合演習研究	○				2		○				
	小児栄養特論	○				2		○				
	専攻科実習			○		2		○				
	特別研究	○			4			○				

2.1.3　教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス等

【コミュニティ生活学科】

コミュニティ生活学科は、「地域総合科学科」として、学生のみならず地域社会に開かれた高等教育提供の場としての将来像を抱き、様々な改革に取り組んでいる。平成 16 年度からコース制を廃止し、学生の興味・関心・進路に合わせて自由に科目を選択できるフィールド&ユニット制を導入したことも大きな改革の１つである。

専門教育においては、生活に関する知識・技術（衣・食・住・人間関係）を基礎としながら、その上でコミュニティ参画能力及びアソシエーション参画能力を育成するための様々な科目で編成されている。具体的には、ベーシック、ファッション、フード、ビジネス、クリエイト、検定という６つのフィールドを設け、学生が自らの将来に有効と思われる科目を各フィールドから自由に選択できるようにしている。必修科目はベーシックフィールドにある７科目のみで、選択科目は 124 科目が各フィールドに配置され、半数以上が演習・実習の形態をとっている。また、ファッション、フード、ビジネス、クリエイトの４フィールド内にある科目については、関連性の強い２科目を組み合わせた「ユニット」を選択させている。原則２科目セットで履修させるこの方法は、教育効果を格段に高めると考えている。そして、このシステムをフィールド&ユニット制と呼んでいる。

このように本学科では、多彩な科目が配置され、それを自由に選択できるので、多様な学生の受け入れが可能である。学生は自分の将来の目標に合わせて２年間の履修計画を立てるが、一人として同じものがないほどである。またセミナー&チューター制を採用しているので、履修指導に関しても各学生の目標が確実に達成できるようにきめ細かい指導・助言を行っている。

教養教育に関する科目は 14 科目を開設しているが、その多くは社会との関わりに重点を置き、古典的なリベラルアーツに留まらず、一般社会に入っていくための知識や技術（コミュニケーション能力を含む)、実務教育全般も広義の教養教育と考えている。その意味で、教養科目だけでなく専門科目（特にベーシック、ビジネス、クリエイトの各フィールドに配置されている科目）を含めて教養教育の役割を担っていると考えている。

【食物栄養学科】

栄養士養成施設として厚生労働省から指定を受けている食物栄養学科では、法令に基づいた栄養士関連科目を主軸に、応用力向上のための選択科目、フードスペシャリスト資格取得のための科目を配置し、即戦力を持つ栄養士育成に努めている。即戦力を持つ栄養士については「①科学的な知識に基づいた指導力、②確かな調理技術、③豊かな心、の３つを備えた栄養士」という具体的な項目を設定し、これらの項目を学生に周知すると同時に、達成されるように授業が展開されている。

卒業要件として教養科目 12 単位、専門必修科目 28 単位、専門選択科目 22 単位の合計 62 単位以上を定めているが、栄養士資格を取得して卒業するためには 54 単位以上の専門科目が必要であり、専門必修と専門選択の区別の意味は小さい。特筆すべきは、すべての実習・演習科目（教養科目を含む）は、定員 50 名のクラスを２つに分けて、25 名単位で授業を行っていることである。この少人数制は必ずしも他の栄養士養成施設では行われておらず、きめ細かい指導をめざす本学科の特徴と言える。

これらの専門科目によって、大学生として、あるいは栄養士としての基礎的・科学的な知識と調理技術や献立作成技術の教習は可能であるが、指導力や豊かな心については授業

だけで培うことは困難である。この授業のみでは補えない領域についての教育をセミナーⅠ・Ⅱ及び卒業報告に求めている。この２年間連続する少人数の指導体制の中で、卒業報告（卒業研究に相当）のための研究指導を軸に、礼儀やマナーなどの躾、学生生活に関する指導やカウンセリング、進路相談、就職指導、ボランティア活動なども行っている。研究指導は２年間を通じて行い、その成果は学会形式の「卒業報告発表会」で各人に発表させている。卒業報告発表会では講演要旨も印刷配付され、質の高い研究成果が毎年発表されている。研究と発表という２年にわたる実践的な学習活動は論理的な指導能力の育成に有益である。研究指導以外については、専門教育というよりもむしろ教養教育と言えるべきもので、社会に送り出す学生に豊かな心を育むための有効な指導手段となっている。また、年４～５回の合同セミナー（クラス全員が集合し、クラス主任が指導する）を行って、就職ガイダンス、集団行動などについての指導も行っている。ボランティア活動として、大学近隣に居住の一人暮らし高齢者へのお弁当配食サービス（４～５回／年）やクリスマス会開催を長束西学区社会福祉協議会の協力の下に実施している。毎年初回の配食弁当の献立は高校生からコンテスト形式で募集し（「お弁当献立コンテスト」）、最優秀の献立を用いて調理している。これらの活動は教育課程と連動させることによって、究理実践の達成に少なからず貢献していると考えている。

なお、平成 17 年度からは栄養教諭二種免許状取得の課程認定を受け、教職科目を追加している。

【音楽学科】

音楽学科は、演奏家や音楽教育者を育成する芸術分野の高等教育機関としての役割を果たしてきたが、これと並行して地域への文化的貢献にも積極的に取り組んできた。その結果として、音楽系大学では全国で初めて地域総合科学科として適格認定を受け、平成 16 年度から「音楽教育・二つの途」をテーゼとする教育を展開している。すなわち、従来どおりの高い音楽性を追求する途と、音楽教育により人格形成を図り社会に貢献できる人材を養成する途、この「二つの途」の音楽教育によって、地域のニーズに応えようとしている。

そのため音楽学科では、他の音楽大学では見られない工夫をしている。１つには専攻分離やコース制を廃止して科目選択の幅を広げたことであり、もう１つはレッスン（主科実技 45 分・副科実技 22.5 分）を選択科目にしていることである。特にレッスンを選択科目にしたことで、最大で 67.5 分のレッスンが受けられるようになった。また副科実技だけを選択（ただし４科目まで）することもできる。さらに、クラシックに加えてポピュラーや日本伝統楽器等のレッスンが受けられることも特色と言える。加えて、「音楽環境論」を専門の必修科目とし、音楽自体が持つ社会性を理解させている。

また、フィールド＆ユニット制を導入して、関連性の強い科目をまとめて「ユニット」としているので、学生は自分の目標に合った科目選択ができやすくなっている。

授業形態では、講義 51 科目、演習 131 科目、実習２科目となっていて、大半が演習科目で占められている。必修と選択の比率は４：78 で、一見バランスを欠いたように見えるが、これも「音楽教育・二つの途」をテーゼとする教育を展開している本学科の特色の１つと言える。

授業のためのクラス編成は、授業目的、学生の進度・能力に応じて適切な人数となるよう配慮している。講義は 80 名以内、グループレッスンが２～10 名程度、アンサンブルは 50 名以内を限度としている。

教養に関する科目は 12 科目を開講している。中でも、「コミュニティ論」と「人間関係論」はコミュニティ参画能力の育成につながる科目であり、先に述べた「音楽環境論」と共に中心的科目として位置づけ、積極的に受講するように奨励している。

【保育学科】

保育学科は幼児教育専攻と保育専攻を設けているが、どちらも幼稚園教諭免許・保育士資格の両方を卒業と同時に取得することができる。専門教育は、幼稚園教諭免許と保育士資格を取得するために指定されている科目をもとに、２つの専攻でそれぞれの特色科目として、幼児教育専攻では音楽・図画工作・体育に関する領域の科目を、保育専攻では乳児保育・障害児保育・小児保健に関する領域の科目を充実させている。

教育目標である「実力と熱意をもった保育者の養成」について、多くの幼稚園、保育所から評価されているが、その要因の１つとして、学生のピアノ演奏技術のレベルの高さがあげられる。保育学科ではすべての入学試験においてピアノ実技試験を課しているので、一定レベルの技術を持った学生が入学している。その学生に対して２年間（４学期）連続してレッスン（器楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）を行うので、レベルの高い演奏技術を身につけさせることができる。

また、「子どもを愛し、子どもの可能性を引き出し、伸ばし、育てるのにふさわしい保育者、そして現場に信頼される実力ある保育者の養成」という具体的な目的の実現のために、運動会や発表会等、シミュレーション的な行事も実施している。これらの実施は多くの努力を学生に課すことになるが、究理のみならず実践することの重要性を理解させることに非常に有効である。

さらに、幼稚園実習、保育所実習、施設実習の事前・事後指導を通して、挨拶、身だしなみ、ルールの遵守など、厳しく指導している。特に、学科開設当初から採用している実習訓「早朝出勤・先手挨拶・定時提出・率先清掃」を日常的なスローガンとして学生に周知徹底させ、大きな効果を上げている。このことも、多くの幼稚園、保育所から好評を得る結果になっている。

教養に関する科目は、15 科目を開設しているが、中でも「社会生活論」では、保育者として必要な社会生活に関わる幅広いテーマについて、実践的に指導している。

【専攻科】

各専攻科の教育目標を達成するために、専攻ごとに熟慮の上必要な教育課程を構成している。各専攻の要点は次のとおりである。

生活文化専攻は１年制で、学生のニーズに合わせ、衣食住のうち特にファッション、フードの領域にしぼって科目を開設している。資格取得のための科目は設定していない。

栄養専攻は２年制で、「深い専門性を備えた栄養指導者」の育成のため栄養指導に関する専門的な勉学ができることを基礎にしており、修了のための要件は 42 単位以上を取得することである。これに加えて、４年制栄養士養成施設の修了要件 62 単位が達成できるように科目を開設している。62 単位以上の単位を取得すれば大学評価・学位授与機構への論文提出による学士号取得が可能である。選択科目として管理栄養士国家試験の受験にも対応できる科目と内容を充実させ、深い専門性を備えた栄養指導者の育成が実施できている。

音楽専攻は１年制で、音楽の専門家、演奏家をめざす学生が深く音楽を学ぶために必要な科目を開設している。資格取得のための科目は設定していない。

音楽演奏専攻は２年制で、音楽専攻よりもさらに専門性を深めることを目標としている。

また、62 単位以上の単位を取得して大学評価・学位授与機構へ演奏録音を提出すれば学士号取得が可能で、中学校教諭一種免許状の取得も可能である。

保育専攻は１年制で、保育の現場でリーダーとして活躍するために必要な深い専門性を育成するための科目を開設している。資格取得のための科目は設定していない。

2.1.4　教育課程等を履修することによって取得が可能な免許・資格

教育課程の履修で取得できる資格

学科等		取得可能な免許・資格
コミュニティ生活学科		中学校教諭二種免許状(家庭)　フードコーディネーター3級
食物栄養学科		栄養士免許証　栄養教諭二種免許状　フードスペシャリスト資格認定証
音楽学科		中学校教諭二種免許状(音楽)　音楽療法士2種　社会福祉主事任用資格
保育学科	幼児教育専攻	幼稚園教諭二種免許状　保育士資格
	保育専攻	
専攻科音楽演奏専攻		中学校教諭一種免許状(音楽)

教育課程外で取得できる資格

学科等		取得可能な免許･資格
コミュニティ生活学科		訪問介護員2級* 幼稚園教諭二種免許状**
食物栄養学科		訪問介護員2級*
音楽学科		訪問介護員2級* 幼稚園教諭二種免許状**
保育学科	幼児教育専攻	訪問介護員2級*
	保育専攻	
全専攻科		訪問介護員2級*

*訪問介護員２級は全学的に開設している有料の講座で取得できる。

**保育学科の科目を履修することによって幼稚園教諭二種免許状を取得できる。その際の条件として、保育学科入学試験と同レベルのピアノ実技試験に合格することとなっている。

2.1.5　選択科目を学生が自由に選択できること

すべての学科、専攻科において、選択科目は自由に選択できるように設定されている。学生便覧の学科課程表（pp. 29-63）には、必修科目と選択科目の区別が明示されている。

2.1.6　卒業要件単位数及びその他の卒業要件と周知の方法

各学科とも教養科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上の合計 62 単位以上の取得を卒業要件としているが、履修規定として専門科目 50 単位の内訳（必修科目と選択科目）を各学科で定め、それぞれ基幹的な科目を設定している。

卒業要件単位数

学科	教養科目	専門必修科目	専門選択科目	備考
コミュニティ生活	12 単位以上	12 単位	38 単位以上	専門必修科目に卒業研究を含む
食物栄養	12 単位以上	28 単位以上	22 単位以上	専門必修科目に卒業報告を含む
音楽	12 単位以上	8単位	42 単位以上	専門選択科目に実技科目8単位以上を含む
保育	12 単位以上	28 単位以上	22 単位以上	専門必修科目に卒業研究を含む

専攻科では、生活文化専攻 30 単位以上、栄養専攻 48 単位以上、音楽専攻 24 単位以上、音楽演奏専攻 40 単位以上、保育専攻 30 単位以上をそれぞれ修了の要件と定めているが、履修規定として専門科目の内訳（必修科目と選択科目）を各専攻科で定め、それぞれ基幹的な科目を設定している。

修了要件単位数

専攻科	専門必修科目	専門選択科目
生活文化専攻	10 単位	20 単位以上
栄　養　専　攻	16 単位	32 単位以上
音　楽　専　攻	14 単位	10 単位以上
音楽演奏専攻	22 単位	18 単位以上
保　育　専　攻	16 単位	14 単位以上

なお、単位取得の要件とは別に、授業料等の納付金の完全納付を卒業証書ならびに修了証書授与の要件と定めている。

卒業要件の周知については、学生便覧及び学生生活の手引きに明記し、各種オリエンテーションにおいてこれらを使いながら解説をしている。

2.1.7　教育課程の見直し、改善

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

本学開学当初は、被服科の１学科だけであったが、コミュニティ生活学科はその流れを受け継ぐ学科である。本学は、社会の変化や学生のニーズに合わせて様々な改革を行ってきたが、それはコミュニティ生活学科に至るまでの改革・改編の歴史でもある。

昭和 63 年に被服学科を生活文化学科に名称変更した頃は、当時のニーズにマッチして多くの学生を集めていた。しかし、平成３年をピークに志願者が減り続け、平成８年以降は定員割れの状態が続いた。そのような状況の中で、毎年のように教育課程の見直しを図り、コースの改編、パソコンを使った授業（デザインや被服構成等）を導入するなど、様々な改善を行ってきた。

この常に改革・改善していく姿勢が結実したのが、平成 15 年に開設したコミュニティ生活学科である。この改組によって、定員充足率が前年度の 73.6%から 124.1%に上昇した。しかし、その後も改革を続け、地域総合科学科としてより柔軟なカリキュラムにするために、平成 16 年度からコース制を廃止して、フィールド&ユニット制を導入した。

以上のように、本学科では、常に教育課程の見直しと改善に努めている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

教育課程について毎年後期（10～11 月）に見直しを行っている。栄養士法改正により平成 14 年度入学生から教育課程を再編し、さらに学力向上のため「入門生化学」及び「栄養生理学」を新規に開講した。また、栄養教諭免許取得のための教職科目追加による学生の負担軽減のため、学習内容の一部を他の科目に含ませる工夫を凝らした上で「環境衛生学」及び「食商品学」を閉講した。専攻科栄養専攻では管理栄養士国家試験準備に対応させるために科目調整を行った。

【音楽学科】(学科長の見解)

教育課程の改善には、①専任教員の協議による検討、②授業改革プロジェクトチーム（５名で編成）による検討、を行っている。ただ、各教員の専門分野が大きく異なるために教育課程の改善に対しての意欲には差があるのが現状である。本学の現状認識、学科方針の

理解を促進・統一し、教員の改善への意欲を喚起することが緊急の課題となっている。

【保育学科】(学科長の見解)

保育学科ではこの３ヶ年、学科の専攻分離や定員増のための改革に合わせて、教育課程の積極的な見直しを進めてきた。そして、学科開設以来の伝統でもある幼児教育の指導技術向上のための、音楽、図画工作、体育等に関する科目のさらなる充実や、保育現場で今強く求められている課題に対応するための、乳児保育、障害児保育、小児保健等に関する領域の充実を行ってきた。これらの改編に当たっては、科会で養成施設の情報や幼稚園・保育所等の保育現場の保育ニーズを分析しあって、改善を行ってきた。

2.2　授業内容・教育方法

2.2.1　授業計画（シラバス）

授業計画（通称、シラバス）を作成し、「コミュニティ生活学科・音楽学科用（専攻科生活文化専攻・音楽専攻・音楽演奏専攻を含む)」、「食物栄養学科・保育学科用（専攻科栄養専攻・保育専攻を含む)」の２分冊で構成している。記載内容は、原則として授業の目的、15 回分の授業計画、評価方法、指定図書としている。

2.2.2　学生の履修態度、学業への意欲等について

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

コミュニティ生活学科には多様な学生が入学し、その履修態度や学習意欲も様々であるが、フィールド&ユニット制の導入によって科目選択の自由度が増し、全体的に学習意欲が高くなったと考えている。平成 16 年度の授業評価アンケートの結果では、どれくらい積極的に授業に参加したかという自己評価（10 段階）も高い値を示している（１年前期 36 科目の平均 8.1、１年後期 42 科目の平均 8.3、２年前期 33 科目の平均 8.1、２年後期 24 科目の平均 8.0)。しかし、授業担当者からは、私語が多く学習意欲に乏しいという指摘も受けている。このような指摘を真摯に受けとめ、全学生がそれぞれの目標に向かって意欲的に取り組むような学科にしていきたいと考えている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

ユニバーサル・アクセスの時代に入り、入学生の多くが自宅での日常的な学習習慣を持たない傾向が強くなっている。また、入学直後には授業中の私語や携帯電話使用などが問題となっていた。これに対し、「授業は本来、個人で受けるもの」ということを、入学前、入学直後、オリエンテーション・キャンプ、合同セミナーなどで再三にわたり語りかけることによって、また丹田呼吸法を取り入れた「礼三息」を合同セミナーや講義で始めと終わりに取り入れることによって、次第に静粛に講義を受ける習慣、日常的な学習習慣についての理解が深まることを経験している。また、２年次には実験や実習（４種類の校外実習を含む）が多く配置されているため、専門的な職業への動機づけにも成功している。

【音楽学科】(学科長の見解)

現在、音楽学科の学生の履修態度は良好であり、学習意欲は高いと実感している。これらは、地域総合科学科としての適格認定を受けて「音楽教育・二つの途」を宣言したこと、開講科目を大幅に増設したこと、必修科目を大幅に減らして科目選択の自由度を拡大したこと、フィールド&ユニット制やセミナー&チューター制を導入したことなど、学生のニーズに応える改革を実現できたことによるものと考える。

以前は、演奏技術に価値を置く一元的思考が教員にも学生にも強く、進度が遅れた学生や音楽を専門とする職業に就かない学生には望ましい環境とは言えなかった。しかし、自己点検・評価を繰り返したことによって、現在は、音楽教育の目的が多様であることを認め、それぞれの意識を尊重しあう環境に変化してきた。これが、学生が各自の目標に向けて自信をもって学習できている一番の要因であると考えている。

【保育学科】(学科長の見解)

保育学科の学生は「保育者になる」という将来の目標が明確な者がほとんどであり、学業への意欲も高い状態が持続しており履修態度も概ね良好であると言える。しかし、入学後保育現場の厳しさを実感するにつれて、自信をなくし進路変更等を申し出る者も少しずつ増えつつある。そのために、学科教員の協力体制によるきめ細かな個別指導や教育実習・保育実習のための総合的な指導など、学習意欲向上のための対応策の工夫に努めている。

2.3 教育改善への努力

2.3.1 学生による授業評価

平成 11 年度に学生部主導で「授業改革プロジェクト」を発足させ、各学科が独自の方法で授業改革を進めてきた。この改革の中で、学生による授業評価アンケートをそれぞれの学科が行っている。授業評価アンケートの内容は学科によって多少の差はあるものの、概ね次のようなものである（例：食物栄養学科)。設問の前半は学生自身の自己点検・評価に関わる項目、後半は教員の授業展開に関わる項目としている。各学科は、このようなアンケートの結果を参考に授業改善を行っている。

この学生による授業評価については効果的な点も認めているが、改善の余地があると考えている。つまり、学生に対して「評価」という行為の教育・指導が徹底されておらず、真摯な態度でアンケートに回答できる学生ばかりではないということが問題となっている。この問題を解決するために、授業直後の評価だけでなく、卒業の直前に単位取得とは無関係な状態で、別のアンケートを実施している学科もある。いずれにしても、今後も学生による授業評価を継続しながら授業改革を推し進めていくべきであると考えている。

1）私は、この授業科目に積極的な興味を持っている。
2）私は、この授業への出席状況（遅刻・早退も含めて）が良かった。
3）私は、この授業での出席態度（積極性、集中力、マナー）は良かった。
4）私は、授業時間以外でもこの科目を勉強（予習・復習）した。
5）私は、この授業内容に関して図書館を利用した。
6）この授業は当初の予定（シラバス）どおりに進められた。
7）この授業の目標がどこにあるか毎回、明確に示された。
8）先生の話し方・口調がはっきりとしていた。
9）先生の説明は分かりやすかった。
10）黒板・プリントなどが分かりやすかった。
11）授業内容は理解できた。
12）先生は熱心に授業に取り組んでいると思う。
13）先生は授業を静かに保つ配慮をしてくれていると思う。
14）先生は質問に応じてくれた。
15）この授業に私は満足している（後輩にもすすめたい)。
16）自由記入欄：良い点・悪い点、希望などを自由に記入してください。

2.3.2　授業改善への組織的な取組み状況

（１）授業改革プロジェクト

先に述べたように、平成 11 年度後期から学生部主導で授業改革プロジェクトを発足させた。各学科から授業改革プロジェクト実施委員を選出し、担当科目についての授業改革を行った。その結果をレポートとして提出し、全教員の参考とした。

平成 11～13 年度までの２年半では、学期ごとに具体的な努力目標（下記参照）を決めて取り組んだ。平成 14～16 年度の３ヶ年は、授業評価アンケートの導入と実施に取り組んだ。

第一次（平成 11 年後期）

①学生が多様化していることを意識しながら授業を展開する。

②学生の意欲と習熟度を高める方法を考える。

第二次（平成 12 年前期）

①学生の意欲と習熟度を高める方法を考える。

②遅刻・欠席の減少方策と欠席学生に対するフォローの方法を考える。

第三次（平成 12 年後期）

①あらかじめ 15 回分の授業計画を作成し、その計画に沿って授業を進める。

②具体的な教育効果を計る指標として、学生による授業評価を実施する。

第四次（平成 13 年前期）

①各教員が感じている問題点を解決するために個別の目標を立てる。

②具体的な教育効果を計る指標として、学生による授業評価を実施する。

第五次（平成 13 年後期）

①教員各自の「教える力」を向上していく。

②学習に関して多くの学生に共通する問題を確認し、その対応を考える。

③授業評価のチェックポイントとして共通の項目を取り入れる。

なお、取組みの詳細は、「授業改革プロジェクト報告書」（11～13 年度版、14 年度版、15 年度版、16 年度版）」として冊子にまとめている。

プロジェクト発足当時は実施について「面倒くさい、仕事が増える」などといったやや批判的な風潮が感じられたが、年を経るごとに各学科ともその重要性を認識し、学生部からの提案というよりも各学科独自の方策を考案して授業改革を実施している。

（２）Faculty Development 委員会

平成 16 年度から運営組織について自己点検・評価を行い、平成 17 年度から大学の運営組織を改め、改革推進部の下に Faculty Development 委員会（ＦＤ委員会）を設置し、授業改善のみならず教育全般についての改革を行う体制を整えた。基本的な方針として、これまで継続してきた「自己点検・評価 self study」に加え、「同僚による相互評価 peer review」を同時に行うこととした。具体的には、行動目標及び自己点検・評価を活動報告と共に提出・回覧し、教員個人としての成長と大学や学科などの組織としての成長とを同時に達成できることを期待している。また、同僚による相互評価については、授業の相互参観なども計画に入れられており、教員が互いの「教える力」の向上に貢献できるような体制が整いつつある。

（３）Stuff Development 委員会

上記のＦＤ委員会設置と同時に Stuff Development 委員会（ＳＤ委員会）が設置された。本来は事務職の業務改善が目的の委員会であるが、本学では教職員が一体となって改革を行うことが伝統になっており、またＦＤ委員会とＳＤ委員会が互いに「同僚による相互評価」を行うことになったので、授業の改善にも事務職員が積極的に関わることになった。例えば、事務室に来る学生を見て事務職員が感じることや非常勤講師から得た学生に関する情報など、これまでにも授業の改善につながる話が事務職員から教員へ伝えられ、参考にされてきた。今後はそれを組織的に実施することで、さらなる授業改善が期待できる。

（学長の見解）

ＦＤ委員会、ＳＤ委員会の運営は、peer review という評価文化への意識改革が基点になるが、これが本学で完全に成熟しているとは言い難いところがある。しかし、教育改革の基本であるので、今後とも進歩・発展することを祈っている。

2.3.3　担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制

【コミュニティ生活学科】（学科長の見解）

コミュニティ生活学科は、専門科目を６つのフィールド（ベーシック、ファッション、フード、ビジネス、クリエイト、検定）に分類し、学科の専任教員をフィールド担当者として配置している。各フィールドの担当者は、フィールド内の科目に改善点があると判断した場合、その授業担当者と一緒に検討するようにしている。また、毎週１回開かれる科会（学科の専任教員による会議）においても、学科で開講するすべての科目について改善を検討している。

さらに、非常勤講師（兼任教員）との意思の疎通に関しては、意見交換会を年度末に開き、本学科の教育方針について理解を求めると共に、非常勤講師からの指摘等も真摯に受けとめ、授業の改善を図っている。

したがって、教員間の意思の疎通、協力体制に問題はないと考えている。

【食物栄養学科】（学科長の見解）

専任教員、非常勤講師を含めて意思の疎通が図られていると思われる。特に調理実習初級・中級・上級、解剖生理学Ⅰ・Ⅱのように内容が連続した科目で教員が異なる場合には、毎年または学期ごとに綿密な打ち合わせを行い、学習項目の連続性や重複の回避について調整を行っている。また、学生に対する指導上の問題についても常に意見交換を行っている。しかし、関連する科目間の授業協力、例えば進度調整や内容の分担等については十分とは言い難い状態で、これから改善していかなければならないと考えている。

【音楽学科】（学科長の見解）

音楽学科は、多種の実技レッスン科目を開設しているので、非常勤講師への依存度は高い。そのため、年度当初に、非常勤講師全員に学科の教育方針や実情を詳しく説明し、理解を求めている。また、非常勤講師と学科長との意思疎通を円滑にするために、「非常勤講師月末報告書」の提出を求め、有意義な情報交換、相互理解の手段としている。

専任教員間においては、月２回の定例科会と臨時科会を開催し、担当授業運営状況等について相互理解を深めると共に、重要案件については文書による意見開示を全員で行い、確実な協力体制の実現に向けて努力している。

【保育学科】(学科長の見解)

保育学科では、授業の有効性を高めるために様々な取組みを行っている。科会では、各授業相互の連携について定期的に協議しており、特に各授業科目のシラバス作成に際しては、資格取得に関わる根拠法令との整合性の検討や関連科目間での内容の調整を行っている。また各専任教員の専門領域について、非常勤講師との意思疎通を図るために科会とは別個に協議会等を開き、各授業科目の目標や指導方法についての再確認、授業実施上の問題点についての対応策などを検討している。

2.4 特記事項

2.4.1 学生の「自己点検・評価」

本学では、開学以来、「自立」をテーマとして教育を展開してきた。しかしそれは、「経済的自立（＝就職すること)」をめざす教育に偏りがちであった。そこで、「ルールを守り、自ら立つ」をスローガンとして、ルールを守ることを通して「精神的自立（＝成人(おとな)になること）をめざす教育にも取り組んだ。

平成６年から開始した学生自身による自己点検・評価は、この流れに沿ったものである。これは、入学後に「卒業時の理想像」を記述し、毎学期始めにその理想像に近づくための具体的な目標を「学業の達成」、「精神的自立」、「価値観の形成」、「社会への適応」、「経済的自立」に分けて立て、学期末にその達成度を自己評価するというものである。

このヒントになったのは、ある教員が「学生に自分の目標を書かせ、学生がその目標へ向かう道から逸脱しかけたときに目標を再確認させ、適切な助言を行う」という指導を取り入れたところ、学生が素直に指導を受け入れるようになったという実践例であった。

自己点検・評価の意義や具体的な方法については、「自立に向かってー自己点検・評価の手引きー」と題する冊子にまとめている。クラス主任またはチューターは、この冊子を使って学生一人ひとりと「対話」し、自己点検・評価への取組みをサポートしている。

なお、教員は平成４年から自己点検・評価を開始しており、全学的な取組みとしている。

2.4.2 セミナー＆チューター制

セミナー＆チューター制の導入のきっかけの１つは、本学が全国に先駆けて平成９年度入試から開始したＡＯ入学制度にある。学びたいという意欲を重視して入学を決定した学生に対して、入学後の受け入れ及び指導体制を整えておく必要があった。また、当時、生活文化学科と生活科学科生活科学専攻においては、すでに学生の目的意識が多様化すると共に、無目的で無気力に近い学生も増えてきており、それまでのクラス制の維持（１人の教員が 30～40 名の学生の面倒をすべてみる）が難しい状況にあった。

この２つの課題を検討した結果、本来は研究や制作等を通して専門的な力を育成する少人数グループの指導制度（セミナー）を１年次にも応用し、教員はセミナーの指導者でありながらチューターの役割（履修や進路に関する相談をはじめ学生生活全般にわたるサポート）もすることとし、これをセミナー＆チューター制と名づけた。この制度の導入によって、学びたいという意欲があり目的意識が明確な学生に対してはその目標達成をサポートし、目的意識の低い学生に対しては目標を一緒に見つけていくといった、学生一人ひとりに合わせたきめ細かい対応ができるようになった。

セミナー（チューター）の決定に関しては、「対話」を重視している。教員は学生一人ひとりと向き合い、学生の個性、興味・関心、卒業後の目標等を理解し、学生は教員の専門領域や個性を知り、最もふさわしいセミナー（チューター）を決めている。そのため、学生と教員が密接な関係を築くことができ、在学中だけでなく卒業後もチューターにアドバイスを求めてくることがしばしばある。

本学では、現在、コミュニティ生活学科、食物栄養学科、音楽学科で採用している。

2.4.3　フィールド&ユニット制

コース制は昭和 41 年に本学が全国に先駆けて導入した制度であり、多様な目的を持った学生に対してそれぞれに体系的なカリキュラムを編成できる優れた制度である。しかし、コミュニティ生活学科と音楽学科では、地域総合科学科としてこれまで以上に多様な目的を持った学生を幅広く受け入れるという使命があり、単純にコースを増やすという方法ではなく、もっと柔軟なカリキュラムにする必要があった。

そこで導入したのがフィールド&ユニット制である。具体的には、専門科目をいくつかの分野（フィールド）に分け、学生が自らの将来に有効と思われる科目を各フィールドから自由に選択できるようにしている。また、各フィールドにある関連性の強い科目をセット（ユニット）にして履修させることによって学習効果を高めるようにしている。これにより、学生は自分の将来の目標にあわせた個別の履修計画が立てられるようになった。

フィールド&ユニット制は、選択の自由度が高いという点で優れているが、コース制のように体系的な学習が保証されていない。この欠点を補うために、学生の目標（卒業後の進路）別に参考となる履修モデルを提示し、目標の達成に向けた体系的な学習（ユニットの選択）ができるようにサポートをしている。

2.4.4　直接体験学習

「究理実践」の教育のためには、実践的な体験と共に学習を進める「実験、実習、演習、レッスン、校外実習、教育実習、インターンシップ」などの科目が非常に重要である。この点を各学科が重視して科目を設定するように配慮し、資格取得に定められた実験や実習のほかに、選択科目としての実験、実習、演習科目を多く取り入れるようにしている。特に、地域総合科学科として適格認定を受け、フィールド&ユニット制を導入しているコミュニティ生活学科と音楽学科では直接体験学習を重視して教育課程を編成している。そして、この実践的な学習は、「対話」の場の提供という大きな意味も併せ持っている。

2.4.5　授業欠席学生への指導体制

学生が何らかの問題を抱えると授業を休みがちになるので、本学では開学まもない昭和42 年（大学紛争が盛んだった頃）から学生の出欠状況の把握に努め、学生指導の糸口としていた。

その流れの中で、昭和 57 年から「欠席カード」の活用を始めた。授業担当者（非常勤講師も含む）は、学生の欠席が３回を超えるとこのカードによってクラス主任またはチューターに連絡する。このカードを受け取ったクラス主任またはチューターは、学生との「対話」を通して共に問題を解決しようとする。同時に科会で報告して学生の情報を共有し、学科の教職員全員でサポートする体制をとっている。

この方法は、問題を抱える学生の早期発見、早期対応ができるので、退学者が少ないという実績につながっている。

2.4.6　美化推進活動と服装指導

本学では「成人(おとな)になる教育」につながると考えて、「美化推進活動」と「服装指導」を長年継続して行っている。

美化推進活動は昭和 41 年から本格的に開始された。教室内の清掃を中心に学生が自主的に美化に取り組むように指導し、身のまわりの美化を通して個人の内面的美化を図ることをねらいとしている。

服装指導は昭和 46 年から行われている。服装指導といえば「制服指導」と誤解される面があるが、本学には、現在は制服がない。あくまでも「装う」という行為が人間の内面を表すものなので、その向上・充実をめざしている。これは非常に困難な教育であるが、伝統的にこれと取り組んでいる。

2.5　自己評価及び今後の課題

2.5.1　自己評価

本学の教育課程は全体的に見て、大学としての教育目的及び各学科の教育目標を達成すべく体系的に編成されていると評価できる。また、学生の多様なニーズに応えようとする取組みを継続的に行ってきた結果が、コミュニティ生活学科と音楽学科のフィールド&ユニット制や、食物栄養学科と保育学科の特色ある選択科目等に如実に表われている。教養教育の内容と改革の理念、専任教員の配置等についても、それぞれ短期大学にふさわしい内容とレベルを有していると言える。

2.5.2　今後の課題

（１）ＦＤ委員会・ＳＤ委員会の活動を充実させ、相互評価の手法を用いて教育改善の努力をする。

（２）社会の変化や学生のニーズに応じてフレキシブルに教育課程を絶えず見直す。

（３）シラバスが学生にとってより活用しやすいものになるよう常に改善に努める。

Ⅲ　教育の実施体制

Ⅲ　教育の実施体制

3.1　教員組織

3.1.1　専任教員数

現在の専任教員の状況は次のとおりである。

専任教員数　　平成 17 年５月１日現在

学科･専攻名 （専攻科を含む）	専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	助教授	講師	計	〔イ〕	〔ロ〕			
コミュニティ生活学科	7	1	1	9	4	－		1*	
食物栄養学科	4	2		6	4	－	1		
音楽学科	9	2		11	7	－			
保育学科幼児教育専攻	4	1	1	6	6	－		1*	
保育学科保育専攻	5	2		7	6	－			
（小計）	29	8	2	39	27	－	1	2	
〔ロ〕					－	5			
（合計）	29	8	2	39	27	5	1	2	

〔イ〕学科の種類に応じて定められている専任教員数
〔ロ〕短期大学全体の入学定員に応じて定められている専任教員数
〔ハ〕助手以外の者

注１：〔ハ〕の項目のうち、*印のついた者は教務員を示す。
注２：教職課程に必要とされる専任教員２名は上記専任教員数に含む。
注３：上記専任教員は専攻科の専任教員も兼担している。

3.1.2　教員の資格、資質及び採用、昇任

教員の採用については、学科の改組、教育内容の変更、辞職・定年退職等により欠員等が生じた場合に、選考により採用している。採用もしくは昇任に当たって、「広島文化短期大学教授等選考基準内規」及び「広島文化短期大学教授等選考基準内規の解釈について」に従っている。なお、設置基準の改正に伴い、「広島文化短期大学教授等選考基準内規」等の見直しを行う予定である。

3.1.3　教員の年齢構成

現在の教員年齢構成は次のとおりである。

専任教員の年齢構成　　平成 17 年５月１日現在

教員数	年齢ごとの専任教員数（講師以上）							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢		
39	0	14	16	8	1	0	55	32	

3.1.4　業務取組み状況

（１）授業

教員の担当授業コマ数（１コマは 90 分）の平均は次のとおりで、増加傾向が見られる。なお、過去３ヶ年を通算した教員一人あたりの平均コマ数は 8.1 となっている。

専任教員の担当コマ数の平均（過去3ヶ年）

学科	14 年度		15 年度		16 年度		平均
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コミュニティ生活	7.3	7.1	8.2	8.3	8.2	7.6	7.8
食 物 栄 養	8.4	7.9	9.2	7.9	8.9	8.0	8.4
音 楽	7.7	8.0	8.4	8.1	10.4	10.5	8.9
保 育	7.1	6.1	7.9	7.7	7.3	7.5	7.3
平均	7.5		8.2		8.6		8.1

注１：14 年度の欄のコミュニティ生活は生活文化学科、食物栄養は生活科学科、保育は幼児教育学科におけるデータである。
注２：専攻科の授業担当コマ数を含む。

（２）研究

専任教員の研究業績については、6.1.1 の項（過去３ヶ年の専任教員の研究状況及び成果）に示すとおりである。

（３）学生指導

学生指導体制は、これまで学生部（部長及び教務担当次長・厚生補導担当次長を教員が兼務）が中心となって行い、教員が参与として学生部の業務を担当してきた（下記参照）。

学生部参与一覧

区分	参与名
教 務 参 与	カリキュラム（長期履修学生を含む）・教職課程・栄養士課程・保育士課程・フードコーディネーター課程・フードスペシャリスト課程・ホームヘルパー・音楽療法士養成課程・学位授与機構
厚生補導参与	自治会・美化推進・学生相談・厚生・学生寮・一般下宿・生活指導・留学生

しかし、学生が多様化し教育内容も多様化した現在、学生指導は全教職員が総がかりで行わなければならない。上記の生活指導参与は、クラス主任・チューター・専攻科主任が担当しており、ほぼ全教員が学生指導に関わっていることになる。したがって学生指導は、ＦＤ委員会やＳＤ委員会における重要な課題であると認識している。

（４）その他

毎月１回、部科連絡会議（学生部長、学生部次長、教養教育代表、各学科長で構成）を開き、様々な情報交換を行っている。その内容は、各学科長を通じて学科の教職員に伝達されるので、学生指導に関することをはじめとして様々な事柄について全教員が共通認識を持って業務に取り組むことができている。なお、この会議の主なメンバーはＦＤ委員会の代表者を兼ねているので、授業改革といった観点からも連携が図られている。

（学長の見解）

専任教員の授業、研究、学生指導、その他の業務に関しては、それぞれの教員が驚くほど前向きに業務に邁進している。学科の改組、定員増加、取得資格の検討、フィールド&ユニット制の導入、セミナー&チューター制を採用する学科の増加、卒業研究ならびに卒業報告の質の向上、地域社会への積極的な参加など、ここ３ヶ年で大きな改善が見られたが、これは一部の教員だけでなしうることではなく、全専任教員が事務職員の協力を得ながら業務に取り組んできた証である。また、この度の同僚による相互評価の導入においても、ＦＤ委員会を設置して学習資料の配付などを行い、peer review の本質的な理解に努めようと自主的に活動していることから見ても、非常に望ましい姿勢を見せている。

3.1.5　助手、副手、補助職員、技術職員等の配置（学長の見解）

本学では、全学あげて、すなわち教員と事務職員が協力して「学習者中心の教育」に取り組んでいる。教職員の配置は可能なかぎり教員を配置し、必要に応じて教務員、補助職員、技術職員等を十分とは言えないが配置している。助手、教務員は各学科の教育と事務的な補助を行うと共に、学生との距離が近く教育活動に適切に機能していると考えている。

3.2　教育環境

3.2.1　校地

校地一覧表　〔基準面積　7,600 ㎡〕

名称	所在地	面積	備考
広島文化短期大学校地	広島市安佐南区長束西三丁目	㎡	
	174 番 170	15,950.00	校舎敷地 運動場敷地 ※共用無
	174 番 171	171.00	
	174 番 392	1,339.00	
	50 番 2	33.00	
	51 番	59.40	
	52 番 1	291.00	
	52 番 2	979.00	
	52 番 3	365.00	
	小　　計	19,187.40	
	広島市安佐南区長束西三丁目	㎡	
	56 番 1	1,970.00	運動場予定地 ※共用無
	56 番 162	85.00	
	57 番	1,671.00	
	58 番 1	3,237.00	
	1787 番 1	224.00	
	57 番 2	43.00	
	1787 番 3	7.11	
	小　　計	7,237.11	
	合　　計	26,424.51	

3.2.2　校舎

校舎等一覧表　〔基準面積　8,750 ㎡〕

種別	構造	面積	備考
校舎		㎡	
1 号館	鉄筋 4 階	2,289.50	※共用無
2 号館	鉄筋 4 階	2,313.26	
3 号館	鉄筋 4 階	1,770.44	
4 号館	鉄骨 2 階	539.46	
5 号館	鉄筋 4 階	991.14	
6 号館	鉄筋 4 階	2,931.13	
7 号館	鉄骨 3 階	323.46	
8 号館	鉄骨 4 階	1,063.00	
資料庫	ﾌﾞﾛｯｸ平屋	20.71	
	校舎計	12,242.10	
体育館	鉄筋･鉄骨	1,686.55	※共用無
	合　　計	13,928.65	

なお、短期大学設置基準第 31 条による基準面積は 8,750 ㎡となっており、本学は基準を満たしている。算出基礎は次のとおりである。

家政関係 コミュニティ生活学科 2,600 ㎡（短期大学設置基準別表第２のイ収容定員 250 人まで）
家政関係 食物栄養学科 1,250 ㎡（短期大学設置基準別表第２のロ収容定員 100 人まで）
音楽関係 音楽学科 2,050 ㎡（短期大学設置基準別表第２のイ収容定員 200 人まで）
保育関係 保育学科 2,850 ㎡（短期大学設置基準別表第２のイ収容定員 300 人まで）

3.2.3 情報処理関連の設備状況及び使用状況

（１）設備状況

情報処理教室、CAI(Computer Assisted Instruction)教室、DCL(Designing Computer Laboratory)教室に情報機器を設置しており、情報処理関連の授業を行っている。授業で使用しない時間は、学生が自習等に利用している。各教室に配置している情報機器の台数、機種及び主要ソフトウェアは次のとおりである。

なお、６号館２階に PCL(Personal Computer Laboratory)教室（LL 用教室）を設置しているが機材がかなり古いため、現在は AV 機能（ビデオカメラで撮影した教材を個々のモニターに放映する）のみを用いた授業に利用している。将来的には、古い LL 機材を新しいパソコンに変更する予定である。

１）情報機器の台数

	パソコン	レーザープリンタ	カラープリンタ	スキャナ
情報処理教室	41	4	1	1
Ｃ Ａ Ｉ教室	41	4	1	1
Ｄ Ｃ Ｌ教室	23	1	12	1

２）機種

①パソコン（日立製作所）FLORA350W DE2
CPU：Pentium4/2AGHz, RM：256MB, HDD：40GB, CD-ROM（48 倍速）, FDD
Windows2000 Professional
②17 インチ CRT モニター（日立製作所）PC-DC7104
③A3 レーザープリンタ（富士通）XL-5350

３）主要ソフトウェア

①Office2000 Professional（Word、Excel、Access、PowerPoint）
②Netscape Navigator Ver7. 01（ブラウズソフト）
③AL-Mail32（メールソフト）
④ウィルスバスター（ウィルス対策ソフト）

４）LAN

LAN は 10/100MB の規格で学内に設置され、同一法人が設置する呉大学のサーバーに接続されている。セキュリティのため、学内 LAN を２つのドメインに分離している。すなわち、研究・教育で使用する「教員・学生の共通ドメイン」と個人情報を取り扱う「事務職員ドメイン」とを完全に分離して運用している。

（２）教室の使用状況

各教室の平成 16 年度の使用状況は次のとおりである。表の網掛けしたコマ（１コマは 90 分）を授業として使用し、それ以外は学生が自由に使用できる。なお、午後６時以降は原則「教室使用願」を提出させて使用を許可している。ただし、午後９時以降の使用はできない。

１）情報処理教室

平成 16 年度前期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月		■		■	■
火			■	■	■
水			■		
木		■	■	■	■
金				■	■

平成 16 年度後期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月			■		■
火	■		■	■	■
水			■		
木		■	■	■	
金	■			■	■

２）CAI教室

平成 16 年度前期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月	■	■			■
火					■
水			■		
木	■	■	■	■	■
金	■				■

平成 16 年度後期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月	■		■	■	■
火				■	■
水					
木	■	■	■	■	■
金	■	■		■	■

３）DCL教室

平成 16 年度前期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月					
火					
水			■		
木				■	
金					

平成 16 年度後期

	1･2	3･4	5･6	7･8	9･10
月	■			■	
火					
水		■	■		
木				■	
金					

3.2.4　授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム

（１）各教室における機器・備品の整備状況

区分	室番	略称	収容人員	AV機器(VTR他)	教材提示装置	マイク設備		ピアノ・オルガン	パソコン	テレビ	スクリーン	その他
						有線	ワイヤレス					
講義室	0102	1号	50	○						○		
	1401	5号	80	○				○	○	○		
	3401	音講Ⅰ	200	○				○				
	3404	音講Ⅱ	50	○				○		○		
	6102	6号	150	○		○				○	○	
	6103	7号	120	○		○				○	○	
	6401	8号	40	○						○	○	
	6404	9号	50	○	○					○	○	
	7301	生活科学	123	○	○	○	○			○	○	
	8404	10 号	128	○			○			○	○	
演習室	1201	情報処理	40		○	○	○		○		○	
	1301	DCL	22	○		○			○	○		製図用機械
	1303	ﾌｧｯｼｮﾝⅡ	30							○		
	1304	ﾌｧｯｼｮﾝⅢ	50	○						○		ミシン
	1306	ﾌｧｯｼｮﾝⅠ	50									ミシン
	5411	幼児音楽	50	○				○		○		
	6202	PCL	56	○	○	○						
	6301	演奏室	100	○		○	○	○		○		
	7201	CAI	40		○		○		○		○	
	8101	ｺﾐｭﾆﾃｨ	117	○			○		○	○	○	
	8103	音楽療法	40	○				○		○		

区分	室番	略称	収容人員	AV機器(VTR他)	教材提示装置	マイク設備		ピアノ・オルガン	パソコン	テレビ	スクリーン	その他
						有線	ワイヤレス					
実習室	1110	調理Ⅰ	50							○		
	2101	機織Ⅰ	40	○					○	○	○	
	2105	調理Ⅲ	50									
	2106	機織Ⅱ	50						○			織り機
	2107	糸染室	20									
	3111	集団給食	25									
	3113	食品加工	36	○			○			○	○	
	3209	調理Ⅱ	50	○			○			○		
	4101	染色	48	○			○			○	○	
	6209	実務	60	○	○				○	○	○	応接セット
	6306	体験学習	90	○	○			○		○	○	
	6309	幼児教育	90	○		○				○	○	
	6403	図画工作	90	○			○		○	○	○	
	6405	造形表現	90	○			○				○	
	7101	試食室	50	○			○	○	○	○	○	
	8303	保育	64	○			○			○	○	
実験室	1206	被服管理	50									
	3211	理化学	36									
	5206	生物	40	○						○		
その他	0202	体育館	200					○				
	2303	講堂	400	○		○	○	○				

注：この他に、レッスン室(11 室)、ピアノ練習室（39 室）にそれぞれピアノがある。

（２）整備システム

機器・備品の整備については、予算計上に基づき購入している。購入金額 10 万円以上の機器・備品は固定資産台帳に記録し、管理している。

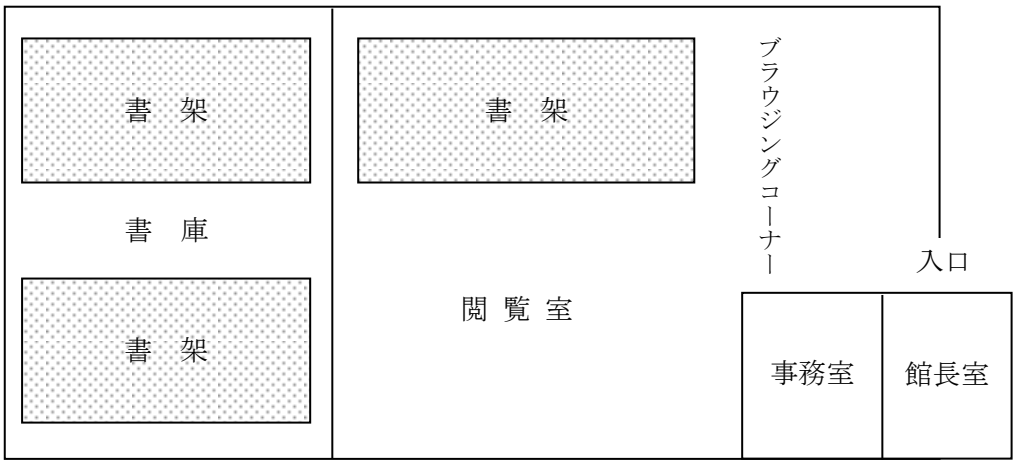
また、機器・備品の不具合については、担当教員及び管理課職員がチェックし、必要にに応じて速やかに修理・補修を行い、授業に支障をきたさないよう努めている。

3.3 図書館

3.3.1 図書館の概要

図書館の専有延床面積は 522 ㎡、書架棚総延長は 1.99 ㎞、図書収容能力は 7.7 万冊（90㎝=35 冊として計算）である。書庫が手狭になってきているので、製本雑誌等を教員研

図書館の配置図



究室に保管するなどの解決策をとっている。

平成16年度の図書館予算は概算で8,500,000円を計上し、その内図書購入費は6,820,000円であった。学生１人あたり 6,000 円と計算し予算化している。購入図書の選定システムについては図書館運営委員会を組織し、図書費を各学科の学生数に応じて予算配分した上で、学生委員の意見を聞きながら学生用図書の選定を行っている。また、図書館では、レファレンス関係の図書を重点的に選定している。

一方、所蔵図書の廃棄システムについては、図書の除籍に関する内規に基づき、資料内容の廃棄と更新を行い、書架スペースの有効活用を実施している。現在の蔵書数、学術雑誌数、ＡＶ資料数、座席数及び在籍学生数は次のとおりで、概ね整備されている。

図書館の蔵書数等　　平成 17 年３月 31 日現在

蔵書数	学術雑誌数	ＡＶ資料数	座席数	在籍学生数
66,273 冊	114 種	799 本	79 席	695 人

過去３ヶ年の利用者数の推移については次のとおりであり、年間平均開館日数 210 日、１日平均入館者数 80 人で、司書２名を配置し対応している。

図書館の利用者数の推移（過去3ヶ年）

	開館日数			入館者数			17:00 以降入館者数			1 日平均入館者数		
	H14	H15	H16	H14	H15	H16	H14	H15	H16	H14	H15	H16
4 月	19	20	18	1,168	1,661	1,570	0	26	0	61	83	87
5 月	20	19	17	1,929	1,964	1,524	5	29	31	96	103	90
6 月	19	21	20	1,390	2,146	1,829	15	32	60	73	102	91
7 月	23	22	21	3,438	4,278	3,143	35	109	145	149	194	150
8 月	7	13	20	91	294	456	0	0	0	13	23	23
9 月	11	20	18	268	694	318	0	5	0	24	35	14
10 月	22	21	18	2,267	2,325	1,834	21	78	51	103	111	102
11 月	19	15	17	2,093	1,474	1,390	12	32	14	110	98	82
12 月	15	15	15	1,559	1,635	1,404	5	35	33	104	109	94
1 月	16	15	14	1,715	1,663	1,250	25	33	34	107	111	89
2 月	17	17	17	1,182	1,137	1,095	4	0	16	68	67	65
3 月	19	17	15	193	176	183	0	0	0	10	10	12
合計	207	215	210	17,293	19,447	15,996	122	379	384	*77	*87	*75

注：*は、年間１日平均入館者数

図書の貸出等の推移（過去3ヶ年）

	貸出者数			貸出冊数			1 日平均貸出冊数		
	H14	H15	H16	H14	H15	H16	H14	H15	H16
4 月	112	257	105	202	388	167	11	19	9
5 月	184	185	142	312	407	254	16	21	15
6 月	138	159	169	234	259	294	12	12	15
7 月	168	126	246	285	217	423	12	10	20
8 月	7	25	37	20	64	79	3	5	4
9 月	27	38	34	69	63	87	6	3	5
10 月	218	212	211	358	351	401	16	17	22
11 月	246	156	172	437	281	287	23	19	17
12 月	181	122	171	300	196	313	20	13	21
1 月	155	139	137	312	258	233	20	17	17
2 月	54	47	73	107	113	132	6	7	8
3 月	19	11	24	35	21	79	10	1	5
合計	1,509	1,477	1,521	2,671	2,618	2,749	**13	**12	**13

注：**は、年間１日平均貸出冊数

図書館資料の情報化については、平成 15 年度から図書館システムを更新し、同一法人が設置する呉大学、呉大学短期大学部の図書館蔵書も同時に検索が可能になった。今後もデータベース（蔵書目録）の構築のために、引き続き遡及入力を積極的に行う予定である。また、試験期（７月・１月）及び平日（週２回）における１時間の開館時間延長を行うことにより、入館者数及び貸出冊数の増加を図っている。

3.3.2　授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等の整備

蔵書の内容に関しては、本学の教育の基本でもある、教養に関する授業科目、専門に関する授業科目、職業に関する授業科目の三位一体化を図り、学習図書館としての機能を充分に発揮できるよう、学生の知識やニーズに合った一般図書、専門教育図書、教養教育図書、実務教育図書をバランス良く収集している。また、平成４年度に指定図書制度を導入し、それに伴って閲覧室内に指定図書コーナーを設置し、学生が授業を受講する際の必読図書として、非常勤講師を含むすべての授業担当者によって指定された図書を利用しやすく配置している。

また、学生の図書館利用を活発にするために、図書館入口に新着図書案内を設置し、興味を引いて入館を促す工夫をしている。そして、入学時の一斉利用ガイダンスに代えて、カウンターに“図書館あんない”を用意して、一人ひとりと対話をすることにより、気軽るに来館できる雰囲気作りと信頼関係を築く努力をしている。その他、セミナーごとや学科ごとでの利用ガイダンスを担当教員の協力で行っている。

（図書館長の見解）

学生が授業を受講する際に、特に利用すると考えられる参考図書は、先に述べたとおり、指定図書コーナーを設けて便宜を図っている。また、その他の図書についても、学生の要望を聞きながら各領域についてバランスよく収集するように心がけており、適切な図書館運営がなされていると考える。

学生の図書の利用状況については、前頁の表で示すとおり若干の増加傾向が見られるが、学生数が増加していることを考えると満足できる状態であるとは決して言えない。社会的傾向と言われている若者の活字離れの影響も考慮しながら、さらなる利用率の向上をめざして、積極的に学生へアピールする方法を考えると共に、図書館の設備と管理システムの改善に努力する必要がある。

3.3.3　図書館活動

学内では、学内ネット上で図書の蔵書検索、新着資料情報、図書館開館日等の情報が利用可能である。また、同一法人が設置する呉大学、呉大学短期大学部図書館とは、学園内の LAN 構築により OPAC（On-line Public Access Catalogue）利用による蔵書の相互利用を行っており、今後も引き続き情報システムの改善に努め、機能的なサービスの向上をめざしている。

また、学外に対しては、平成 15 年度から国立情報学研究所の「学術雑誌公開支援事業」に参加し、電子化した本学研究紀要の公開を行っている。さらに、広島県大学図書館協議会、私立短期大学図書館中国・四国地区協議会に加盟し、大学図書館の現状についての情報交換を行うと共に、最新の図書館管理システムについての情報入手と館員の研修にも努めている。

（図書館長の見解）

図書館には蔵書を増やしていくほかに、情報センターとしての役割の充実、図書館内の居住性の向上という２つの課題がある。現在、所蔵図書も着実に増加し、OPAC により同一学園内の相互利用が可能となりつつある。所蔵図書の完全データベース化を目下進めており、やがては学園外の図書館とも相互利用が可能となるように努力している。また、図書館利用者を増加させるためにも、居住性の向上についても検討しなければならないと考えている。

3.4　自己評価及び今後の課題

3.4.1　自己評価

学科の改組、教育内容の改革等に伴って教員の基準数は減ったものの、きめ細かな教育を継続するため教員数の削減は行っていない。

一方、教育環境を向上するための施設・設備の変更を行ってきた。平成 14 年度にはコミュニティ生活学科の設置及び幼児教育学科の専攻分離と定員増の実施に伴い４階建ての８号館を新設し、さらに同年、１～８号館のすべての空調設備設置が完了した。16 年度は未設置であった音楽・体育館内部の研究室の LAN 配線工事、１号館１階のトイレの改修工事を完了した。過去３ヶ年における教育研究備品購入の主なものとしては、ピアノ６台などの楽器類、液晶プロジェクタ３台、図書館の書架 13 台などである。図書館では、備品図書 1,890 冊、消耗図書 204 冊、消耗楽譜 406 冊、視聴覚資料 100 点をここ３ヶ年で追加購入した。

教員の配置、施設や設備充実、備品購入など、十分とは言えないまでも教育環境整備に努めていると評価している。

3.4.2　今後の課題

（１）教員の採用に関しては設置基準の改正に伴う学歴等の選考基準等の見直しを行い、多様化した教育目標が達成できるように、非常勤講師も含めて柔軟な教員人事を進める。

（２）未整備の部分があるバリアフリー化を含め、教育環境のさらなる整備を進める。

（３）図書館利用の促進と学生の入館者の増加を図る企画や地域住民への開放など早急に検討する。

Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

4.1　単位認定

4.1.1　単位認定の方法と評価の実態

各学科の単位認定方法と評価の実態は次のとおりである（平成 17 年３月卒業生分)。

なお、最終の評価のうち「放棄」とは、履修を途中で取りやめた場合（Ｆ判定）と受験資格はあったが試験等を受けなかったために単位を取得できなかった場合（Ｅ判定）を合わせたものである。

また、専攻科生活文化専攻と専攻科幼児教育専攻（現、保育専攻）については、前年度修了生がいなかったため、データを記載していない。

【コミュニティ生活学科】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
教養	日本語学	講義	53	試験	85	13	98	25	26	47	0	2
	くらしと音楽	講義	66	総合評価	92	0	92	56	36	0	0	8
	日本国憲法	講義	91	総合評価	90	5	95	39	41	16	0	4
	くらしと法律	講義	77	試験	96	0	96	48	39	9	0	4
	コンピュータ演習Ⅰ	演習	101	試験	96	2	98	56	13	30	0	2
	コンピュータ演習Ⅱ	演習	102	試験	93	0	93	53	25	16	0	7
	情報と社会	講義	93	総合評価	62	1	63	42	18	2	0	37
	英語会話	講義	93	総合評価	91	5	96	28	37	31	1	3
	総合演習	演習	24	試験	100	0	100	33	46	21	0	0
	体育Ⅰ	演習	92	試験	97	0	97	65	17	14	0	3
	体育Ⅱ	演習	84	試験	92	0	92	46	42	4	0	8
専門	セミナーⅠ	演習	112	総合評価	100	0	100	84	11	5	0	0
	セミナーⅡ	演習	110	総合評価	99	0	99	85	9	6	0	1
	卒業研究	演習	53	総合評価	98	0	98	96	2	0	0	2
	卒業制作	演習	52	総合評価	100	0	100	77	12	12	0	0
	コミュニティ論	講義	106	試験	98	2	100	72	20	8	0	0
	現代社会と人間	講義	106	総合評価	94	3	97	59	35	3	0	3
	社会心理学	講義	103	ﾚﾎﾟｰﾄ	91	0	91	25	54	12	1	8
	人間関係論	講義	106	ﾚﾎﾟｰﾄ	93	0	93	39	50	5	0	7
	地域文化論	講義	91	総合評価	95	0	95	57	20	17	0	6
	教育と社会	講義	16	試験	81	0	81	0	13	69	0	19
	生活科学論	講義	22	総合評価	100	0	100	64	23	14	0	0
	生活と環境	講義	39	総合評価	69	15	84	26	44	15	5	10
	生活と色彩	講義	11	試験・演習	82	0	82	9	27	46	0	18
	生活と健康	講義	41	総合評価	78	10	88	15	32	41	0	12
	生活経済学	講義	74	総合評価	92	7	99	85	5	8	1	0
	生活経営	講義	30	総合評価	83	0	83	53	17	13	0	17
	保育学	講義	35	総合評価	80	0	80	43	29	9	0	20
	衣生活論	講義	41	総合評価	90	0	90	42	44	5	0	10
	住居学	講義	52	総合評価	92	0	92	54	31	8	0	8
	ボランティア演習	演習	6	ﾚﾎﾟｰﾄ	50	0	50	50	0	0	0	50
	服飾文化史	講義	37	試験	78	0	78	49	8	22	0	22
	ファッションデザイン論	講義	36	総合評価	89	0	89	61	22	6	0	11
	現代モード論	講義	38	総合評価	82	0	82	39	32	11	0	18
	ファッションビジネス論	講義	41	総合評価	93	0	93	63	20	10	0	7
	ショップ経営論	講義	43	総合評価	98	0	98	23	21	53	0	2
	ディスプレイ演習	演習	39	総合評価	87	0	87	41	39	8	0	13

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	ファッションスタイリング演習	演習	34	提出物	100	0	100	53	29	18	0	0
	ファッションクリエイトⅠ	演習	31	総合評価	100	0	100	81	3	16	0	0
	ファッションクリエイトⅡ	演習	31	総合評価	100	0	100	42	39	19	0	0
	プロモーション企画	演習	35	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	アパレル商品企画	演習	33	提出物	85	0	85	55	27	3	0	15
	アパレル製作論	講義	45	総合評価	80	0	80	24	27	29	2	18
	アパレル製作実習	実習	34	総合評価	85	3	88	65	18	6	0	12
	アパレル製作演習Ⅰ	演習	39	総合評価	87	0	87	44	39	5	0	13
	アパレル製作演習Ⅱ	演習	20	総合評価	85	0	85	60	10	15	0	15
	パターンメーキング	演習	16	総合評価	81	0	81	25	38	19	0	19
	サンプルメーキング	演習	6	総合評価	67	0	67	50	0	17	0	33
	アパレルCAD演習	演習	28	総合評価	100	0	100	86	11	4	0	0
	CG演習	演習	25	総合評価	100	0	100	68	20	12	0	0
	アパレル造形演習	演習	27	総合評価	89	4	93	67	15	11	0	7
	テキスタイルリサーチ	講義	38	総合評価	92	5	97	63	16	18	0	3
	テキスタイル演習	演習	12	総合評価	83	17	100	75	8	17	0	0
	テキスタイルデザイン(染)	演習	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	テキスタイルデザイン(編)	演習	17	総合評価	100	0	100	94	6	0	0	0
	クラフト(染)Ⅰ	演習	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	クラフト(染)Ⅱ	演習	3	総合評価	33	0	33	33	0	0	0	67
	クラフト(織)Ⅰ	演習	2	総合評価	100	0	100	50	0	50	0	0
	クラフト(織)Ⅱ	演習	1	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	ユニバーサルデザイン演習Ⅰ	演習	7	総合評価	43	14	57	14	0	43	0	43
	ユニバーサルデザイン演習Ⅱ	演習	22	総合評価	95	0	95	59	14	23	0	5
	ファッショングッズ制作	演習	10	総合評価	100	0	100	60	20	20	0	0
	ファッションドローイングⅠ	演習	16	総合評価	88	0	88	38	44	6	0	13
	ファッションドローイングⅡ	演習	22	総合評価	73	0	73	18	46	9	0	27
	色彩学Ⅰ	講義	87	総合評価	78	0	78	55	13	10	3	18
	色彩学Ⅱ	講義	15	総合評価	100	0	100	33	53	13	0	0
	色彩学演習Ⅰ	演習	27	総合評価	89	0	89	52	19	19	0	11
	色彩学演習Ⅱ	演習	7	総合評価	100	0	100	0	43	57	0	0
	パーソナルカラー演習	演習	56	試験・演習	95	0	95	25	32	38	0	5
	カラーコーディネートⅠ	演習	14	総合評価	86	7	93	0	78	14	0	7
	カラーコーディネートⅡ	演習	22	総合評価	86	0	86	14	41	32	0	14
	メイクアップ演習	演習	26	総合評価	85	0	85	50	27	8	0	15
	ウォーキング演習	演習	29	総合評価	97	0	97	62	28	7	0	3
	食生活論	講義	49	試験・レポート	92	2	94	53	25	16	4	2
	食文化論	講義	38	試験・レポート	68	26	94	26	42	26	0	5
	食文化演習	演習	50	総合評価	84	0	84	58	14	12	0	16
	食物学	講義	54	総合評価	89	2	91	41	32	19	0	9
	ダイエット論	講義	61	総合評価	90	0	90	36	31	23	0	10
	栄養学演習	演習	40	総合評価	88	0	88	20	18	50	0	13
	調理学	講義	20	試験	90	5	95	25	45	25	0	5
	調理学演習Ⅰ	演習	48	総合評価	96	2	98	71	17	10	2	0
	調理学演習Ⅱ	演習	48	総合評価	96	2	98	83	10	4	2	0
	調理学実習	実習	45	総合評価	93	0	93	73	20	0	0	7
	調理科学演習	演習	36	総合評価	83	8	91	28	39	25	3	6
	食品衛生学	講義	40	試験	100	0	100	53	35	13	0	0
	フードコーディネート論	講義	42	試験・レポート	93	0	93	76	14	2	0	7
	フードコーディネート演習Ⅰ	演習	37	総合評価	95	0	95	30	46	19	0	5
	フードコーディネート演習Ⅱ	演習	33	総合評価	100	0	100	73	27	0	0	0
	製菓論	講義	28	総合評価	75	4	79	14	50	14	0	21
	製菓演習	演習	33	総合評価	97	0	97	12	76	9	0	3

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	製菓実習	実習	36	総合評価	100	0	100	19	53	28	0	0
	食生活とデザイン	講義	51	総合評価	92	0	92	55	33	4	0	8
	食空間デザイン	講義	58	総合評価	90	2	92	64	21	7	0	9
	生活クリエイト(陶芸) Ⅰ	演習	22	総合評価	96	0	96	91	0	5	0	5
	生活クリエイト(陶芸) Ⅱ	演習	32	総合評価	75	3	78	44	19	16	0	22
	生活クリエイト(染) Ⅰ	演習	10	総合評価	70	0	70	60	0	10	0	30
	生活クリエイト(染) Ⅱ	演習	14	総合評価	64	0	64	29	36	0	0	36
	食のカラーコーディネート	演習	12	総合評価	58	0	58	17	42	0	0	42
	フードデザイン	演習	34	総合評価	97	0	97	47	47	3	0	3
	食生活総合演習	演習	37	総合評価	97	0	97	84	5	8	0	3
	インターンシップ	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	家庭科教育法	講義	12	総合評価	100	0	100	58	42	0	0	0
	キャリア論	講義	13	総合評価	100	0	100	92	8	0	0	0
	生活とマナー	講義	51	総合評価	92	0	92	61	14	18	0	8
	生活とメディア	講義	13	総合評価	100	0	100	92	0	8	0	0
	生活英語	講義	7	総合評価	57	0	57	29	29	0	29	14
	実用外国語	講義	59	総合評価	70	3	73	9	7	58	10	17
	消費行動	講義	31	総合評価	90	0	90	71	19	0	0	10
	生活経済演習	演習	12	総合評価	91	0	91	58	33	0	0	8
	秘書概論	講義	52	総合評価	92	0	92	12	17	64	2	6
	秘書実務演習 Ⅰ	演習	52	総合評価	92	0	92	23	23	46	0	8
	秘書実務演習 Ⅱ	演習	37	総合評価	86	5	91	27	35	30	0	8
	社会実務演習	演習	4	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	文書実務	講義	50	総合評価	88	6	94	24	36	34	0	6
	表現技術	講義	50	総合評価	90	6	96	67	16	12	0	4
	簿記	演習	55	総合評価	85	2	87	46	24	18	0	13
	ビジネス実務総論	講義	10	総合評価	100	0	100	90	0	10	0	0
	ビジネス実務演習 Ⅰ	演習	13	総合評価	85	8	93	85	8	0	0	8
	ビジネス実務演習 Ⅱ	演習	10	総合評価	80	0	80	70	10	0	0	20
	企業研究	講義	23	総合評価	83	0	83	39	22	22	0	17
	企業経営論	講義	55	総合評価	98	0	98	89	6	4	0	2
	心理学演習	演習	11	レポート	91	0	91	82	9	0	0	9
	社会調査演習	演習	7	レポート	86	0	86	86	0	0	0	14
	生活情報処理演習 Ⅰ	演習	32	レポート	94	0	94	56	28	9	0	6
	生活情報処理演習 Ⅱ	演習	17	レポート	88	0	88	47	24	18	0	12
	情報活用演習 Ⅰ	演習	12	総合評価	83	0	83	42	33	8	0	17
	情報活用演習 Ⅱ	演習	21	総合評価	90	0	90	19	5	67	0	10
	ビジネス実務総論	講義	9	総合評価	100	0	100	89	11	0	0	0
	ビジネス実務演習 Ⅰ	演習	9	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	ビジネス実務演習 Ⅱ	演習	9	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
教職	教育原理	講義	24	総合評価	100	0	100	67	25	8	0	0
	教育相談	講義	24	総合評価	100	0	100	71	25	4	0	0
	教師論	講義	27	試験	93	0	93	41	22	30	0	7
	教育心理学	講義	28	試験	39	54	93	0	14	79	0	7
	教育制度	講義	24	レポート	100	0	100	54	38	8	0	0
	道徳教育論	講義	12	試験	100	0	100	67	17	17	0	0
	特別活動論	講義	12	試験	100	0	100	58	25	17	0	0
	教育方法論	講義	14	試験	93	0	93	43	29	21	0	7
	生徒指導論	講義	12	試験	100	0	100	58	33	8	0	0
	教育実習	講義	12	レポート	100	0	100	17	67	17	0	0

【食物栄養学科】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
教養	日本語学	講義	42	試験	86	7	93	31	41	21	0	7
	芸術(絵画)	講義	9	総合評価	89	0	89	33	22	33	0	11
	基礎化学	講義	46	試験	94	4	98	41	40	17	0	2
	社会心理学	講義	45	総合評価	98	0	98	64	31	2	0	2
	日本国憲法	講義	16	総合評価	100	0	100	38	56	6	0	0
	くらしと法律	講義	11	試験	91	0	91	82	9	0	0	9
	コンピュータ演習Ⅰ	演習	45	試験	98	0	98	47	16	36	0	2
	コンピュータ演習Ⅱ	演習	23	試験	100	0	100	65	30	5	0	0
	情報と社会	講義	46	総合評価	74	2	76	54	22	0	0	24
	英語会話	講義	30	総合評価	97	3	100	40	30	23	7	0
	体育Ⅰ	演習	47	試験	96	0	96	49	40	6	0	4
	体育Ⅱ	演習	22	試験	95	0	95	77	18	0	0	5
専門	セミナーⅠ	演習	47	総合評価	98	0	98	98	0	0	0	2
	セミナーⅡ	演習	45	総合評価	98	0	98	80	13	4	0	2
	卒業報告	演習	44	論文作成	100	0	100	93	7	0	0	0
	生活科学論	講義	47	出席・試験	98	0	98	72	13	13	0	2
	人間関係論	講義	20	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	75	25	0	0	0
	公衆衛生学	講義	45	試験	89	11	100	11	27	62	0	0
	社会福祉概論	講義	46	総合評価	98	0	98	93	2	2	0	2
	環境衛生学	講義	45	試験	96	0	96	22	33	40	0	4
	解剖生理学Ⅰ	講義	47	試験	81	17	98	26	26	47	0	2
	解剖生理学Ⅱ	講義	45	試験	98	0	98	91	7	0	0	2
	解剖生理学実習	実習	44	出席・ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	82	14	5	0	0
	入門生化学	講義	45	試験	98	0	98	29	36	31	2	2
	生化学	講義	44	試験	70	30	100	30	39	32	0	0
	生化学実験	実験	43	ﾚﾎﾟｰﾄ他	100	0	100	67	23	9	0	0
	運動生理学	講義	44	総合評価	93	5	98	57	25	16	0	2
	食品学Ⅰ	講義	48	総合評価	94	4	98	50	19	29	0	2
	食品学Ⅱ	講義	45	総合評価	82	16	98	53	29	16	0	2
	食品学実験	実験	47	総合評価	96	2	98	72	23	2	0	2
	食品衛生学	講義	46	試験	85	13	98	9	33	57	0	2
	食品衛生学実験	実験	44	総合評価	100	0	100	70	23	7	0	0
	基礎栄養学	講義	48	試験	90	6	96	69	15	13	0	4
	栄養生理学	講義	45	試験	100	0	100	91	7	2	0	0
	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの栄養学	講義	45	ﾚﾎﾟｰﾄ	73	24	97	20	33	44	0	2
	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの栄養学実習	実習	45	総合評価	76	22	98	62	9	27	0	2
	臨床栄養学総論	講義	45	総合評価	76	22	98	27	44	27	0	2
	臨床栄養学各論	講義	17	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	臨床栄養学実習	実習	45	総合評価	77	21	98	44	9	42	2	2
	栄養指導総論	講義	47	試験	87	11	98	45	26	28	0	2
	栄養指導各論	講義	45	試験	84	13	97	47	13	38	0	2
	栄養指導各論実習Ⅰ	実習	45	試験	82	13	95	24	20	51	0	4
	栄養指導各論実習Ⅱ	実習	44	試験	100	0	100	64	27	9	0	0
	公衆栄養学	講義	45	出席・試験	93	4	97	64	16	18	0	2
	調理学	講義	47	総合評価	98	0	98	43	26	30	0	2
	こつの科学実験	実験	48	総合評価	92	4	96	42	27	27	0	4
	こつの科学実習	実習	45	総合評価	96	0	96	53	27	16	0	4
	調理実習(初級)	実習	47	総合評価	98	0	98	32	32	34	0	2
	調理実習(中級)	実習	45	総合評価	96	2	98	71	16	11	0	2
	給食計画・実務論	講義	48	出席・試験	98	0	98	56	21	21	0	2
	給食計画・実務論実習	実習	45	総合評価	98	0	98	56	11	31	0	2
	総合演習	演習	44	総合評価	93	5	98	84	9	5	0	2

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	給食実務校外実習	実習	44	出席･実習記録	96	0	96	80	11	5	0	5
	保健所実習	実習	10	総合評価	90	0	90	90	0	0	0	10
	老人ホーム実習	実習	18	総合評価	100	0	100	83	17	0	0	0
	病院実習	実習	18	総合評価	89	0	89	83	6	0	0	11
	フードコーディネート論	講義	39	総合評価	92	0	92	80	13	0	0	8
	フードスペシャリスト論	講義	40	総合評価	90	0	90	75	13	2	0	10
	食品流通論	講義	36	総合評価	97	0	97	94	3	0	0	3

【音楽学科】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
教養	社会心理学	講義	53	総合評価	94	0	94	30	51	11	2	6
	社会福祉論	講義	27	総合評価	96	0	96	81	15	0	0	4
	日本国憲法	講義	44	総合評価	96	2	98	64	25	7	2	2
	生活と環境	講義	20	総合評価	90	0	90	65	25	0	0	10
	生活と経済	講義	17	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	94	6	0	0	0
	コンピュータ演習Ⅰ	演習	61	試験	100	0	100	82	16	2	0	0
	コンピュータ演習Ⅱ	演習	60	試験	92	3	95	77	13	5	0	5
	情報と社会	講義	25	総合評価	88	0	88	64	20	4	0	12
	英語会話	講義	51	総合評価	96	0	96	39	39	16	2	4
	ドイツ語Ⅰ	講義	35	試験	71	3	74	11	11	51	14	11
	ドイツ語Ⅱ	講義	19	試験	84	0	84	5	11	68	0	16
	総合演習	演習	26	試験	96	0	96	35	42	19	0	4
	体育Ⅰ	演習	47	試験	100	0	100	66	23	11	0	0
	体育Ⅱ	演習	50	試験	94	0	94	66	24	4	0	6
専門	ピアノ奏法Ⅰ	演習	31	試験	90	7	97	13	61	23	0	3
	ピアノ奏法Ⅱ	演習	28	試験	93	0	93	32	39	21	0	7
	ピアノ奏法Ⅲ	演習	26	試験	92	8	100	23	58	19	0	0
	ピアノ奏法Ⅳ	演習	26	試験	96	4	100	23	62	15	0	0
	管弦打楽器奏法Ⅰ	演習	27	試験	96	0	96	26	70	0	0	4
	管弦打楽器奏法Ⅱ	演習	26	試験	100	0	100	23	77	0	0	0
	管弦打楽器奏法Ⅲ	演習	26	試験	100	0	100	31	69	0	0	0
	管弦打楽器奏法Ⅳ	演習	26	試験	100	0	100	35	65	0	0	0
	電子オルガンⅠ	演習	5	試験	100	0	100	60	40	0	0	0
	電子オルガンⅡ	演習	4	試験	75	0	75	75	0	0	0	25
	電子オルガンⅢ	演習	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	電子オルガンⅣ	演習	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	声楽Ⅰ	演習	6	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	声楽Ⅱ	演習	6	試験	100	0	100	50	33	17	0	0
	声楽Ⅲ	演習	8	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	声楽Ⅳ	演習	8	試験	100	0	100	75	25	0	0	0
	重唱Ⅰ	演習	8	試験	100	0	100	75	13	13	0	0
	重唱Ⅱ	演習	8	試験	100	0	100	75	13	13	0	0
	総合音楽研究Ⅰ	演習	19	試験	100	0	100	53	37	11	0	0
	総合音楽研究Ⅱ	演習	15	試験	87	0	87	87	0	0	0	13
	総合音楽研究Ⅲ	演習	31	試験	100	0	100	94	6	0	0	0
	総合音楽研究Ⅳ	演習	29	試験	100	0	100	79	21	0	0	0
	副科ピアノⅠ	演習	38	試験	95	0	95	21	58	16	0	5
	副科ピアノⅡ	演習	33	試験	97	0	97	21	58	18	0	3
	副科ピアノⅢ	演習	30	試験	100	0	100	20	57	23	0	0
	副科ピアノⅣ	演習	28	試験	89	4	93	11	61	21	0	7
	副科管弦打楽器Ⅰ	演習	20	試験	95	5	100	70	15	15	0	0

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	副科管弦打楽器Ⅱ	演習	16	試験	88	0	88	75	13	0	0	13
	副科管弦打楽器Ⅲ	演習	16	試験	100	0	100	75	19	6	0	0
	副科電子オルガンⅠ	演習	2	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	副科電子オルガンⅡ	演習	2	試験	50	0	50	50	0	0	0	50
	副科電子オルガンⅢ	演習	3	試験	100	0	100	67	33	0	0	0
	副科電子オルガンⅣ	演習	4	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	副科声楽Ⅰ	演習	57	試験	98	0	98	35	63	0	0	2
	副科声楽Ⅱ	演習	52	試験	96	0	96	27	64	6	0	4
	副科声楽Ⅲ	演習	18	試験	100	0	100	67	33	0	0	0
	副科声楽Ⅳ	演習	17	試験	100	0	100	76	24	0	0	0
	オーケストラⅠ	演習	33	総合評価	91	0	91	91	0	0	0	9
	オーケストラⅡ	演習	42	総合評価	95	0	95	81	10	5	0	5
	オーケストラⅢ	演習	40	総合評価	100	0	100	95	3	3	0	0
	管楽アンサンブルⅠ	演習	30	総合評価	97	0	97	97	0	0	0	3
	管楽アンサンブルⅡ	演習	31	総合評価	97	0	97	77	13	7	0	3
	管楽アンサンブルⅢ	演習	30	総合評価	100	0	100	93	3	3	0	0
	弦楽アンサンブルⅠ	演習	2	総合評価	50	0	50	50	0	0	0	50
	弦楽アンサンブルⅡ	演習	11	総合評価	91	0	91	91	0	0	0	9
	弦楽アンサンブルⅢ	演習	10	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	合奏	演習	35	総合評価	83	0	83	66	14	3	0	17
	合唱Ⅰ	演習	66	総合評価	99	0	99	42	47	9	0	2
	合唱Ⅱ	演習	63	総合評価	95	0	95	37	52	6	0	5
	合唱Ⅲ	演習	58	試験・出席	100	0	100	71	26	3	0	0
	合唱Ⅳ	演習	57	総合評価	100	0	100	61	37	2	0	0
	ソルフェージュⅠ	演習	64	総合評価	97	0	97	30	52	16	2	2
	ソルフェージュⅡ	演習	53	総合評価	93	0	93	38	38	17	0	8
	ソルフェージュⅢ	演習	62	総合評価	97	3	100	53	35	11	0	0
	ソルフェージュⅣ	演習	56	総合評価	96	0	96	59	27	11	0	4
	声楽のためのイタリア語Ⅰ	講義	42	試験	100	0	100	86	14	0	0	0
	声楽のためのイタリア語Ⅱ	講義	43	試験	93	0	93	51	26	16	0	7
	音楽通論	講義	64	試験	95	0	95	67	19	8	0	6
	和声楽Ⅰ	講義	60	試験	93	0	93	68	18	7	0	7
	和声学Ⅱ	講義	28	試験	100	0	100	75	21	4	0	0
	和声学Ⅲ	講義	16	試験	100	0	100	75	19	6	0	0
	ピアノ作品概論	講義	24	総合評価	92	0	92	25	29	38	4	4
	指揮法Ⅰ	講義	60	総合評価	90	0	90	55	28	7	0	10
	指揮法Ⅱ	講義	39	総合評価	95	0	95	54	38	3	0	5
	伴奏法A	演習	16	総合評価	94	0	94	38	25	31	0	6
	伴奏法B	演習	47	総合評価	94	0	94	30	45	19	0	6
	音楽史Ⅰ	講義	67	総合評価	75	21	96	42	25	29	0	5
	音楽史Ⅱ	講義	51	総合評価	90	4	94	47	28	20	0	6
	楽器学	講義	59	総合評価	97	0	97	76	19	2	0	3
	音楽生理学	講義	41	総合評価	83	0	83	64	15	5	0	17
	音楽指導法	演習	35	総合評価	94	0	94	71	17	6	0	6
	舞踊	演習	42	試験	98	0	98	60	31	7	0	2
	演奏活動概論	講義	19	試験	95	0	95	37	58	0	0	5
	演奏活動演習	演習	10	試験	100	0	100	50	40	10	0	0
	音楽療法概論	講義	30	総合評価	77	0	77	50	20	7	13	10
	音楽療法基礎	講義	23	総合評価	96	0	96	83	9	4	0	4
	音楽療法演習Ⅰ	演習	20	総合評価	100	0	100	20	80	0	0	0
	音楽療法演習Ⅱ	演習	20	総合評価	100	0	100	40	60	0	0	0
	音楽療法実習	実習	20	総合評価	100	0	100	70	30	0	0	0
	専修演奏Ⅰ	演習	60	総合評価	97	3	100	33	58	8	0	0

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	専修演奏Ⅱ	演習	62	総合評価	100	0	100	39	55	6	0	0
	音楽科教育法	講義	23	総合評価	100	0	100	26	70	4	0	0
	日本伝統音楽Ⅰ	講義	27	試験	96	0	96	26	37	33	0	4
	日本伝統音楽Ⅱ	講義	27	試験	96	0	96	15	44	37	0	4
音楽療法	医学概論	講義	23	総合評価	78	22	100	35	26	39	0	0
	看護学	講義	2	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	臨床心理学	講義	20	総合評価	100	0	100	45	40	15	0	0
	障害児保育	講義	18	総合評価	100	0	100	40	45	15	0	0
教職	教育原理	講義	36	総合評価	100	0	100	83	11	6	0	0
	教育相談	講義	26	総合評価	100	0	100	81	8	12	0	0
	教師論	講義	30	試験	90	0	90	57	23	10	0	10
	教育心理学	講義	30	試験	63	27	90	20	20	50	0	10
	教育制度	講義	38	レポート	100	0	100	92	8	0	0	0
	道徳教育論	講義	22	試験	100	0	100	77	14	9	0	0
	特別活動論	講義	22	試験	100	0	100	77	14	9	0	0
	教育方法論	講義	26	試験	85	0	85	73	8	4	0	15
	生徒指導論	講義	22	試験	100	0	100	68	21	12	0	0
	教育実習	講義	22	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	企業経営論	講義	8	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	実用外国語	講義	9	総合評価	89	0	89	11	11	67	11	0
	簿記	演習	8	総合評価	38	62	100	0	13	88	0	0

【保育学科】 注：幼児教育専攻と保育専攻を合わせたデータを記載している。

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
教養	日本語学	講義	60	試験	100	0	100	30	38	32	0	0
	社会生活論	講義	125	試験	99	1	100	38	30	32	0	0
	日本国憲法	講義	122	総合評価	94	5	99	28	47	24	0	1
	コンピュータ演習Ⅰ	演習	127	試験	100	0	100	86	10	5	0	0
	コンピュータ演習Ⅱ	演習	126	試験	98	1	99	91	2	5	0	1
	英語Ⅰ	演習	124	試験	82	13	95	27	27	41	4	1
	英語Ⅱ	演習	22	試験	91	0	91	59	23	9	0	9
	体育実技	実習	124	総合評価	98	0	98	79	11	9	0	2
	体育理論	講義	126	総合評価	100	0	100	83	15	2	0	0
専門	社会福祉	講義	126	レポート	99	0	99	94	4	1	0	1
	社会福祉援助技術	演習	125	レポート	98	0	98	67	30	1	0	2
	児童福祉Ⅰ	講義	124	レポート	100	0	100	91	9	0	0	0
	児童福祉Ⅱ	講義	53	レポート	100	0	100	92	8	0	0	0
	保育原理Ⅰ	講義	124	試験・レポート	98	2	100	34	49	17	0	0
	養護原理	講義	127	レポート	99	0	99	61	32	6	0	1
	教育原理	講義	126	試験	70	29	99	12	24	61	2	1
	教師論	講義	126	レポート	98	2	100	68	21	11	0	1
	教育制度	講義	125	試験	98	0	98	30	57	12	0	1
	幼児教育史	講義	29	試験	100	0	100	79	10	10	0	0
	教育課程論	講義	142	試験	99	0	99	85	13	2	0	1
	教育相談	講義	124	レポート	99	0	99	54	42	3	0	1
	発達心理学	講義	124	レポート	98	2	100	42	54	4	0	0
	カウンセリング	講義	13	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	教育心理学	講義	125	レポート	75	25	100	15	18	67	0	0
	小児保健	講義	124	レポート	100	0	100	77	14	10	0	0
	小児保健実習	実習	124	試験・レポート	92	8	100	45	19	35	0	0
	小児栄養Ⅰ	演習	124	試験	99	0	99	48	34	17	0	1

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	小児栄養Ⅱ	演習	55	レポート	98	0	98	46	22	31	0	1
	障害児臨床心理学	講義	60	試験	98	0	98	43	37	18	0	2
	精神保健	講義	126	レポート	95	0	95	21	14	60	4	1
	家族援助論	講義	124	レポート	79	20	99	17	25	57	0	1
	保育内容の研究(リズム表現)	演習	140	試験	99	0	99	88	11	0	1	0
	保育内容の研究(音楽表現Ⅰ)	演習	124	総合評価	99	0	99	50	48	2	0	1
	保育内容の研究(音楽表現Ⅱ)	演習	124	試験	98	0	98	53	35	10	0	2
	保育内容の研究(環境Ⅰ)	演習	141	試験・レポート	99	0	99	82	16	1	0	1
	保育内容の研究(環境Ⅱ)	演習	141	試験・レポート	99	0	99	78	14	6	0	1
	保育内容の研究(健康)	演習	126	試験・レポート	97	0	97	41	39	17	0	3
	保育内容の研究(言葉Ⅰ)	演習	157	試験	99	0	99	50	41	8	0	1
	保育内容の研究(言葉Ⅱ)	演習	156	レポート	96	3	99	54	26	19	1	1
	保育内容の研究(人間関係)	演習	140	レポート	99	0	99	25	71	2	0	1
	保育内容の研究(造形表現Ⅰ)	演習	136	総合評価	93	5	98	31	37	31	1	1
	保育内容の研究(造形表現Ⅱ)	演習	136	総合評価	98	0	98	53	26	19	0	2
	乳児保育Ⅰ	演習	125	試験・レポート	100	0	100	22	39	39	0	0
	乳児保育Ⅱ	演習	57	試験	98	0	98	35	49	14	0	2
	乳児保育Ⅲ	演習	6	試験	83	0	83	33	33	17	0	17
	障害児保育Ⅰ	演習	126	試験・レポート	99	0	99	48	27	25	0	1
	障害児保育Ⅱ	演習	62	試験・レポート	98	0	98	63	21	15	0	2
	障害児保育Ⅲ	演習	59	試験・レポート	98	0	98	46	41	12	0	2
	養護内容	演習	125	レポート	98	0	98	79	18	1	1	2
	小児医学	講義	13	試験・レポート	62	15	77	23	23	31	0	23
	療養保育	講義	16	試験	81	0	81	56	25	0	0	19
	音楽療法	講義	19	レポート	89	5	94	53	32	11	5	0
	音楽	演習	124	試験	100	0	100	67	33	0	0	0
	器楽Ⅰ	演習	139	試験	96	4	100	8	46	45	0	1
	器楽Ⅱ	演習	137	試験	93	7	100	11	47	42	0	0
	器楽Ⅲ	演習	141	試験	95	4	99	15	40	44	0	1
	器楽Ⅳ	演習	141	試験	98	0	98	9	50	38	1	1
	幼児音楽Ⅰ	演習	60	試験	98	2	100	45	47	8	0	0
	幼児音楽Ⅱ	演習	38	試験	100	0	100	76	24	0	0	0
	図画工作Ⅰ	演習	129	総合評価	100	0	100	61	36	3	0	0
	図画工作Ⅱ	演習	41	総合評価	100	0	100	46	37	17	0	0
	幼児体育Ⅰ	演習	136	試験	97	3	100	69	19	11	0	0
	幼児体育Ⅱ	演習	50	試験	100	0	100	88	12	0	0	0
	国語	講義	64	試験	100	0	100	25	36	39	0	0
	生活	講義	65	試験	99	0	99	83	14	2	0	2
	教育実習	実習	141	総合評価	99	0	99	88	10	2	0	0
	特別実習Ⅰ	実習	2	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	特別実習Ⅱ	実習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別実習Ⅲ	実習	2	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	保育実習Ⅰ	実習	125	総合評価	99	0	99	91	8	0	0	1
	保育実習Ⅱ	実習	123	総合評価	99	0	99	81	17	1	0	1
	保育実習Ⅲ	実習	16	総合評価	94	0	94	81	13	0	0	6
	総合演習	演習	125	総合評価	98	0	98	33	43	22	1	2
	卒業研究	演習	125	総合評価	99	0	99	96	1	2	0	1

【専攻科栄養専攻】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	栄養生理学特論	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	栄養生理学特論演習	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	生化学特論Ⅰ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	生化学特論Ⅱ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	生化学特論Ⅲ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品学特論Ⅰ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品学特論Ⅱ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品学特論Ⅲ	講義	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品学特論Ⅳ	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品学特論実験	実験	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	栄養学特論	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	栄養学特論実習	実習	3	総合評価	100	0	100	67	33	0	0	0
	栄養指導特論Ⅰ	講義	3	試験	100	0	100	33	67	0	0	0
	栄養指導特論Ⅱ	講義	3	試験	0	100	100	33	33	33	0	0
	栄養指導特論実習	実習	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	臨床栄養学特論Ⅰ	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	臨床栄養学特論Ⅱ	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	臨床栄養学特論Ⅲ	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品衛生学特論Ⅰ	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	食品衛生学特論Ⅱ	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	公衆衛生学特論Ⅰ	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	公衆衛生学特論Ⅱ	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	調理科学特論Ⅰ	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	調理科学特論実験	実験	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	社会福祉特論	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	人間関係特論	講義	3	レポート	100	0	100	100	0	0	0	0
	生活経済学特論	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	外国文献講読Ⅰ	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	外国文献講読Ⅱ	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	情報処理特論	講義	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	情報処理特論演習Ⅰ	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	情報処理特論演習Ⅱ	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	特別研究	演習	3	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0

【専攻科音楽専攻】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	ピアノ奏法研究Ⅰ	演習	5	試験	100	0	100	20	20	60	0	0
	ピアノ奏法研究Ⅱ	演習	5	試験	100	0	100	40	40	20	0	0
	弦楽器奏法研究	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	管楽器奏法研究	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	打楽器奏法研究	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	声楽研究	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	副科ピアノ研究Ⅰ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	副科ピアノ研究Ⅱ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	副科管弦打楽器研究	演習	2	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	副科声楽研究Ⅰ	演習	3	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	副科声楽研究Ⅱ	演習	2	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	合奏研究	演習	4	総合評価	100	0	100	75	25	0	0	0
	合唱研究Ⅰ	演習	5	総合評価	100	0	100	80	20	0	0	0
	合唱研究Ⅱ	演習	5	総合評価	100	0	100	80	20	0	0	0

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	重奏Ⅰ	演習	5	総合評価	80	0	80	40	40	0	0	20
	重奏Ⅱ	演習	4	総合評価	100	0	100	50	50	0	0	0
	オペラ演習	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	伴奏法研究Ⅰ	演習	5	試験	100	0	100	40	20	40	0	0
	伴奏法研究Ⅱ	演習	5	試験	100	0	100	60	40	0	0	0
	特別研究	演習	5	総合評価	80	0	80	40	40	0	0	20
	楽曲分析Ⅰ	講義	5	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	60	40	0	0	0
	楽曲分析Ⅱ	講義	5	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	20	40	40	0	0
	対位法Ⅰ	講義	6	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	67	33	0	0	0
	対位法Ⅱ	講義	2	ﾚﾎﾟｰﾄ	100	0	100	50	50	0	0	0
	音楽史特講	講義	5	総合評価	80	0	80	60	20	0	0	20
	音楽学	講義	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	演奏活動Ⅰ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	演奏活動Ⅱ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	ディクションⅠ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	ディクションⅡ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	ドイツ語中級Ⅰ	講義	5	試験	100	0	100	20	80	0	0	0
	ドイツ語中級Ⅱ	講義	5	試験	80	0	80	40	40	0	0	20
	教育思想史	講義	5	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	学外演奏	演習	5	総合評価	100	0	100	60	40	0	0	0
	修了演奏	演習	5	試験	100	0	100	40	40	20	0	0

【専攻科音楽演奏専攻】

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	ピアノ奏法研究Ⅰ	演習	4	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	ピアノ奏法研究Ⅱ	演習	4	試験	100	0	100	75	25	0	0	0
	ピアノ奏法研究Ⅲ	演習	4	試験	100	0	100	75	25	0	0	0
	ピアノ奏法研究Ⅳ	演習	4	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	弦楽器奏法研究Ⅰ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	弦楽器奏法研究Ⅱ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	管楽器奏法研究Ⅰ	演習	5	試験	100	0	100	60	40	0	0	0
	管楽器奏法研究Ⅱ	演習	5	試験	100	0	100	60	40	0	0	0
	打楽器奏法研究Ⅰ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	打楽器奏法研究Ⅱ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	声楽研究Ⅰ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	声楽研究Ⅱ	演習	0	試験	0	0	0	0	0	0	0	0
	副科ピアノ研究Ⅰ	演習	3	試験	100	0	100	33	67	0	0	0
	副科ピアノ研究Ⅱ	演習	4	試験	100	0	100	50	25	25	0	0
	副科ピアノ研究Ⅲ	演習	5	試験	60	0	60	40	20	0	0	40
	副科ピアノ研究Ⅳ	演習	5	試験	100	0	100	20	60	20	0	0
	副科管弦打楽器研究Ⅰ	演習	2	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	副科管弦打楽器研究Ⅱ	演習	2	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	副科声楽研究Ⅰ	演習	7	試験	100	0	100	43	43	14	0	0
	副科声楽研究Ⅱ	演習	7	試験	100	0	100	57	43	0	0	0
	合奏研究Ⅰ	演習	7	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	合奏研究Ⅱ	演習	7	総合評価	100	0	100	86	14	0	0	0
	合唱研究Ⅰ	演習	9	総合評価	100	0	100	22	56	22	0	0
	合唱研究Ⅱ	演習	8	総合評価	100	0	100	63	38	0	0	0
	合唱研究Ⅲ	演習	8	総合評価	100	0	100	50	50	0	0	0
	合唱研究Ⅳ	演習	7	総合評価	86	0	86	71	14	0	0	14
	重奏Ⅰ	演習	4	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0

種別	科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	放棄
専門	重奏Ⅱ	演習	10	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	室内楽Ⅰ	演習	9	総合評価	100	0	100	44	44	11	0	0
	室内楽Ⅱ	演習	9	総合評価	100	0	100	78	22	0	0	0
	オペラ演習Ⅰ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	オペラ演習Ⅱ	演習	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	スコア・リーディング	講義	9	総合評価	100	0	100	67	0	33	0	0
	DTM演習	演習	9	総合評価	100	0	100	44	44	11	0	0
	伴奏法研究Ⅰ	講義	6	試験	100	0	100	50	17	33	0	0
	伴奏法研究Ⅱ	講義	12	試験	100	0	100	75	25	0	0	0
	ピアノ作品研究Ⅰ	講義	8	総合評価	100	0	100	25	38	38	0	0
	ピアノ作品研究Ⅱ	講義	8	総合評価	100	0	100	38	25	38	0	0
	管弦打楽器作品研究Ⅰ	講義	4	試験	75	0	75	50	25	0	0	25
	管弦打楽器作品研究Ⅱ	講義	2	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	声楽作品研究Ⅰ	講義	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	声楽作品研究Ⅱ	講義	0	総合評価	0	0	0	0	0	0	0	0
	現代音楽作品研究Ⅰ	講義	7	総合評価	100	0	100	71	29	0	0	0
	特別研究	講義	9	総合評価	100	0	100	56	44	0	0	0
	楽曲分析Ⅰ	講義	9	レポート	100	0	100	67	33	0	0	0
	楽曲分析Ⅱ	講義	10	レポート	100	0	100	40	40	20	0	0
	対位法Ⅰ	講義	8	レポート	88	0	88	63	13	13	0	13
	対位法Ⅱ	講義	9	レポート	89	0	89	56	22	11	0	11
	音楽史特講	講義	10	総合評価	100	0	100	30	60	10	0	0
	音楽学	講義	9	総合評価	100	0	100	78	22	0	0	0
	演奏活動Ⅰ	講義	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	演奏活動Ⅱ	講義	5	総合評価	100	0	100	80	20	0	0	0
	ドイツ語中級Ⅰ	講義	8	試験	100	0	100	50	50	0	0	0
	ドイツ語中級Ⅱ	講義	8	試験	100	0	100	25	63	13	0	0
	教育思想史	講義	4	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	発達心理学	講義	5	総合評価	80	0	80	80	0	0	0	20
	生理学	講義	3	総合評価	100	0	100	0	100	0	0	0
	美学	講義	9	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	音楽科教授法Ⅰ	講義	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	音楽科教授法Ⅱ	講義	5	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	合奏指揮法	演習	6	試験	100	0	100	67	33	0	0	0
	合唱指揮法	演習	3	演習	100	0	100	100	0	0	0	0
	日本伝統音楽研究	講義	9	試験	100	0	100	11	89	0	0	0
	学外演奏Ⅰ	演習	9	総合評価	100	0	100	100	0	0	0	0
	学外演奏Ⅱ	演習	9	総合評価	100	0	100	89	11	0	0	0
	修了演奏Ⅰ	演習	8	試験	100	0	100	63	37	0	0	0
	修了演奏Ⅱ	演習	9	試験	100	0	100	56	44	0	0	0
	教育課程研究	講義	5	試験	100	0	100	100	0	0	0	0
	道徳教育研究	講義	5	試験	100	0	100	80	20	0	0	0
	特別活動研究	講義	5	試験	100	0	100	20	60	20	0	0

4.1.2　単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

各授業の評価方法はシラバスに明示し、第１回目の授業においても各授業担当者があらためて確認・説明をしている。筆記試験、提出物（作品提出を含む)、レポート等、各授業内容に合わせた評価方法が取り入れられている。このほか、出欠状況や受講態度等も考慮した総合的な評価や、作品等の制作では個人ごとに達成度評価（技術の向上度）もなされている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

単位認定については、学期末試験、出欠状況、受講態度、提出物とその内容などをもとに総合的に判断しており、妥当であると考えている。なお、調理実習など実技を伴う科目については、達成度評価も採用している。栄養士資格取得に必要な科目での不合格者に対しては、補講以外の個別指導などを行って及第点を取れるように指導した上で再試験を実施している科目が多い。したがって、卒業に必要な科目の単位、栄養士資格取得に必要な科目の単位については概ね 100%の取得状況である。

【音楽学科】(学科長の見解)

単位認定については、シラバスに記した方法で評価を行っている。実技科目の評価については、各学期末にピアノ・管弦打楽器・声楽・電子オルガンの４分野に分かれて実技試験を実施し、各分野とも担当教員全員による評価点数から平均値を求め、これを成績点として５段階評価を行っている。

これらの評価に加えて、個人の達成度評価も取り入れ、学生の意欲向上を図っている。

【保育学科】(学科長の見解)

単位認定の方法として、試験、レポート、出欠状況などを含めた総合評価を採用している科目が多いが、ピアノなどの実技科目は個人の達成度評価も取り入れている。学科の目標でもある２つの国家資格を取得するために多くの単位取得が要求されているが、学生の単位取得状況は概ね良好である。

4.1.3　単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状（学長の見解）

単位認定については、厳正な出欠管理に基づいて受験資格を与え、シラバスに記載された試験の実施と評価によって適正に行われており、良好な状況であると考えている。ただ、「担当教員が行うべき１科目あたり 15 回の授業」のチェックについては若干の問題を抱えている。食物栄養学科では厚生労働省の指示により学科開設当初から厳密なチェックを行っているが、他の学科についてはチェックが曖昧になっている部分がある。単位認定は 15 回の授業回数を遵守することが基本であるから、早急にチェック体制を整えるように指示した。

単位の取得状況を学科ごとに平均を求めると次の表のようになった。この表に見られるように単位取得率は 100%に近い値を示し、その内 50%以上の学生が「優」の評価を受けている。教員の努力が実り、満足できる結果であると自己評価している。

学科・専攻科別単位取得率（平成 16 年度）

学科・専攻科	単位取得率
コミュニティ生活学科	91%（52%）
食物栄養学科	97%（59%）
音楽学科	95%（57%）
保育学科	98%（56%）
専攻科栄養専攻	100%（95%）
専攻科音楽専攻	97%（56%）
専攻科音楽演奏専攻	98%（63%）

注１：（ ）内は「優」が占める割合。
注２：専攻科生活文化専攻及び幼児教育専攻（現、保育専攻）は前年度の修了生がいなかったため、データを掲載していない。

4.2 授業に対する学生の満足度

4.2.1 「学生の満足度」の調査概要

学生の満足度の調査は、授業評価アンケートでの満足度に関する設問（全学科）、卒業直前または卒業後に実施する総合アンケート（コミュニティ生活学科、食物栄養学科、保育学科）によって行われている。授業評価アンケートでの満足度調査では全体的に良好な数値（５段階評価で 3.5～4.0）が毎年得られている。卒業直前の短大教育全体に対する満足度はさらに良い評価を得ている。アンケートの自由記述欄には様々な要望が寄せられており、内容を吟味しながら今後も学生の満足度を向上すべくより努力をしていかなければならないと考えている。

4.2.2 学生の満足度への配慮

【コミュニティ生活学科】（学科長の見解）

コミュニティ生活学科では、各学期末に授業評価アンケートを実施し、その結果をもとに科会において各授業の満足度を上げるための改善点について検討している。このアンケートを実施したことによって、結果が数値として表れ、問題点や改善点を見つけやすくなった。また自由記述の欄にも比較的記載が多く、大変参考になっている。授業への満足度は 15 年度よりも 16 年度の方が高いので、授業改善の努力が実っていると評価できる。なお、「対話」を通して学生のニーズを把握することも大切と考えている。

【食物栄養学科】（学科長の見解）

満足度アンケートの結果を真摯に受けとめて教員間で検討し、授業改革に役立てている。ただ、なぜ満足したのかという理由を尋ねていないので、満足度の調査方法にも検討の余地が残されていると考えている。

【音楽学科】（学科長の見解）

アンケート集計結果を各担当教員に提示すると共に、学科長が全体を把握し、問題点、授業改善の方法、授業存廃の検討等について担当教員との話し合いを行っている。現在までに担当教員を変更した事例が３件、科目を廃止した事例が１件あるが、授業に対する学生の満足度は総体的に高い水準にある。

【保育学科】（学科長の見解）

授業評価のアンケートで授業への満足度を調査すると共に、日頃の授業でも学生が満足できているかどうかを把握するように努めている。

4.2.3　全体の現状（学長の見解）

教育目標の達成という観点からの授業改革・改善に対して意識が弱いので、満足度調査の内容・方法を含めた改善を要する。また、満足度調査を活用した改善を図りたい。

4.3　退学、休学、留年等の状況

4.3.1　過去３ヶ年の退学、休学、留年等の数

過去３ヶ年の休・退学の現状は次のとおりである。なお、専攻科における休・退学者は過去３ヶ年いない。

【コミュニティ生活学科】　　平成 17 年５月１日現在

	14 年度入学	15 年度入学	16 年度入学	備考
入学者数	65	108	85	1) 15 年度入学の除籍は授業料未納による。
退学者数	0	4	3	
休学者数	0	1	2	
休学者の内の復学者数	－	0	0	
除籍者数	0	1	0	
留年者数	0	0	－	
卒業生数	65	102	－	

注１：14 年度の数はコミュニティ生活学科の前身である生活文化学科のものである。
注２：定員はいずれの年度も 87 名。

【食物栄養学科】　　平成 17 年５月１日現在

	14 年度入学	15 年度入学	16 年度入学	備考
入学者数	83	46	49	1) 14 年度入学の復学者5名のうち、4名は 16 年度に卒業、1名は長期履修学生。
退学者数	5	3	0	2) 15 年度入学の除籍は死亡による。
休学者数	5	0	3	
休学者の内の復学者数	5	－	0	
除籍者数	0	1	0	
留年者数	0	0	－	
卒業生数	77	42	－	1) 14 年度入学の欄の卒業生数は、復学して 16 年度に卒業した4名を含む。

注１：14 年度の数は食物栄養学科の前身である生活科学科（栄養専攻・生活科学専攻）のもので、２専攻の数を合わせている。
注２：定員は 14 年度が 100 名、15 年度及び 16 年度が 50 名。

【音楽学科】　　平成 17 年５月１日現在

	14 年度入学	15 年度入学	16 年度入学	備考
入学者数	61	67	80	1) 14 年度入学の留年者は 16 年度に退学。
退学者数	9	4	4	2) 15 年度入学の除籍は授業料未納による。
休学者数	0	0	1	3) 15 年度入学のうち1名は長期履修学生。
休学者の内の復学者数	－	－	0	
転学者数	0	1	0	
除籍者数	0	1	0	
留年者数	1	0	－	
卒業生数	51	60	－	

注１：14 年度及び 15 年度の数は専攻分離廃止前の２専攻（器楽専攻・声楽専攻）の数を合わせたものである。
注２：定員はいずれの年度も 70 名。

【保育学科】　　平成 17 年５月１日現在

	14 年度入学	15 年度入学	16 年度入学	備考
入学者数	64	128	127	1) 14 年度入学の復学者1名は 16 年度に卒業。
退学者数	1	4	2	2) 15 年度入学のうち1名は長期履修学生。
休学者数	1	0	2	
休学者の内の復学者数	1	－	0	
留年者数	0	1	－	
卒業生数	63	122	－	1) 14 年度入学の欄の卒業生数は、復学して 16 年度に卒業した1名を含む。

注１：15 年度及び 16 年度の数は２専攻（幼児教育専攻･保育専攻）の数を合わせたものである。
注２：14 年度の数は保育学科の前身である幼児教育学科のものである。
注３：定員は 14 年度が 50 名、15 年度及び 16 年度が 100 名。

4.3.2　退学者の現状

過去３ヶ年の退学者の退学理由の内訳は次のとおりである。

理由	14 年度	15 年度	16 年度	合計
進路変更	10	8	8	26
経済的困難	3	2	0	5
病気(身体的･精神的)	1	3	1	5
結婚	1	2	0	3
合計	15	15	9	39

学生が休学または退学を希望した場合、まずクラス主任またはチューターが詳しく事情を聴取している。休学または退学することが学生にとって望ましいと思われた時には、学生本人、クラス主任またはチューター、学生部（学生部長、厚生補導担当次長）、保護者（または保証人）を交えて相談の場を設け、その後の方針について話し合っている。また、学生相談室や保健室でのカウンセリングを並行的に実施することもある。

これらのプロセスを経た上で、休学または退学の手続きを取らせるようにしているため、安易な休・退学はできない。実際の退学の理由については上記のとおりである。経済的理由、病気、結婚については致し方ないところであるが、進路変更という理由がやや目立っている。この中には新しい進路を自らの力で開拓した場合と、いわゆる学習分野のミスマッチの双方が含まれている。

このミスマッチは、学生本人が入学前に抱いていた大学教育のイメージと実際の教育内容との間に大きな差異が生じるために起こると推測される。ミスマッチを訴える学生には、まず大学内での転学科を勧めており、それに応じる学生もいる。しかし、毎年 10 名程度の学生が進路変更を理由に退学しているのが現状である。本学では、大学案内、オープンキャンパス、大学ホームページなどでの広報活動において、どちらかと言えば「楽しい学生生活」をイメージ化していることが、ミスマッチを生む要因とも考えられる。

4.3.3　退学、休学、留年等の現状に対しての受けとめ方

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

コミュニティ生活学科となって毎年５名の休・退学者が出ている。その主な理由は、経済的な理由、病気等である。しかし、中には意欲を失い、あるいは学習領域のミスマッチの結果、進路変更をした者がいる。このようなケースの場合は、少なくとも２回、保護者

を交えた話し合いの機会を設け、退学後のその学生の将来について学生・保護者・大学の三者が納得できた場合に退学を許可している。

本学科では入学から卒業までセミナー&チューター制によるきめ細かい指導を行っているが、ミスマッチの学生の指導方法についてさらなる改善に努めたい。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

現在のところ、休・退学者のほとんどの場合が経済的な理由または学習内容に対するミスマッチによる進路変更である。ミスマッチについては、入学前の詳しい情報提供によって少なくなるように努力しているところである。また、単位不足のために栄養士資格が取得できない学生が毎年１名ないし２名出ている。これは、栄養士という職業に途中から興味が失せてしまっていくためであると考えられ、休・退学という問題には至らないが大きな問題であると認識している。

【音楽学科】(学科長の見解)

音楽学科は、現在、退学者数が減少傾向を示している。これは、地域総合科学科として「音楽教育・二つの途」をテーゼとする教育を展開し、専攻分離やコース制の廃止、フィールド&ユニット制やセミナー&チューター制の導入等、様々な改革を行ってきた結果であると考えている。このような改革を通して、教員が学生に対して、また学生同士も、それぞれの目標を肯定し尊重するようになってきた。

今後も学生一人ひとりが自分はしっかりと見守られていると感じ、安心して勉学できる環境を整えていきたいと考えている。

【保育学科】(学科長の見解)

目的意識の強い学生が多く入学していることから、これまで休学、退学、留年の数は少なかったが、定員を 100 名に増加させた平成 15 年度入学の学生から４名の休・退学者が出ている。ほかにも進路変更等の相談を申し出る学生がそれまでよりも増えており、思い描いていたイメージと現実との差にとまどっているものと考えられる。入学希望者に実際の保育者の仕事の内容を周知していくような努力を積み重ねること、個々の学生へのきめ細かな対応などが求められていると感じている。

4.3.4　全体の現状(学長の見解)

学生一人ひとりを徹底的に把握することを目標にしているかぎり、休学、退学、留年等を少なくすることは至上の命題であり、あらゆる努力を傾けている。各学科とも、それぞれの工夫を凝らし、学生部も熱心に対応しているが、それでもミスマッチの学生はゼロにならず、休・退学者もゼロにはならないという現実がある。ミスマッチに関しては、入学予定者に対して大学教育の何たるか、各学科の学習内容の何たるかを周知していくことによって減らしていける可能性がある。この作業は高等学校側に求めるのではなく、大学側があらゆる機会（出張講義、進路相談会、オープンキャンパス、大学ホームページ、大学案内など）を通じて行っていくことが、ＡＯ入学制度で謳っている「高校と大学の接続」という観点からも重要であると考え、これからの課題としたい。

4.4　資格取得の取組み

4.4.1　免許・資格の取得状況

平成 16 年度（平成 17 年３月）卒業生の学科別の資格・免許取得状況は次のとおりである。

【コミュニティ生活学科】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
中学校教諭二種免許状(家庭)	課程内	13	12	92.3%
フードコーディネーター3級	課程内	36	32	88.9%
幼稚園教諭二種免許状	課程外	12	12	100.0%
訪問介護員2級	課程外	23	22	95.7%
食品衛生責任者資格証	学外	18	18	100.0%

【食物栄養学科】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
栄養士免許証	課程内	46	42	91.3%
フードスペシャリスト資格認定証	課程内	35	22	62.9%
訪問介護員2級	課程外	17	17	100.0%

【音楽学科】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
中学校教諭二種免許状(音楽)	課程内	22	21	95.5%
音楽療法士2種	課程内	20	20	100.0%
幼稚園教諭二種免許状	課程外	5	4	80.0%
訪問介護員2級	課程外	24	24	100.0%

【保育学科】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
幼稚園教諭二種免許状	課程内	128	121	94.5%
保育士資格	課程内	128	120	93.8%
訪問介護員2級	課程外	35	34	97.1%
レクリエーション・インストラクター	学外	7	7	100.0%

【専攻科栄養専攻】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
フードコーディネーター3級	学外	2	2	100.0%

【専攻科音楽演奏専攻】

名称	教育課程の別	取得をめざした者の数	取得した者の数	取得した割合
中学校教諭一種免許状(音楽)	課程内	4	1	25.0%

なお、教育課程による資格取得ではないが、専攻科栄養専攻及び音楽演奏専攻は大学評価・学位授与機構に認定されているため、学位（栄養学士、芸術学士）取得をめざす学生が毎年数名いる。過去３ヶ年において学士号を取得した者の数は次のとおりである。

学士号を取得した専攻科修了生の数

専攻科	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
栄　養　専　攻	3	0	3
音楽演奏専攻	2	2	3

4.4.2　今後導入を検討している免許・資格

本学は、これまで、国家資格や公的資格を取得させることを基本姿勢としており、今後もこの方針は変わらない。

新しい資格取得については、どの学科も毎年の検討課題としているが、現時点では予定がない。ただし、音楽学科で取得させている音楽療法士が近い将来、国家資格となる可能性が高く、これに対応できるように努力したいと考えている。なお、食物栄養学科では平成 17 年度から栄養教諭二種免許状取得の課程認定を受けた。

4.5　学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価

4.5.1　専門就職の状況

各学科の平成 16 年度（平成 17 年３月）卒業生の専門就職の状況は次のとおりである。

学科別専門就職率　　平成 17 年４月 30 日現在

学科	専門就職数	割合(%)	主な職種
コミュニティ生活	53	77.9	営業、販売、事務
食　物　栄　養	20	69.0	栄養士、調理員
音　　楽	17	56.7	演奏家、音楽講師、音楽療法士
保　　育	103	90.4	幼稚園教諭、保育士

【コミュニティ生活学科】

コミュニティ生活学科の専門教育の内容は多様なニーズに応える形で、ファッション、フード、ビジネス、クリエイト等、多領域にわたっているので、専門・非専門の区分は難しいが、ほとんどの学生が販売系・事務系を中心に就職しており、教育内容に関わる就職という意味では専門職への就職率は高いと言える。

【食物栄養学科】

食物栄養学科では、ここ数年を概観すると就職希望学生のほぼ半数の学生が栄養士（調理員を含む）として就職している。以前と比較するとかなり落ちていると言えるが、専門職希望者は、ほぼ全員が希望の職種に就いている。

【音楽学科】

音楽学科の場合、専門職への「正式な就職」という定義は必ずしも定まっているわけではない。アルバイトを続けながら演奏活動を続けている者も多いからである。その中で、演奏家、音楽講師、音楽療法士などのいわゆる専門職への就職率は 56.7%となっており、芸術系の学科としては極めて高い数値と言える。

【保育学科】

幼稚園や保育所等の専門就職の比率は 90%以上という状況が続いている。この高い数値は幼児教育学科の時代から長年にわたって維持され、本学科の特徴である。

4.5.2 「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等の概要とその結果

現在、大学全体として卒業後評価を積極的には行っていない。ただ、コミュニティ生活学科で平成 16 年 10 月に、平成 10 年３月から平成 16 年３月までの卒業生 799 名を対象として短大で学んで役立ったことは何かについてアンケート調査を行っている。この調査では回収率 12.6%で、役立ったという回答の割合が多い順に並べると、教養・常識・マナー51.5%、パソコン操作 47.5%、専門的知識・技術 46.5%、対人調整能力 42.6%、資格・検定 42.6%の順であった。生活学に関わる学習が卒業後の生活に有益であることを示すものとなった。

食物栄養学科及び保育学科では、卒業式直前に教育全般に関するアンケート調査を実施している。その結果、学習の達成度や資格取得、自己点検・評価に関する達成度などについて概ね良好な回答を得ており、また様々な要望や意見も得ている。これらを科会などで検討して授業改革や学科の運営改善に役立てている。

食物栄養学科及び音楽学科では、「広島文化短期大学栄養士研究会」（在学生及び卒業生で構成）や「あかね同窓会音楽分科会」を介して多くの卒業生と連絡をとっている。この中で、学科の教育内容に関する様々な意見や要望を聞くことができる。また、これらの組織を通じて、最新の栄養学に関する情報の提供、卒業生が主催する演奏会への後援などを行っているので、卒業後のフォローとなっている。

4.5.3 卒業生に対する就職先等からの評価

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

卒業生が就職先等からどのように評価されているかについて調査を行ったことはないが、ファッションやフードに関わる専門性の高い就職先企業から継続的に求人票をいただいているので、評価は悪くないと考えている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

現時点では直接に評価を集めることをしていない。しかし、栄養士に関しては卒業生が退職した時点で再び本学科へ求人票を送ってくださることが多く、評価は悪くないと考えている。なお、進学先からは、「優秀な学生を送ってもらった」という内容の書簡等が届いている。

【音楽学科】(学科長の見解)

専門職（演奏家として演奏団体へ就職、音楽講師、音楽療法士）については、本学に対する求人が続いていることから就職先からのよい評価を得られていると考えている。また、卒業生が様々な演奏会で活躍していることから地域からの評価も得ていると考えている。一般職への就職に関しては現在調査を行っていない。

【保育学科】(学科長の見解)

幼稚園、保育所、施設からの卒業生に対する評価については、実習指導の際に実習園で状況を聞いているが、概ね良好な評価を得ている。また各地域の幼稚園、保育所の協会との懇談会においても概ね良好な評価を得ている。

【全体の現状】(学長の見解)

調査に取りかかったばかりであり、十分なコメントが書けない。しかし、概して良好であると思っている。

4.5.4　卒業生の社会からの評価（学長の見解）

教育の真の評価は「その場」的な評価ではなく、大学を巣立ったかつての学生がどのように社会の一員として活躍し、また一人ひとりが幸せに暮らしているかということによって判断しなければならない。同時に、地域社会にどのように受け入れられているかという観点からも考慮する必要がある。幸い、開学以来、絶えることなく入学志願者が本学の門を叩き、本学がある長束学区からも変わらず入学者が続いている。このことは、本学の卒業生が地域社会に受け入れられていることを証明するものである。しかしながら、卒業生が社会からどのように評価されているかについて、これまで本格的な調査は行ってこなかったので、急ぎ調査を開始した。結果は未だ出ていないが、近い時期に公表できると考えている。

4.6　自己評価及び今後の課題

4.6.1　自己評価

この３ヶ年は、各学科でそれぞれの教育方針と関連づけた特色ある評価活動に取り組むなど、教育の効果を高めようとする努力が大いにみられた。また、各学科と学生部との緊密な連携によるきめ細かな学生指導の取組みが、多様な学生が入学している中であっても休・退学者数が少ないという結果に結びついていると考えられる。学生の単位取得状況も概ね良好である。

4.6.2　今後の課題

（１）教育改善のため、全学的な取組みとして、①学生の満足度、②卒業生からの評価、③就職先や社会からの評価、に関する情報収集に努める。

（２）多様な学生に適切に対応できる体制をさらに整備して、休・退学者の減少に努める。

Ⅴ　学生支援

Ⅴ　学生支援

5.1　入学に関する支援

5.1.1　入学志願者に対する案内

入学志願者には、大学案内、学生募集要項、大学ホームページ（http://www.h-bunka.ac.jp）を通じて、建学の精神、各学科の教育目標及び学科が求める学生像等を明示している。

5.1.2　入学者選抜の方針、選抜方法の概要

本学では、ユニバーサル・アクセス時代の到来に合わせて、高等教育機関での学習機会を幅広く提供するために多様な選抜方法による入学試験を行っている。

各入試の概要、日程、選抜方法等は、学生募集要項及び大学ホームページにおいて詳細に示している。特にＡＯ入学制度（広島文化短大方式と呼ばれる）と長期履修学生制度（３年以上在学して短期大学の卒業資格を得る制度）は、本学が全国に先駆けて導入した制度であり、その趣旨と内容を詳しく掲載している。

本学が実施する入学試験の種別と選抜方法の概要

種別		実施時期	選抜方法の概要
アドミッション・オフィス（AO）入学制度		11 月上旬（相談は6～10 月に実施）	入学志願者の目的意識、進路に対する意欲や個性、高校等での履修科目・活動状況、学びたい内容が、本学の教育内容と接続可能か、対話をもとに総合的に判断して選考する。
特別推薦入学試験		11 月上旬	高等学校でのスポーツや芸術の活動、資格取得について優れるとして高等学校長が推薦した者に対し、小論文または実技、面接、調査書で選考する。
公募制推薦入学試験	1次	11 月上旬	出身高等学校等の長が、学業成績・人物共に優れていると推薦した者に対して、小論文、面接、調査書（評定平均値の基準はなし）等で選考する。
	2次	12 月上旬	
一般入学試験	1次	2 月上旬	学科試験、調査書等の結果により選考する。
	2次	3 月上旬	小論文、調査書等の結果により選考する。
	3次	3 月下旬	
社会人特別入学試験（AO入学制度）		11 月上旬（相談は6～10 月に実施）	社会人（入学年の4月1日現在満 21 歳以上の社会経験を有する者で、高等学校卒業またはそれと同等以上の学力があると認められた者）に対し、対話をもとに総合的に判断して選考する。
社会人特別入学試験	1次	2 月上旬	社会人に対して、小論文、面接等の結果により選考する。
	2次	3 月上旬	
	3次	3 月下旬	
長期履修学生入学試験	1次	2 月上旬	学びたい内容が本学の教育内容と接続可能か、対話をもとに総合的に判断して選考する。
	2次	3 月上旬	
	3次	3 月下旬	
大学入試センター試験利用入学試験		2 月中旬	大学入試センター試験の結果等により選考する。

5.1.3　広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要

広報及び入試事務の体制は次のとおりである。

名称	役割
企画広報室	広島文化学園としての広報計画を立案する。
企画広報委員会	企画広報室の立案を基本にして、本学としての独自の広報計画・学生募集計画を決定し、実行する。
入試企画委員会	入学試験の実施内容・日程について計画立案を行う。
入試室 ＡＯ担当者 入試委員 入試総務委員	AO担当者はAO入学制度の実施に関わる業務を行う。教員による入試委員と学生課職員による入試総務委員とで役割を分担し、入試事務を行う。なお、パソコンによるデータ処理等はコンピュータ委員（教員1名、学生課職員1名）が担当する。
入試運営協議会	全教職員をもって組織し、当日の試験実施等の入試業務を運営する。

また、入学志願者等からの問い合わせ（電話、ＦＡＸ、電子メール等）には、入試室のＡＯ担当者及び入試総務委員長が対応している。

5.1.4　願書受付から合否通知に至る入学試験の流れ

（１）短期大学の入学試験

本学が実施するすべての入学試験で共通する業務の流れを次頁に示す。

なお、ＡＯ入学制度と長期履修学生入学試験においては、願書受付を行う前に２回の個別相談（予備相談、本相談と呼ぶ）を実施している。本人の意欲・学びたい内容・将来の目標等について、「対話」をもとに本学への受け入れが可能かどうかを判断している。長期履修学生入学試験では、これに加えて１週間にどの程度履修できるか等も含めて判断している。いずれも本相談では志望学科の教員が面談を行っている。

（２）専攻科の入学試験

専攻科入試も教員と事務職員が協力して行っている。願書受付、データ入力、通知袋詰・発送は事務職員が行い、試験問題の作成、入力データの点検、採点、合否判定等は当該専攻科が行っている。教授会へはその合否結果を報告し承認を得る。このように、専攻科の入試も担当を明確にしている。

（入試総務委員長の見解）

本学では多様な選抜方法による入学試験を行っているが、すべて公正かつ正確に実施できていると考えている。また入試の合否判定に法人が介入することもない。

入試事務全体の流れは長年にわたる経験を積み重ねた結果、ほぼ固定していると言ってよい。教員と事務職員との役割分担は明確に分掌され、代々の入試室長と入試総務委員長が引き継いできた。本学の特徴である教職員一体となって事にあたるということは入試業務においても当てはまり、どのような事態が生じても全員が一体となって対応できているので大きな問題は起きていない。しかし、ミスを防止するための細かな改変（用紙類の整理など）、効率化を図るための改善（データベース内の記載方式など）、連絡網の検討（大雪対策など）は毎年行っている。

5.1.5　ＡＯ登録者、入学手続き者等に対しての情報提供

【コミュニティ生活学科】

ＡＯ入学制度において本相談を受け登録された者（以下、ＡＯ登録者と呼ぶ）に対して、教育内容（ファッション、フード、ビジネス、クリエイト）に関わる課題を送付している。その課題に対して返送された回答について、それぞれ専門の教員がコメントを付け、再度送っている。この方法により、ＡＯ登録者の目的意識を持続させ、入学後の学習につなげるようにしている。また、入学手続き者に対しては、ファッションショーや作品展示会等の学科行事を案内し、入学前に学科の教育内容にできるだけ触れる機会を設けている。

【食物栄養学科】

「入学前オリエンテーション」という位置づけで「確認面接を終えた皆さんへ」、「入学手続きを終えた皆さんへ」（内容は同一）というパンフレットをすべての試験制度の入学手続き者に配付している。教育の内容、セミナー活動や資格についての説明、担当教員紹介、入学までに準備すべきことなどについて記載している。この内容は、「入学直後オリエンテーション」に引き続く内容として一貫性を持たせるように工夫している。

入試業務の流れ

願書受付	入学試験ごとに事前の打ち合わせを行い、事務職員の当番制で受付事務を行う。願書受付を済ませたあと、データ入力係（事務職員）が志願者のデータ入力を行う。提出書類等の詳細確認、データチェックと入試の実施準備は入試委員（教員）が行う。
↓	
試験前日	すべての授業終了後、学生を一斉帰宅させてから会場の設営を行う（学生は入学試験終了まで学内立入禁止）。設営後、全教職員出席のもと入試運営協議会を開催し、直前打ち合わせを行う。当日の日程確認のほか、面接担当者は出願書類の内容確認を行う。
↓	
試験当日	入試委員は開始2時間前までに出勤し、当日の準備を行う（当日の入試運営も入試委員で担当）。その他の教職員も1時間 10 分前には全員出勤を完了する。試験開始までは担当教職員が試験会場までの案内（一部学生の手伝いあり）と駐車場警備を行う。
↓	
採点と合否判定資料の作成	試験当日のうちに採点を行う。入試委員により合否判定資料（選考結果一覧表）を作成し、コンピュータ委員がデータ化・出力したものを入試委員が点検する。
↓	
判定会議前日	法人（理事長、副理事長、理事長補佐、事務局長）、学長、学長補佐、入試本部長、入試室長、教養教育代表、各学科長、入試事務担当者により判定事前打ち合わせを行う。過去の合否判定データ等を参考にしながら、判定原案（定員確保のために合格させる数）を検討する。
↓	
判定会議当日	教授会構成員により合否判定について審議し、合否を決定する。合否決定を受け、入試委員は判定結果表を作成し、コンピュータ委員がデータ化・出力を行う（選考結果一覧表の出力）。入試委員により選考結果一覧表の正誤について複数回の点検を経た後、コンピュータ委員により合否通知（本人宛）を出力する。この合否通知について再び入試委員による複数回の点検を行い、通知袋詰・発送係（事務職員）に渡す。
↓	
合格発表	受験者の全員に、合格通知または不合格通知を発送する。発送は合格発表前日に完了する。なお、本学では合格発表は郵送による通知のみで、学内掲示及び大学ホームページでの公表は行っていない。

【音楽学科】

音楽学科では、入学手続き者に対して、11 月下旬に開催する定期演奏会、２月下旬に開催する卒業演奏会及び修了演奏会の招待状を送り、学科の教育内容に触れる機会を設けている。また、希望者には無料体験レッスンを実施している。

【保育学科】

保育学科では、ＡＯ登録者に対して、確認面接の際に実施するピアノレッスンに基づいて各自の進度に応じた課題を与えると共に、本相談で発表した各自の特技や活動経験に関連する課題、不得意な分野を改善するための課題を設定させて、入学後の学習がスムーズに展開されるようにしている。

5.1.6　オリエンテーションの概要

新入生に対するオリエンテーションは入学式の翌日から２～３日かけて行っている。この日程の中で、全体オリエンテーション、学科オリエンテーション、自治会オリエンテーション、健康診断を組み合わせている。学則解説、カリキュラムと履修説明、その他について十分な理解を得させるべく努めている。加えて、就職に対する意識づけも行っている。

各学科に共通する配付資料としては、「学生便覧」、「授業計画（通称、シラバス）」、「学生生活の手引き（学生便覧の抜粋）」、「自立に向かって－自己点検・評価の手引き－」の４種類である。このほか、学科ごとに履修方法や学習の方法などを記載した資料を配付している。

また、各学科とも宿泊研修（オリエンテーション・キャンプ）を４月または５月に実施し、学生生活に関するオリエンテーションを行っている。この宿泊研修は、昭和 56 年から継続している行事である。

２年生に対するオリエンテーションも、入学式の翌日から２～３日かけて実施している。全体オリエンテーション、学科オリエンテーション、クラスミート、健康診断を組み合わせている。学科オリエンテーションでは、履修説明のほか、就職ガイダンスも含めている。

専攻科においては、専攻科入学生のほぼ全員が本学卒業生であり、履修方法や学則なども短期大学とほぼ同じであることから、各専攻科とも短期大学と専攻科の求めるところの差異を中心に入学式後の数日間を利用して説明を行っている。ただし、本学以外の卒業生が入学する場合には、個別に対応している。

5.2　学習支援

5.2.1　ガイダンスの概要

学習や科目選択について、各学科とも独自の配付物等を利用しながら、入学時のオリエンテーションとオリエンテーション・キャンプでガイダンスを行っている。時間割表を４月に前後期分を合わせて配付し、授業計画（シラバス）を参考にさせながら、当該年度の履修計画や単位計算、資格取得について詳しく説明している。また、他学科の科目の履修を希望する学生については、その都度、他学科の時間割表、シラバスを個別に見せて履修指導を行っている。さらに、単位互換制度を利用して他大学での履修を希望する者についても個別に説明を行っている。

各学期終了前には、次の学期のための科目選択についてのガイダンスを学科ごとに行っている。これらのガイダンスは、形式が学科によって異なるが、個別セミナー、合同セミナー、クラスミートなどで実施している。また、資格取得のための科目選択については、クラス主任またはチューターが個別に相談する体制を整えている。なお、音楽学科と保育学科では、学期ごとに詳しいレッスンガイダンスを行っている。

専攻科においても、本科と同様に、前後期の時間割表やシラバスを用いて、学期ごとのガイダンスやレッスンガイダンスを行っている。

5.2.2　補習授業の概要

本学では現在、補習授業は行っていない。しかし、補習授業に代わる様々な工夫を行っている。例えば、食物栄養学科では「基礎化学」、「日本語コミュニケーション」、「国語表現」を正規の教養科目として開設し、学力の低い学生に対応している。音楽学科では学生の能力に応じた個人レッスンの展開、ソルフェージュ授業における能力別のクラス分けな

どを実施している。保育学科も能力に応じたピアノレッスンを展開している。

5.2.3　指導助言のための取組みや体制

指導や助言は学科ごとに、①クラス主任による指導、②セミナー学生に対するチューターによる指導、という２つの体制を敷いている。学科ごとの対応では、学習上の問題や様々な悩みばかりでなく、生活指導、就職指導など広範囲にわたって学生の問題に教員が関わることができるようにしている。また、比較的年齢の若い助手や教務員も「お姉さん的存在」として学生の様々な相談の相手として機能している。なお、クラス主任やチューターによる相談だけでは不十分な場合もあるので、学生相談室（カウンセリング）、保健室（身体的な問題）、就職相談室（就職問題）の協力を得て対応するようにしている。

欠席の多い学生については、欠席カード及び欠席学生指導記録を用いて、学生部、学科、チューターが協力して指導できるように体制を整えている。また、欠席を含めて履修状況の悪い学生や家庭の問題、経済的な問題を抱える学生については、毎月１回開催している部科連絡会議（学生部長、学生部次長、教養教育代表、各学科長で構成）で情報交換を行い、それぞれの学科が抱える問題点を全員で把握し、対応を協議している。

学科ごとの対応については次のとおりである。

【コミュニティ生活学科】

セミナー＆チューター制により対話に基づいた指導・助言を行っている。また、毎週開催する科会で、学生の問題点について全員で共有するようにしている。

【食物栄養学科】

セミナーでは研究指導・生活指導・就職指導を３つの柱としているが、学習上の悩みや相談、履修指導、欠席指導、恋愛やアルバイトなどの生活上の相談も行っている。学生に関する情報は科会で互いに報告し、学科全体で対応している。また、緊急時の相談や連絡などのため、教員の携帯電話番号及び携帯電話メールアドレスを学生に公開し、高頻度で利用されている。

【音楽学科】

実技個人レッスン担当教員は毎週学生と１対１で接するので、指導・助言の機会を多く持っている。レッスン担当者の多くが非常勤講師であるため、「非常勤月末報告書」を学科長に提出してもらい、学生の把握に努めている。その上で、学生部と緊密な連携を取りながら、科会において学生一人ひとりにあった適切な指導・助言について協議している。16年度から、携帯電話による相談窓口「メールなんでも相談・音楽」を設けたが、利用者は少ないため改善を検討している。

【保育学科】

１学年を４クラス（30 名程度）で編成し、クラス主任による指導を中心に学習、生活、就職に関する指導を行っている。２年次にはこれに加えて、10 名程度のセミナーグループで学科専任教員が研究指導や就職指導を行っている。

5.2.4　進度の速い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援

【コミュニティ生活学科】

優秀な学生には、チューターがセミナーや卒業研究・卒業制作において特別な課題を与えている。その指導が実った事例として、藍染めに意欲的に取り組んだ学生による作品（浴

衣）が、平成 15 年の第 55 回広島県美術展で「奨励賞」を受賞したことが挙げられる。

【食物栄養学科】

管理栄養士国家試験準備の個別指導、資格試験や検定試験受験へのサポート等を行っている。セミナーでは個人研究も推奨し、質の高い卒業報告ができるように指導している。

【音楽学科】

ソルフェージュなどでは学生の能力によるクラス分けを行っている。また、レッスンでは個々の学生の素質、技術に合わせて指導を実施している。

【保育学科】

ピアノの授業（器楽Ⅰ～Ⅳ）は個人レッスンの形をとっており、学生の進度に応じた指導の場が設けられている。またセミナーでも、共同研究の中で学生の能力に応じた課題を与え、個々の特性が生かせるように配慮している。優秀学生には、公務員試験やピアノグレード試験などの受験を個別に支援し、より高い目標が達成できるよう指導している。

5.3 学生生活支援体制

5.3.1 学生生活を支援するための組織や体制

学生生活を支援するために次のように３つの学生部参与、４つの委員会を設けている。

組織等	役割等
学生部生活指導参与	＜構成メンバー＞ 各学科のクラス主任（またはチューター）、各専攻科主任 ＜役割＞ 履修指導、就職指導をはじめとして、学生生活全般をサポートしている。
学生部学生相談参与	＜構成メンバー＞ 教員3名（うち1名がカウンセリングの専門） ＜役割＞ 毎週1回（90 分）学生相談室に待機し、学生からの各種相談を受けている。保健室と扉1枚でつながり、身体的な相談は保健師の協力を得ている。
学生部自治会参与	＜構成メンバー＞ 教員3名 ＜役割＞ 大学祭（あかね祭）、新入生歓迎球技大会、卒業記念パーティ、献血活動などの自治会活動の支援を行っている。
就職指導委員会	＜構成メンバー＞ 各学科のクラス主任（またはチューター）、各専攻科主任、実務教育担当教員、学生部厚生補導担当次長、就職課長、学生課長 ＜役割＞ 毎年の就職戦線状況を共有し、学生の就職活動の支援、就職情報の収集・提供、就職先の開拓等を行い、一人でも多く就職できるよう努力している。
学生寮生活指導委員会	＜構成メンバー＞ 各学科のクラス主任（またはチューター）、学生部学生課長 ＜役割＞ 寮生の指導と問題発生時の対応をしている。
一般下宿生活指導委員会	＜構成メンバー＞ 各学科のクラス主任（またはチューター）、学生部学生課長 ＜役割＞ 一般下宿生の指導と問題発生時の対応をしている。
留学生支援委員会	＜構成メンバー＞ 学長補佐、学生部長、学生部教務担当次長・厚生補導担当次長・事務次長、留学生参与、教養教育代表、各学科長、事務部長、学生課長、就職課長、総務課長、管理課長 ＜役割＞ 留学生が円滑な学生生活を送れるよう支援している。

5.3.2　クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事の実施状況

（１）クラブ活動の現状

バレーボール部、ソフトテニス部、華道部、茶道部、軽音楽部、サッカー同好会、ヒップホップ同好会が活動しており、教員が顧問として支援をしている。クラブハウスが設置されているが、大学祭（あかね祭）実行委員会が使用している程度である。改善しなければならない点の１つである。

バレーボール部の過去３ヶ年の試合成績

平成 14 年度　中国バレーボールリーグ１部　春季大会準優勝、秋季大会準優勝
平成 15 年度　中国バレーボールリーグ１部　春季大会準優勝、秋季大会準優勝
平成 16 年度　中国バレーボールリーグ１部　春季大会準優勝、秋季大会準優勝

ソフトテニス部の過去３ヶ年の試合成績

平成 14 年度　広島県学生ソフトテニス秋季大学対抗戦３位
平成 15 年度　広島県学生ソフトテニス新人大会３位

なお、茶道部、華道部、軽音楽部は毎年大学祭において、茶会開催、生け花展示、ステージ演奏を行っている。

（２）学生自治会の現状

学生自治会は毎年、新入生歓迎球技大会、大学祭（通称、あかね祭）、卒業記念パーティ、献血活動を主催し、学生生活の充実に大きく貢献している。いずれも企画・運営は自治会執行部の学生が担当し、学生部自治会参与の教員３名がサポートしている。

球技大会は４月下旬に広島市内最大の体育館を使用して開催され、学生・教職員全員が参加している。

大学祭（あかね祭）は 11 月２・３日に開催され、普段の学習成果やクラブ活動の発表の場として、また学外の人たちとの親睦の場として、学生生活に不可欠な場となっている。大学側からの支援として、大学祭前日の午後と大学祭終了翌日を休業にしている。

卒業記念パーティは３月 17 日（卒業式の翌日）にホテルの会場を利用して開催され、学生生活最後の思い出づくりとして貴重な場となっている。

献血活動は、昭和 59 年に自治会献血会を発足させて以来継続し、平成 10 年にはこの長年の活動に対して感謝状が贈られている。５月と 11 月の年２回、学内に献血車を配置し、学生や教職員に献血を呼びかけている。

5.3.3　学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要

（１）ラウンジ（売店を含む）（６号館２階）

70 席程度の椅子とテーブル、インターネット接続パソコン４台、ＴＶ１台、スピード証明写真機１台、コピー機（セルフ・有料）２台を設置している。また、(有)カレッジ・サロン・モリの運営する売店も併設され、おにぎりやサンドイッチなどの軽食、文房具、菓子類などが販売されている。学生の共同学習や歓談の場として利用されている。

（２）食堂（６号館１階）

(有)カレッジ・サロン・モリに委託運営されている。席数はおよそ 270 席、500 円までのメニューが常時 20 種類以上提供されている。昼食時の営業で、毎日 180 食程度の注文があるほか、昼食時以外にも学生にとって憩いや自己学習の場として活用されている。

（３）中庭・テラス（６号館前）

校舎に囲まれる遊休地を学生に開放したもので、植栽と芝生という環境の中に円形テーブル９脚（大型パラソル付き）・椅子 34 席を設置している。中庭の一角には卒業生及び自治会の基金によって整備された屋外小ステージがあり、部活動や大学祭で活用されている。中庭横のテラスにはガラス屋根の下に机８脚と椅子 34 席を設置している。中庭とテラスの椅子と机は、可動式なので自由に移動させることができる。

（４）保健室（２号館１階）

職員１名を配置し、ベッドは２床備えている。外傷用の医薬品・備品は備えているが、内服薬は置いていない。これは学生が病院で処方されたものだけを飲むように指導しているためである。学生にとっては体調不良の際の休息場となっているほか、隣室の学生相談室と共に心のケアの場にもなっている。

5.3.4　短期大学が設置する設備の概要

（１）学生寮

本学から徒歩 800ｍの場所に 35 部屋（個室：和室 4.5 畳）の女子専用学生寮を有している。なお、平成 19 年３月をもって閉寮する。

（２）アパートの斡旋

アパート等の斡旋は学生課が対応している。学生寮を閉鎖するため、自宅外通学者へのアパート等の斡旋体制をさらに強化していく必要がある。

（３）通学のための便宜

ＪＲ安芸長束駅（可部線）からも近いため、通学には便利な場所に立地している。通学バスはバス会社（広島交通）と度重なる交渉の末、昭和 46 年 10 月 20 日から平原線（広島駅～本学）の運行が始まり、現在に至っている。授業時間割を考慮した時刻表が設定されており、利便性のある通学方法として学生のほか教職員も利用し、また近隣住民にも利用され喜ばれている。

（４）駐輪場・駐車場

体育館１階部分に設置している駐輪場は 147 台収容できる。自転車・バイクでの通学は届出によって認めている。駐輪場は多い時間帯には満車状態になることもあるが、駐輪スペースが不足する事態ではない。また、事務室に通報できる防犯ベルを設置している。

駐車場は 88 台の駐車が可能である。学生の自動車通学は許可制にしている。許可基準は、①身体障害等で自動車によらないと通学不可能な者、②通学上利用しようとする交通機関の便が著しく悪い者、③申請理由が止むを得ないと認められる者、となっており、例年 20 台程度を許可している。

5.3.5　前年度の外部奨学金の取得状況

（１）独立行政法人日本学生支援機構奨学金の取得状況

平成 16 年度の独立行政法人日本学生支援機構奨学金の取得状況は次のとおりである。

【短期大学】

種別	申込者数	採用者数	採用率
予約進学者			
第一種	4	4	100.0%
第二種	32	32	100.0%
定期採用			
第一種	5	13	82.7%
第二種	25	30	
第一種または第二種	22	－	
追加採用			
第一種	2	2	100.0%
第二種	7	6	85.7%
緊急採用			
第一種	1	1	100.0%
第二種	0	－	－

【専攻科】

種別	申込者数	採用者数	採用率
定期採用			
第一種	7	7	100.0%
第二種	2	2	100.0%

（２）あかね奨学金について

本学同窓会組織である「あかね同窓会」の援助による制度で、家庭の事情により学費の納入が困難となり教職員の推薦があった学生に対して、「あかね同窓会」役員会が審議の上貸与を決定する。貸与金額は一口 180,000 円（無利息）で、卒業した月の翌月から起算して３年以内に貸与金額全額を返還する。過去３ヶ年では、平成 14 年度３名、平成 15 年度１名、平成 16 年度２名の学生に貸与している。

5.3.6　学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制

保健室に職員１名を配置し、健康に関する相談に当たっている。また、毎年４月に全学生を対象とした健康診断を実施している。

学生相談室では、学生部学生相談参与３名と保健室の職員１名が学生の様々な問題に対するカウンセリングやメンタルケアに当たっている。学生相談参与のうち１名はカウンセリングを専門としている教員である。

5.3.7　学生支援のための学生個々の情報の記録の保管・保護の方法

個人情報保護法に基づいて個人情報の保管・保護を行っている。学生支援のために収集している個人情報としては入学時に「学生カード」（２枚）を提出させている。学籍簿としての性格を持つ学生カードは、１枚は鍵付ロッカーに保管し、もう１枚は教育指導のための情報としてクラス主任またはチューターが所有し施錠できる場所に保管している。なお、平成 17 年４月１日個人情報保護法全面施行に伴い、学生指導のための連絡及び緊急時の訪問用として提出させていた「宿所届」を廃止した。

また、成績などを収めたパソコン、記憶媒体などの管理も厳重に行っている。重要情報を収めたパソコンは、スタンドアローンの状態で使用している。また、記憶媒体へのコピー、プリントアウトなどの場合には、情報の受け渡し用紙への記入と署名捺印を求め、情報の移動先を確認できるようにしている。

5.4　進路支援

5.4.1　過去３ヶ年の就職状況

過去３ヶ年における学科別の就職状況は、次のとおりである。なお、就職希望者の欄の括弧内の数値は、卒業予定者に占める就職希望者の割合である。

【短期大学】

平成 14 年度　　平成 15 年３月 31 日現在

学科	生活文化学科	生活科学科		音楽学科	幼児教育学科	合計
		生活科学専攻	栄養専攻			
卒業生数	51	34	57	69	68	279
就職希望者数 (就職希望率)	39 (76.5%)	27 (79.4%)	41 (71.9%)	35 (50.7%)	64 (94.1%)	206 (73.8%)
就職者数	28	13	27	27	51	146
就職率	71.8%	48.1%	65.9%	77.1%	79.7%	70.9%
		58.8%				
進学	2	2	11	17	3	35
就職希望無	10	5	5	17	1	38

平成 15 年度　　平成 16 年３月 31 日現在

学科	生活文化学科	生活科学科		音楽学科	幼児教育学科	合計
		生活科学専攻	栄養専攻			
卒業生数	66	26	48	51	62	253
就職希望者数 (就職希望率)	58 (87.9%)	24 (92.3%)	42 (87.5%)	29 (56.9%)	61 (98.4%)	214 (84.6%)
就職者数	40	19	31	17	61	168
就職率	69.0%	79.2%	73.8%	58.6%	100.0%	78.5%
		75.8%				
進学	2	2	3	18	1	26
就職希望無	6	0	3	4	0	13

平成 16 年度　　平成 17 年３月 31 日現在

学科	コミュニティ生活学科	食物栄養学科	音楽学科	保育学科		合計
				幼児教育専攻	保育専攻	
卒業生数	102	44	62	65	58	331
就職希望者数 (就職希望率)	76 (74.5%)	33 (75.0%)	39 (62.9%)	62 (95.4%)	57 (98.3%)	267 (80.7%)
就職者数	62	27	30	58	55	232
就職率	81.6%	81.8%	76.9%	93.5%	96.5%	86.9%
				95.0%		
進学	7	7	21	2	0	37
就職希望無	19	4	2	1	1	27

【専攻科】

平成 14 年度　　平成 15 年３月 31 日現在

専攻科	生活文化専攻	栄養専攻	音楽専攻	音楽演奏専攻	幼児教育専攻	合　計
修了生数	0	6	6	11	0	23
就職希望者数 (就職希望率)		3 (50.0%)	5 (83.3%)	6 (54.6%)		14 (60.9%)
就職者数		1	1	2		4
就職率		33.3%	20.0%	33.3%		28.6%
就職希望無		3	1	5		9

平成 15 年度　　平成 16 年３月 31 日現在

専攻科	生活文化専攻	栄養専攻	音楽専攻	音楽演奏専攻	幼児教育専攻	合　計
修了生数	0	1	4	6	2	13
就職希望者数 (就職希望率)		1 (100.0%)	4 (100.0%)	6 (100.0%)	2 (100.0%)	13 (100.0%)
就職者数		0	1	2	1	4
就職率		0.0%	25.0%	33.3%	50.0%	30.8%
就職希望無		0	0	0	0	0

平成 16 年度　　平成 17 年３月 31 日現在

専攻科	生活文化専攻	栄養専攻	音楽専攻	音楽演奏専攻	幼児教育専攻	合　計
修了生数	0	3	5	9	0	17
就職希望者数 (就職希望率)		3 (100.0%)	4 (80.0%)	5 (55.6%)		12 (70.6%)
就職者数		1	3	4		8
就職率		33.3%	75.0%	80.0%		66.7%
就職希望無		0	1	4		5

5.4.2　学生の就職を支援するための組織や体制

（１）就職指導委員会

クラス主任またはチューター、専攻科専攻主任、学生部就職課員を構成員とした就職指導委員会を組織し、就職関連の情報を共有した上で就職指導を行う体制としている。

（２）就職推進委員

各学科に就職推進委員を置き、就職課との連携を緊密に取りながら、学科ごとの状況に即したきめ細かな就職指導ができるようにしている。就職推進委員は各学科の会議の中で就職指導のリーダーとして機能する。なお、学生部就職課は就職相談室を運営している。

（３）学生部就職課

就職相談室を運営する一方、対外的な求人募集活動を精力的に行っている。また、各学科で行う就職ガイダンスでの指導（クラスごとまたはセミナーごと）、職業適性検査の実施などを行っている。

5.4.3　就職相談室の現状と学生への就職情報等の提供

就職相談室では、各種情報（主として求人情報や進学情報）の掲示のほか、インターネットに接続されたパソコン５台を設置し、学生はいつでも就職情報を自由に閲覧できるようにしている。現在の就職相談室は平成 16 年 10 月に改装したものである。職員が常駐し、

就職相談・就職指導を随時行える体制を整えている。

就職相談室の業務は情報提供や相談のみならず、インターネットによる就職活動（就職サイトに対するエントリー）指導、履歴書の書き方、接遇指導、作文指導、就職へのアドバイス等、できるかぎりの支援を行っている。学生の相談数は日ごとに増加し、多忙を極めている。なお、学内ネットにも就職相談室に掲示されている求人情報を掲載しているので、学生は相談室に来なくても学内で自由に閲覧できる。

5.4.4　過去３ヶ年の就職状況について

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

過去３ヶ年の就職状況は、就職率が年々向上し、平成 16 年度の卒業生の就職率は 80%を超えた。就職先の実績を職種別にみると、営業・販売 42.1%、事務 29%、介護職 4.8%、調理員 3.2%、その他８％となっている。しかし、就職希望のない者が平成 16 年度卒業生では 19 名あり、これらの学生に対する指導・対応が課題であると考えている。そのため、学科では、自己点検・評価の目標の１つとして「学生の就職支援」を掲げ、セミナー活動の中での就職指導の強化という形で取組みを始めている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

栄養士養成施設である食物栄養学科（平成 15 年度までは生活科学科栄養専攻）で考えると、ここ３ヶ年の就職率は年々向上している。平成 14 年度から始めた専任教員による就職先拡大のための事業所巡回、平成 16 年に改善された就職相談室の指導体制の充実などにより、平成 16 年度卒業生の就職率は 81%まで向上した。就職先については約半数が専門職としての栄養士または調理員に、残りが一般企業（食品関連企業含む）へ就職している。専門職を望む学生に対する就職支援についてはほぼ満足のいく結果を得たと考えているが、一般企業への就職支援については指導がまだ不足していると考えている。

【音楽学科】(学科長の見解)

平成 14 年度は就職率が低い年であったが、「音楽教育・二つの途」を掲げて就職指導にも力を入れることとなり、また就職相談室の新体制による支援のおかげで平成 16 年度は８割弱の就職率に戻すことができた。今後は就職相談室の支援のもと、セミナーごとの就職指導など就職率の向上に努力する予定である。また、演奏家としての道を歩む場合は必ずしも定職に就くことを望まない学生もいるので、他学科とは異なる環境であることを十分認識しながら、学生指導に当たっていかなければならないと考えている。

【保育学科】(学科長の見解)

平成 14 年度はやや低かったものの、就職率はこれまでと同様に高い水準にある。今後もこの水準を保つ努力を続けていきたい。ただ、定員増加によって就職先の拡大も重要なポイントとなってきているので、教職員をあげて受け入れ先の確保に力を注がねばならないと強く感じている。

【全体の現状】(学長の見解)

本学の就職指導の特徴は、卒業後も就職希望者に対して全面的に支援していることである。これは４月の一括採用から通年採用に切り替えた企業が多いためである。クラス主任やチューターは、既卒者を対象とした求人があればすぐに卒業生に紹介するようにしている。その結果として、平成 16 年度卒業生においても、次に示すように各学科ともわずか２ヶ月間で就職率がかなりアップしている。この傾向は毎年のことで、極めて満足している。

平成 16 年には就職相談室を整備し、就職支援体制を充実させた。今後の課題としては、就職を希望しない学生の数を減らしていくことであると考えている。

平成 16 年度卒業生の就職率の比較　（%）

学科	平成 17 年3月末現在	平成 17 年5月末現在
コミュニティ生活	81.6	95.9
食 物 栄 養	81.8	93.9
音　　楽	76.9	86.1
保　　育	95.0	97.5
平　均	83.8	93.4

5.4.5　過去３ヶ年の進学及び海外留学の実績及びその支援の方法と体制

過去３ヶ年の進学状況は次のとおりである。これらの学生に対しては、クラス主任またはチューターが個別指導を行っている。

なお、海外留学者は過去３ヶ年においていない。

進学先一覧（過去3ヶ年）

年度	14 年度	15 年度	16 年度
人数 / 内訳	31 名	26 名	37 名
4年制大学	安田女子大学 比治山大学 エリザベト音楽大学 呉大学 九州栄養福祉大学 （計5名）	洗足学園大学 四天王寺国際仏教大学 くらしき作陽大学 中国学園大学 福山平成大学 エリザベト音楽大学 （計6名）	中国学園大学 比治山大学 広島女学院大学 エリザベト音楽大学 呉大学 （計7名）
専攻科	広島文化短期大学専攻科 栄養専攻（3名） 音楽専攻（4名） 音楽演奏専攻（8名） 幼児教育専攻（2名） （計 17 名）	広島文化短期大学専攻科 栄養専攻（2名） 音楽専攻（5名） 音楽演奏専攻（6名） （計 13 名）	広島文化短期大学専攻科 栄養専攻（5名） 音楽専攻（5名） 音楽演奏専攻（13 名） 保育専攻（2名） （計 25 名）
専門学校	広島県東部美容専門学校 IGL医療専門学校 ヒューマンアカデミー専門学校 山口整形専門学校 金沢国際デザイン専門学校 広島工業大学専門学校 バンタン製菓学院 （計9名）	YMCA専門学校 尚美音学院 ニチイ学館専門学校 広島市医師会看護専門学校 広島県立呉高等技術専門校 鳥取県立保育専門学院 松江理容専門学校 （計7名）	文化服装学院 ニチイ学館専門学校 東京ミュージック＆メディアアーツ尚美 キャピタル国際福祉専門学校 広島酔心調理師専門学校 （計5名）

5.5　多様な学生に対する支援

5.5.1　過去３ヶ年の留学生の受け入れ状況及び学習支援、生活支援の方法、体制

過去３ヶ年においては、中華人民共和国からの留学生として、平成 15 年４月に５名、同年 10 月に４名がコミュニティ生活学科に入学した。これらの留学生には、入学後の半年間において日本語教育、日本文化等を重点的に学習させたので、日本語での会話も上達し、半年後からの専門的な授業も理解できるようになった。

支援体制としては留学生支援委員会を設置しており、留学生に関する様々な問題に関して対応を協議している。また、その構成メンバーである学生部留学生参与がチューターを兼ね、入学から卒業まで学生生活全般に対して直接支援している。

学生部学生課は、留学生本人が記入する現況届（授業の出席状況やアルバイト状況等を毎週記入）を管理し、入国管理局からの資料請求等に適切に対応できるようにしている。

5.5.2　過去３ヶ年の社会人学生の受け入れ状況及び学習支援の方法、体制

本学では、社会人（入学を希望する年の４月１日現在、満 21 才以上の社会経験等を有する者と定義）を対象とした入学試験として、社会人特別入学試験（ＡＯ入学制度、１次、２次、３次）を実施している。この入学試験によって入学した者は、１年あたり授業料が 10 万円免除される。また、長期履修学生入学試験を受けて長期履修学生として入学する社会人も増えているが、その場合は授業料減免の対象としていない。

過去３ヶ年の社会人の入学者数は次のとおりである。

社会人の入学者数（過去3ヶ年）

学科	14 年度	15 年度	16 年度
コミュニティ生活	0	0	0
食物栄養	4(1)	4	3
音楽	3	5(1)	7(4)
保育	0	1(1)	0
合計	7(1)	10(2)	10(4)

専攻科	14 年度	15 年度	16 年度
生活文化専攻	－	－	－
栄養専攻	0	1	0
音楽専攻	0	1	0
音楽演奏専攻	1	1	0
保育専攻	－	0	－
合計	1	3	0

注１：14 年度の欄のコミュニティ生活は生活文化学科、食物栄養は生活科学科、保育は幼児教育学科におけるデータである。また、15 年度の欄の専攻科保育専攻は、幼児教育専攻におけるデータである。
注２：（ ）内の数字は長期履修学生として入学した者の数。
注３：「－」は在籍者がいなかったことを示す。

社会人入学生も他の学生と同じ時間帯で受講させている。また、一般学生と同じようにクラス主任またはチューターが学生生活全般を支援している。当然のことであるが、社会人入学生の学習意欲は高く、このことが一般学生へ少なからず良い影響を与えていると言える。今後も社会人入学生の学習意欲を学科、クラス主任・チューター、学生課でバックアップしていきたい。

5.5.3　過去３ヶ年の身体障害者の受け入れ状況及び支援の方法、体制

身体障害者の入学は、過去３ヶ年で該当者はいない。

5.5.4　過去３ヶ年の長期履修学生の受け入れ状況及び学習支援、生活支援の方法、体制

長期履修学生は、自分のライフスタイルに合わせて柔軟に履修計画を組むことができるのが特徴である。他の学生と同様、クラス主任またはチューターが入学から卒業まで学生生活全般を支援している。また、入学金は３ヶ年で６回に分割して納入できるようになっている。さらに授業料も各学期で履修する単位数に合わせて納入でき（教養科目及びコミュニティ生活学科・食物栄養学科・保育学科の各専門科目は１単位 28,000 円、音楽学科の専門科目は１単位 40,000 円）、62 単位を超えて履修する場合は１単位 3,000 円としている。

長期履修学生の過去３ヶ年の入学者数は次のとおりである。

長期履修学生の入学者数（過去3ヶ年）

学科	14 年度	15 年度	16 年度
コミュニティ生活	0	1	0
食 物 栄 養	1	0	0
音 楽	0	1	5
保 育	0	2	1
合計	1	4	6

注：専攻科においては、平成 17 年度から音楽専攻及び音楽演奏専攻で長期履修学生を受け入れる規程を設けた。

5.5.5 科目等履修生について

科目等履修生の入学資格としては、本学を卒業した者及び高等学校卒業者またはこれと同等以上の学力があると認められる者としている。入学を希望する者は、科目等履修生入学願に最終卒業学校の卒業証明書または卒業見込証明書を添えて本学に提出し、教授会の議を経て入学が許可される。科目等履修生が１学期で取得できる科目数及び単位数は６科目 12 単位までとしている。

入学を許可された者は、入学許可後 10 日以内に入学金として 5,000 円、履修料としてコミュニティ生活学科・食物栄養学科・保育学科の科目については１科目につき 20,000 円、音楽学科の科目については１科目につき 22,000 円を納入しなければならない。

過去３ヶ年における科目等履修生の数は次のとおりである。

科目等履修生の入学者数（過去3ヶ年）

年度	14 年度	15 年度	16 年度
前期	9	5	11
後期	9	7	7
合計	18	12	18

5.6 特記事項

5.6.1 ＡＯ入学制度

相談型のＡＯ入学制度を平成９年に短期大学で初めて導入したのは本学であり、広島文化短大方式とも坂田方式とも呼ばれている。これは、選抜という概念ではなく、接続という考え方で入学者を受け入れる制度である。セミナー＆チューター制に象徴される「対話」の教育を入学制度にも導入しているので、入学前から学生支援を開始しているということができる。成績や出欠状況を記載した調査書を用いることなく、対話の中で接続が可能かどうかについて判断している。

この制度で入学してくる学生は、入学式までに３回来学（予備相談、本相談、確認面接）することになっている。さらに、オープンキャンパスでも来学していれば、当該学科の教員の顔や学内を熟知することになり、入学後もすぐに大学に馴染むという点で大きな利点がある。入学後の学生の対応という面でも「接続」に成功している。入学制度ではあるが、学生支援のための重要な制度でもあることとして特記した。

5.6.2　特別奨学生制度

広島文化学園では平成 17 年度入学生から、運動部で入学後活躍が期待される学生に対して年間 36 万円の特別奨学金を支給している。本学ではバレーボール部が対象となっており、毎年度７名以内で学生が選考される。平成 17 年度は５名のバレーボール部員に支給されている。

5.7　自己評価及び今後の課題

5.7.1　自己評価

本学では全国に先駆けてＡＯ入学制度や長期履修学生制度を導入するなど、目的意識と意欲のある学生や多様な学生の受け入れに努めると共に、適正な入学試験の実施に全教職員で取り組んできた。また、学生相談室とクラス主任またはチューターとの協力体制による学生個々に対応した支援活動を充実させるために保健室と学生相談室の改修工事も完成させた。就職指導においても、就職指導委員会・就職課・クラス主任またはチューターが連携をとって支援する体制づくりに努めると共に、就職相談室の整備と常駐職員を配置した結果、良好な就職率を達成している。さらに、駐輪場の防犯ベルの工事、学生のロッカー室の改修工事、学生用シューズボックスの買い替えなどを行い、学生生活支援体制の充実に努めている。

5.7.2　今後の課題

（１）入学前から入学後までの計画的なオリエンテーションを全学的にさらに充実させる。
（２）学生の休息のための空間を充実させると共に、多様な学生に対応した学生生活支援体制の整備をさらに推進する。
（３）各学科の教育内容に対応した主な就職先に対応して就職指導体制をより充実させ、学生の就職希望の達成を図る。

Ⅵ　研究

Ⅵ　研究

6.1　教員の研究活動全般

6.1.1　過去３ヶ年の専任教員の研究状況及び成果

【コミュニティ生活学科】

氏名	職名	研究業績				国際的活動の数	社会的活動の数	備考
		著作数	論文数	学会等発表数	その他(含、作品)			
澤原　英彦	教　授	0	0	0	0	0	4	
村上　温子	教　授	0	1	0	3	0	25	
黒田　敬子	教　授	0	0	0	5	0	3	
前田ひろみ	教　授	1	1	3	3	3	47	
廣兼　孝信	教　授	0	2	0	0	0	2	
亀川　幸郎	教　授	0	0	0	2	0	4	17 年度就任
田中　美貴	教　授	0	1	0	4	0	1	
今井　裕子	助教授	0	2	0	3	0	2	
烏田いづみ	講　師	0	0	0	5	0	4	17 年度就任

【食物栄養学科】

氏名	職名	研究業績				国際的活動の数	社会的活動の数	備考
		著作数	論文数	学会等発表数	その他			
満嶋　　明	教　授	0	0	1	0	0	31	
山本　雅子	教　授	1	0	0	0	0	4	
水井富美恵	教　授	0	0	0	0	0	0	
八木佐和子	教　授	0	0	0	0	0	6	
山下由美子	助教授	0	1	1	0	0	11	
村田美穂子	助教授	0	2	2	1	0	0	17 年度就任
白砂千登勢	助　手	0	0	0	0	0	0	

【音楽学科】

氏名	職名	研究業績				国際的活動の数	社会的活動の数	備考
		演奏(含、指揮)	論文数(含、作曲)	学会等発表数	その他			
井後　勝彦	教　授	7	0	0	2	0	7	
佐藤須美子	教　授	10	0	0	0	0	14	
貞廣　辰雄	教　授	1	0	0	0	0	5	
岩田　英憲	教　授	6	0	0	6	0	7	
黒住　彰博	教　授	0	2	0	2	0	0	
森川　晴美	教　授	1	3	0	1	0	12	
長岡　雅子	教　授	6	0	0	0	0	10	
白石　　実	教　授	20	0	0	0	0	53	16 年度就任
小林泰一郎	教　授	14	0	0	0	0	23	
小笠原真也	助教授	32	0	0	1	0	6	
山下　敬子	助教授	11	0	0	0	0	3	

【保育学科】

氏名	職名	研究業績				国際的活動の数	社会的活動の数	備考
		著作数	論文数	学会等発表数	その他			
原田　宏司	教　授	1	0	0	1	0	1	
岩見　國夫	教　授	0	0	0	0	0	1	
古矢　千雪	教　授	0	0	0	0	0	0	
松元　健治	教　授	0	0	0	1	0	2	
畠山　倫子	教　授	0	0	0	0	0	0	
金丸キミヱ	教　授	0	0	0	0	0	1	
堀江　周三	教　授	1	3	0	0	0	1	
堂迫　孝子	教　授	0	0	0	0	0	31	
山本　裕士	教　授	0	0	0	0	0	2	
福間　早苗	助教授	0	0	0	0	0	3	
三川　明美	助教授	0	1	0	0	0	1	
田頭　伸子	助教授	0	0	0	0	0	73	15 年度就任
白銀　夏樹	講　師	0	4	3	0	0	0	15 年度就任

6.1.2　教員個人の研究活動の状況及び取組みの概要

本学における教員個人の研究活動については、各自が所属する学会、研究会等が発行する会誌等に投稿して研究の成果を発表する以外に、本学独自の紀要を発行し、本学の教員及び共同研究者等が研究成果を外部に対して発表できる機会を設けている。本学紀要は、平成 16 年度で創刊以来 39 年目となる。編集については、図書館長が紀要編集委員会の委員長を兼務し、各学科から選出された紀要編集委員と共に編集業務を行っている。なお、掲載された論文の著作権は本学が有する（平成 14 年 11 月 6 日付けで紀要の投稿規程を改定)。また、平成 15 年度から国立情報学研究所のメタデータ公開システムを通して第 33 号以降の掲載論文がインターネット上で公開されている。

6.1.3　過去３ヶ年の外部からの研究資金の調達状況

国庫補助（文部科学省）による私立大学教育研究高度化推進特別補助から、①大学教育高度化推進特別経費の「高等教育研究改革推進経費（短大分)」、②教育・学習方法等改善支援経費－教育・学習方法等の改善、において補助金を受けている。各補助による資金調達状況は次のとおりである。

補助内容	高等教育研究改革推進経費	教育･学習方法等改善支援経費	計
課題名	学生の自立をめざす教育に関する総合的研究	学生の多様化に対応した授業改善の実践研究	
14 年度	0	600,000	600,000
15 年度	300,000	500,000	800,000
16 年度	300,000	500,000	800,000
計	600,000	1,600,000	2,200,000

6.1.4　研究状況

【全学的研究①】学生の自立をめざす教育に関する総合的研究

本学では、学生の精神的自立・経済的自立をめざして学生自身による自己点検・評価の実施やセミナー&チューター制の導入など、特色ある取組みを行ってきた。平成 15 年度から、この取組みに対して補助金を得ている。取組みの概要は次のとおりである。

年度	概要
15	⑴自立を支援する教育課程の編成 ⑵自立を支援する指導体制の改善
16	⑴自立を支援する教育課程の編成 ⑵自立を支援する指導体制の改善 ⑶学生による自己点検･評価の改善

【全学的研究②】学生の多様化に対応して授業改善の実践研究

平成 11 年 10 月から、通称「授業改革プロジェクト」と題して専任教員の授業内容を充実させるための研究を全学的に進めてきた。平成 14 年度から、この取組みに対して補助金を得ている。過去３ヶ年の取組みの概要は次のとおりである。

年度	概要
14	教育効果を計る指標となる「学生による授業評価」を開発する。
15	学科ごとに作成した「学生による授業評価」を実施する。
16	「学生による授業評価」の結果をふまえて授業内容の見直しを図る。

【音楽学科・保育学科による研究】ピアノ指導者研究会

音楽学科・長岡雅子教授（ピアノ）と保育学科・田頭伸子助教授（発達心理学）による共同研究「ピアノ指導者研究会」が平成 16 年度４月から始動した。これは、幼児期から開始されるピアノを通した音楽教育に関する種々の問題点をピアノ専門教育と発達心理の両面から研究し、地域のピアノ指導者（レスナー）と連携しながら豊かな人生に資するピアノ音楽教育のあり方について探ろうとするものである。

年度	概要
16	この取組みに賛同する約 30 名のピアノ指導者を集めて年間7回の研究会を行い、その成果の発表の場として、児童 50 名による発表演奏会（広島市中区ゲバントホール）を開催した。この演奏会は、レスナーにかぎらず一般の人や保護者からも強い関心を集めた。

【保育学科による研究】自立した保育者養成のための実践的研究

平成 16 年度から、保育学科専任教員全員によって、学科の教育目標である優秀な保育者を養成するための効果的な教育方法や教育体制を確立することをめざして共同研究を行っている。

年度	概要
16	保育学科の1年生と2年生との連携を密にし、共同で様々な行事を行っていくことを通して保育者として必要な企画力や役割意識を育成する。そのために学生が共同で実践する場を計画･提供し、教員が適切な援助を行うことで教育の効果を高めていくという実践研究を進めている。

6.2　研究のための条件

6.2.1　過去３ヶ年の決算書から研究に係る経費

研究費及び研究旅費は、「研究費・研究旅費に関する規程」により支出されている。

平成15年度から学術研究高度化推進経費の申請に準じて全学で年間総額500万円の研究費が出ることになった。

6.2.2　教員の研究成果を発表する機会及び概要

「紀要編集委員会」を組織し、その委員会がリーダーシップをとって「広島文化短期大学紀要」を毎年発行している。毎年数名の教員が投稿し、研究発表の場としている。

6.2.3　教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況

平成16年度の研究費によって購入された機器・備品及び図書の額は次のとおりである。

（単位:円）

学科	研究費総額	機器備品	図書･消耗図書
コミュニティ生活	2,144,037	0	154,202
食物栄養	1,448,420	100,000	70,795
音楽	2,200,432	183,746	141,728
保育	2,114,147	0	347,219
合計	7,907,036	283,746	713,944

6.2.4　教員の研究室の状況

専任教員39名に対して研究室の数41室であり、十分に確保されている。

6.2.5　教員の研修日等、研究時間の確保の状況

教員の研修日は、土曜日を含めて週２日が与えられると共に、平日においても事実上フレックスタイムで運用されており、授業や会議に支障のないかぎり研修等の時間に充てられている。また、夏季休業中と春季休業中においては、届出により研修日を確保することができる（研修日数に制限はない)。

6.3　自己評価及び今後の課題

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

コミュニティ生活学科では､ここ３ヶ年の具体的な研究業績は数としては少ないものの、一人ひとりの教員が研究について努力している。ただ、多くの時間を教育や学生指導に関わる時間に充てていることも現状である。今後の課題としては、①教員の研究内容・研究成果の周知（勉強会)、②教育効果を上げるための研究（実践成果のまとめ)、③担当授業科目に関する研究（個人・グループ)、④学術研究、などについてより精力的に研究活動を行うための環境作りであると考えている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

食物栄養学科では、研究活動や社会的活動が実際に継続されているものの３ヶ年の研究業績はやや乏しい結果となっている。各教員が一丸となって教育改革・授業改革に力を注いでいる中にあっても、研究においても一層の努力が必要と思われる。また、理科系学科として設備や予算がやや不足気味であり、精力的に補助金等申請に努力しなければならないと感じている。

【音楽学科】（学科長の見解）

本学では、音楽学科教員の研究活動は演奏発表が主であると考えている。教育、生活指導、学科運営に関わる業務による時間的制約の中、各教員は、リサイタルの開催や演奏会への出演など意欲的に取り組んでいる。この中にあって、ピアノ主任である長岡教授は、「ピアノ指導者研究会」を主催し、地域のピアノ指導者と一緒にピアノの指導法について研究を始めた。これは、長期的展望に立った研究活動として高く評価され、その成果が期待できる。

今後もこれまでどおり各教員が演奏活動を続けると共に、音楽教育に携わる人たちに貢献できるような研究をしていかなければならないと考えている。

【保育学科】（学科長の見解）

保育学科の教員の専門領域は多様であり、それぞれの分野で専門学会に所属する一方、保育という共通のテーマを背負っている。保育という領域は、その性格上、目先の経験主義や実践主義に陥ることが多く、研究分野ですぐには成果が見られないのも事実である。今後は、この共通テーマに関わる研究を促進させ、活性化させることが保育学科の発展にもつながるものと思われる。これからの課題は、①学生に対する指導（研究、生活、就職など）に多くの時間を奪われる現状ではあるが、教育活動の原動力となる自らの研究にも時間を費やす、②各分野の専門性を生かし、子どもの実態や成長をより客観的に見つめていくためのアカデミックな雰囲気づくりを心がける、ことである。

Ⅶ　社会的活動

Ⅶ　社会的活動

7.1　社会的活動への取組み

7.1.1　社会的活動への取組み

教職員の社会的活動については、学内における直接的な教育・研究活動と並行的に取り組むように勧めている。学生の社会的活動についても、講義の一環、セミナー活動、個人的な活動等々、すべてそれぞれの目的を逸脱しない範囲で積極的な活動を推奨している。

7.1.2　社会人の受け入れ状況と今後の取組み

過去３ヶ年で見ると毎年 10 名程度入学している。受け入れに関しては社会人用に社会人特別入学試験の制度を設けると共に、授業料減免の制度も実施している。また、全国の短期大学に先駆けて長期履修学生制度を導入した。

社会人の多くは資格取得を目標としているのでさらなる支援を行いたい。また、コミュニティカレッジに向けた短期大学として、さらに社会人が入学しやすい環境を整える必要があると考える。

7.1.3　過去３ヶ年の地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況

（１）公開講座

実施学科	コミュニティ生活学科	タイトル	くらしの中の染色
場　　所	本学	参加者数	延べ 100 人
実 施 日	平成 14 年 11 月 16 日，23 日，30 日		
（内容） 過去の生活文化の中から生まれた伝統的な染色の方法を見直し、古くからの植物染料である紫根や鬱金を用いて染めると化学染料の色見本にはない穏やかな色合い・深い味わいが生まれる。本講座では、草木染めの実際を体験すると共に、染色した作品をいかに生活に生かすかについて説明を行った。			

実施学科	音楽学科	タイトル	障害児の音楽療法
場　　所	本学	参加者数	200 人
実 施 日	平成 15 年８月 12 日		
（内容） ニューヨーク大学音楽療法センターのファウンディング・ディレクター、クライブ・ロビンズ博士及び同センターの音楽療法士カオル・ロビンズ氏を招いて講演を行った。博士の 45 年にわたる実践の中から、セラピーのプロセスと療法的意味を解説すると共に、セラピーで用いられる即興演奏についても実演を交えて説明が行われた。			

実施学科	保育学科	タイトル	「子ども問題」解決への手がかり
場　　所	まちづくり市民交流プラザ	参加者数	延べ 74 人
実 施 日	平成 16 年 11 月 20 日，27 日，12 月４日		
（内容） こころ・からだ・感性の視点から、今日の子どもたちが置かれている環境を直視し、「子ども問題」解決への手がかりを求めた。具体的には、「心の土台はきちんと育っていますか」、「仲間と楽しくからだを動かす<運動あそび>」、「元気なからだは食生活から」、「造形表現のめざすもの」、「音楽はどこから生まれてくるの」という5つのテーマについて講演を行った。			

（２）生涯学習授業

広島文化エクステンションセンター附属音楽園は、昭和 54 年の開園以来、地域の児童から社会人に至る幅広い層を対象として、音楽教育活動（レッスン）を行っている。年１回発表演奏会と講師演奏会を開催し、地域音楽文化振興の役割も果たしている。以前はいわ

ゆる子どもに対する音楽教育がメインであったものが、最近では社会人に対する高等教育の場の提供という傾向が強くなっている。地域に存在する大学として、今後もこの活動を続けていく必要があると考えている。なお、過去３ヶ年の園生数は次のとおりである。

年度	幼　児	小学生	中学生	高校生	社会人	合計
14	0	3	1	2	33	39
15	0	3	2	1	55	61
16	6	3	0	3	31	43

（３）正規授業の開放

コミュニティ生活学科と音楽学科は、平成 16 年度から、地域住民を対象として正規授業を科目等履修生として受講するよう積極的に呼びかけている。平成 16 年度の募集科目数と受講者数は次のとおりである。

学科	募集科目数	受講者数
コミュニティ生活	15	6
音　　楽	7	0

また、毎年、音楽学科では専攻科学生のために著名な音楽家を招聘しての講演や公開レッスンなどを特別授業として実施しているが、これを無料で一般公開している。このような特別授業の一般無料公開は全国的にも希である。

7.1.4　過去３ヶ年の地域社会との交流、連携等の活動

（１）地方自治体との交流、連携

学科	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	広島市安佐動物公園において開催される「糸紡ぎ教室」に毎年教員1名と学生数名が協力し、参加者が羊の毛から糸を紡ぐ作業の援助をしている。
	15	広島市佐伯区八幡東公民館主催の藍染め教室において教員1名と学生2名が会場設営、藍染め体験の援助を行った。
	15	広島市安佐動物公園において開催された「未年羊展」において教員1名が羊に関する教材の提供、糸紡ぎのデモンストレーションに協力した。
	15	広島市、廿日市市の公民館で調理に関わる講座を開講した（計4件）。
	16	廿日市市の公民館で調理に関わる講座を開講した（計2件）。
	16	広島市古市公民館主催の「わくわくクッキングセミナー」において、教員2名、学生6名が3回にわたって「韓国料理」「イタリア料理」「パーティ料理」の料理実習の指導を行った。
	16	広島市安佐南区役所主催の「大学と地域との交流を考える会」に教員1名が出席、大学と地域の関わりの活性化について討議した。
食物栄養	16	広島市（安佐南区、西区、東区など）が主催する講演会、講習会、研修会の講師として参加し、食物栄養学、地域社会貢献、環境問題などについて地域の活性化に貢献した。（延べ 15 件）
音　　楽	14－16	毎年広島県立美術館ロビーコンサートにおいて、学生2～3名、教員1名による室内楽演奏を行っている。
	14	広島中郵便局、メルパルクHIROSHIMA 主催の「ぱ・る・るロビーコンサート」に学生数名と教員1名によるアンサンブル編成により演奏出演した（毎月1回、計 12 回）。
	15	広島中郵便局、メルパルクHIROSHIMA 主催の「ぱ・る・るロビーコンサート」に学生数名と教員1名によるアンサンブル編成により計4回演奏出演した。
保　　育	16	広島市まちづくり市民交流プラザとの共催で、保育関係者及び一般を対象に「子ども問題解決への手がかり」というテーマで公開講座を実施した。

（２）地元企業との交流、連携

学科	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	毎年株式会社ほりかわ主催の夏休み子供手芸教室において材料準備、制作の援助をしている。
	16	3社、1法人と提携、インターンシップを通じて地元企業との連携を深めた。
食物栄養	14－16	調理実習の授業の一環としてのテーブルマナー教習を地元のレストランを利用し、交流を深めている。（洋食、和食、中華料理／年3回）

（３）教育機関との交流、連携

学科	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	毎年広島県呉市立の中学校主催による「藍染めフェスタ」に教員1名と学生数名が協力し、準備、染色の援助、後片づけまでを担当している。
	15	近隣の2高等学校で出張講義（食物学、フードコーディネート）を行った。
	15	広島市高須児童館で開催された「バレンタインのプレゼント」において、ケーキ作りの指導を教員 1 名、学生5名が担当した。
	16	広島市長束西児童館で開催された「バレンタインのプレゼント」において、ケーキ作りの指導を教員 1 名、学生4名が担当した。
	16	広島市立白島小学校において、教員1名、学生1名が郷土資料室「紺屋」の資料作成に協力した。
	16	広島市立白島小学校児童館において、教員1名、学生1名が夏休み自由研究「藍染め体験」に協力した。
	16	近隣の3高等学校で出張講義（食物学、被服学など）を行った。（計8講義）
	16	8月上旬に集中講義として開講する「織物Ⅰ」を高大連携公開授業に登録し、広島県立安西高校から2年生男子3名、女子2名が受講した。
	16	広島県立日彰館高校の生徒（希望者のみ）を招き、染色を体験させた。
食物栄養	16	広島市内の幼稚園・保育園・保健センターなどにおいて、幼児期の食生活指導及び講演を行った。（延べ6回）
	16	近隣の4高等学校で出張講義（栄養学、進路指導など）を行った。
音楽	14－16	毎年、広島県内の中学生・高校生の吹奏楽団員を対象に「吹奏楽クリニック」を行っている。吹奏楽コンクールの課題曲について、全体の合奏指導やパートごとの指導を行うもので、毎年 500 名程度の参加者がある。
	14－16	広島県安芸郡江田島町立切串中学校において、学生 20 数名、教員1名による「広島文化短期大学音楽学科コンサート」を開催した。
	16	広島県三次市立甲奴小学校において、学生 20 名、教員1名が、「甲奴小学校 30 周年記念コンサート」を開催した。
保育	14－16	学生が主体となって毎年1月に日頃の学習成果を「生活発表会」として公開し、地域の幼稚園・保育所の園児及び教員・保育士を招待している。
	16	近隣の高等学校で出張講義（教育・保育など）を行った。
全学科	15	廿日市市立野坂中学校2年生6名が、「総合的な学習」の中で「夢や希望を育む啓発的な体験活動」をテーマに、本学の全学科の授業を体験した。
	16	広島市立長束小学校3年生 89 名が、「総合的な学習」の中で「自分の家の近くに何があるか」をテーマに、本学の全学科の授業を体験した。

（４）地域住民との交流、連携

学科	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	食物栄養学科が毎年地区の社会福祉協議会と連携して実施しているクリスマス会のドア飾りとクリスマスカードの作成を教員1名と学生数名が担当し、会場の空間及びテーブルコーディネートを教員1名が担当している。
	15－16	大学祭時、学科の教育内容に触れる染色、織物、陶芸、お菓子作りの体験会を近隣を住民対象に実施し、小学生も含め 150 名以上の参加があった。
食物栄養	14－16	学生が主体となって地区の社会福祉協議会と連携し、大学周辺の独居高齢者に対する夕食をお弁当の形で年に4～5回配食サービスをしている。
	14－16	学生が主体となって地区の社会福祉協議会と連携し、糖尿病患者とその家族のための教室（講習、コース料理提供）や、一人暮らし高齢者のためのクリスマス会などを開催している。
音楽	14－16	広島市安佐南区にある養護老人ホーム「慈光園」において、学生数名、教員1名による「訪問演奏会」を毎年実施している。

（５）その他団体等との交流、連携

学科	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	手作りフェア実行委員会主催の広島手作りフェアに毎年教員1名と学生数名が協力し、受付、会場案内、手作り体験コーナーを担当している。
	14－16	財団法人広島平和文化センター主催の「大邱（テグ）の日」交流パーティ（広島市留学生会館）において毎年教員1名と学生十数名がパーティの料理、セッティング、サービス等を担当している。
	16	広島ユネスコ協会主催の「高校生国際理解セミナー」に学生9名が指導員として参加し、運営・進行を担当した。
食物栄養	14－16	毎年、オリエンテーション・キャンプにおいて呉市の「ケナフ研究会」の方からケナフを用いた紙漉体験の指導を受け、ケナフ研究会の環境保全活動を応援する一方、学生に環境問題に興味を持たせる機会としている。
	16	広島県栄養士養成施設連絡協議会の事務局を担当した。
	16	広島県栄養士会の研修会講師として出張講演を行った。
音楽	14－16	財団法人広島市ひと・まちネットワーク主催「春よ来い・さくらコンサート」において学生2名、教員1名による室内楽演奏を行った。
	14－16	財団法人よしわ振興公社との共催による「吉和魅惑の里・ふれあいコンサート」（第4～6回）を開催し、毎回学生数名、教員1、2名によるアンサンブルやソロ演奏を行っている。
保育	14－16	広島市私立幼稚園協会と教育・研究及び実習、就職指導等について連絡・協議を行っている。

7.2　学生の社会的活動

7.2.1　過去３ヶ年の学生による社会的活動の状況

学生は、7.1.4 の項（過去３ヶ年地域社会との交流、連携等の活動）に記載したとおり、教員と共に数多くの社会的活動を行っている。それらの活動は、学生が積極的に参加することで成り立っている。ここでは、学生だけによる社会的活動について記載する。

学科等	年度	活動の概要
コミュニティ生活	14－16	社団法人日本即席食品工業協会主催の「インスタントラーメン小学生レシピコンクール中国・四国地区大会」の調理サポートスタッフとして学生 12 名が参加した。
	14－16	市民団体アートパーティ主催の「世界の子供の絵画展」に約 10 名がボランティアとして参加し、受付・案内等を行った。
	16	広島市長束西児童館の行事「春祭り」に2名の学生が参加し、「べっ甲あめ」作りの指導を行った。
食物栄養	14－16	広島市安佐南食品衛生協会より委託を受け、毎年学生数名が一日食品衛生監視員として食品営業施設を巡視している。
音楽	14－16	授業科目「演奏活動」の延長として、地域の要請に応えて様々な場所で毎年 20 回以上のミュージックボランティア活動を行っている。
	14－16	学生数名による打楽器アンサンブルグループ「ツッカーズ」が毎年コンサートを開催し、好評を得ている。
	14－16	学生数名によるマリンバアンサンブル「ピクニック・マリンバコンサート」を毎年開催している。
	15	財団法人広島市ひと・まちネットワーク主催の「ピースコンサート」において、学生6名によるマリンバアンサンブルで出演した。
保育	14－16	地域の児童福祉施設（約 30 ヶ所）で保育支援ボランティアとして多くの学生が活動している。平成 16 年度からは教員も支援を行い、1年生ほぼ全員が1人 10 時間程度のボランティアを実施することができた。
自治会	14－16	広島県赤十字血液センターと連携して、毎年２回献血車を学内に呼び、学生及び教職員に対して献血を促している。
	15	茶道部学生3名が縮景園の茶室において、本学へ視察に来られたお客様にお手前を披露し、おもてなしを行った。
	16	あかね祭実行委員をはじめとして大学祭時に募金活動を行い、合計 43,500 円を中国新聞社を通じて新潟県中越地震義援金として送った。

7.2.2　学生の社会的活動についての考え、評価

学生の社会的活動は講義の一環、セミナー活動、個人的活動等、すべてそれぞれの目的を逸脱しない範囲で積極的に推奨している。その結果として、各学科の特色を生かした活動などが行われている。学内では経験できない直接体験学習が学生の人間形成に良い影響を与えると考え、表彰をするなど積極的に評価している。

7.3　国際交流・協力への取組み

7.3.1　過去３ヶ年の在籍中の学生の海外教育機関等への派遣の状況

過去３ヶ年の在籍中の学生の海外教育機関等への派遣は実施していない。

7.3.2　過去３ヶ年の海外教育機関等との交流状況

過去３ヶ年の海外教育機関等との交流は実施していない。

7.3.3　過去３ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

平成 15 年に学長がアメリカ合衆国ハワイ州における日米短期大学国際交流セミナーに参加した。また、教員１名が大韓民国において講演を行った。

7.4　特記事項

7.4.1　短期大学教育とボランティア活動

大学全体としての社会的活動はこれまでも行ってきたが、現在は特に、学生による社会へのボランティア参加ということを重要視している。コミュニティ生活学科の「大邱（テグ）の日」や絵画展などの手伝い、食物栄養学科のお弁当配食サービスやクリスマス会開催､音楽学科のボランティアコンサート､保育学科の児童福祉施設でのボランティア活動、自治会の献血活動や新潟県中越地震義援金募集活動など､「究理実践」の「実践」部分が直接地域社会に役立つことを経験させることが今の短期大学教育に必要なことと考えている。学生たちはこれまでにも積極的にボランティア活動をしているが、今後も活動しやすいように強力に支援していかなければならないと考えている。

7.5　自己評価及び今後の課題

7.5.1　自己評価

本学は、地域に根ざしたコミュニティ教育を展開し、積極的な地域貢献・社会貢献をめざしている。そのことが、多数の社会人学生や科目等履修生の受け入れ、各学科主催による特色ある公開講座の実施、附属音楽園の継続的な地域文化の振興活動等、多様な社会的活動の実施に現れていると言える。また、学生の様々なボランティア活動は、教育目標の達成という面でも極めて有効に機能している。

7.5.2　今後の課題

（１）各学科の特色を生かした形で、学生の社会的活動をさらに推進する。
（２）長期履修学生制度の普及に努めるなどして、社会人学生の受け入れをさらに拡大していく。
（３）海外の教育機関との学生交流・教員交流をより積極的に推進する。

Ⅷ　管理運営

Ⅷ　管理運営

8.1　法人組織の管理運営体制

8.1.1　短期大学の運営

広島文化学園は平成 17 年４月１日施行の改正私立学校法の主旨に則り、理事会が最高の意思決定機関としての機能を果たすべく、法人の代表（理事長、副理事長、理事長補佐、法人事務局長ほか）と、教授会の代表（学長、学長補佐、教養教育代表、各学科長、学生部長、事務部長ほか）が月１回定期的に「法人と大学の連絡会議」を開くことにした。会議は理事長を議長とし、議事は、①法人よりの連絡事項、②教授会よりの連絡事項（この中に教授会の決定事項が含まれる）、③再検討事項、に分けて審議している。ただし、現在まで重要事項に関する教授会の意思決定を覆したことはない。なお、理事長と学長の兼務はできるだけ避けるべきであり、兼務解除に向けて現在準備中である。

また、予算の決定は、各学科、図書館、事務部、学生部の概算要求をとりまとめ、法人によるヒアリングを経て、法人の査定により決定している。この方式は 30 年以上も前から行っている。

8.1.2　理事会についての寄附行為上の規定、過去３ヶ年の理事会の開催状況

寄附行為第 15 条において「理事会」を規定している。また、過去３ヶ年の理事会の開催状況は次のとおりである。なお、議題については本学に関するものを記載している。

【平成 14 年度】

開催日等	主な議題
14 年　5 月 25 日 出席理事６名	(1) 理事、評議員、監事の選任について (2) 平成 13 年度業務執行状況報告 (3) 平成 13 年度決算報告・監査報告 (4) 広島文化短期大学生活科学科栄養専攻の名称変更について (5) 広島文化短期大学校舎の新築について (6) その他
14 年　9 月 21 日 出席理事７名	(1) 平成 15 年度学生納付金の改定について (2) 平成 14 年度給与改定について (3) 広島文化短期大学8号館建設及び空調設備改修に係る工事契約の執行並びに補正予算について (4) 資金の借り入れについて (5) その他
15 年　3 月 29 日 出席理事８名	(1) 広島文化短期大学学長交代の承認 (2) 平成 15 年度事業計画(案)について (3) 平成 15 年度予算執行計画(案)について (4) 各大学の学則の一部改正について (5) 広島文化短期大学音楽学科の専攻分離の廃止について (6) その他

【平成 15 年度】

開催日等	主な議題
15 年 5 月 24 日 出席理事 7 名	(1) 理事、評議員の選任について (2) 平成 14 年度業務執行状況報告 (3) 平成 14 年度決算報告・監査報告 (4) その他
15 年 7 月 19 日 出席理事 7 名	(1) 広島文化短期大学音楽学科の地域総合科学科への改組とそれに伴う学則改正について (2) その他
15 年 9 月 13 日 出席理事 7 名	(1) 平成 15 年度給与改定について (2) 平成 16 年度学生納付金の改定について (3) 収支予算の変更について (4) 広島文化短期大学学則の一部改正並びに保育学科保育専攻及び音楽学科の教員養成課程認定の申請について (5) その他
15 年 12 月 20 日 出席理事 7 名	(1) 「特別な任務に従事する教授に関する取扱要項」の一部改正について (2) 「休暇規程」の一部改正について (3) その他
16 年 3 月 27 日 出席理事 8 名	(1) 平成 16 年度事業計画(案)について (2) 平成 16 年度予算執行計画(案)について (3) 寄附行為の変更について (4) 学則の一部改正について (5) セクシュアル・ハラスメントの防止に関する規程の制定について (6) 学園規程の一部改正について ・就業規程 ・給与規程 (7) その他

【平成 16 年度】

開催日等	主な議題
16 年 5 月 29 日 出席理事 7 名	(1) 評議員の選任について (2) 平成 15 年度業務執行状況報告 (3) 平成 15 年度決算報告・監査報告 (4) その他
16 年 9 月 25 日 出席理事 6 名	(1) 平成 16 年度収支予算の変更について (2) 広島文化短期大学「生活文化学科」の廃止に伴う寄附行為の変更届出について (3) 平成 17 年度学生納付金について (4) 栄養教諭養成課程認定申請について (5) 音楽学科専攻科カリキュラムの変更について (6) 専攻科幼児教育専攻の名称変更について (7) その他
16 年 12 月 18 日 出席理事 7 名	(1) 私立学校法の一部改正に伴う寄附行為の変更について (2) 特別奨学生制度について (3) その他
17 年 3 月 26 日 出席理事 7 名	(1) 呉大学、呉大学短期大学部及び広島文化短期大学学長の選任について (2) 広島文化短期大学入学定員増及び保育学科の専攻分離の廃止に係る学則の一部改正について (3) 平成 16 年度予算の変更について (4) 平成 17 年度事業計画(案)について (5) 平成 17 年度予算(案)について (6) 役員の選任について (7) 学則の一部改正について (8) その他

8.1.3　理事会業務の一部委任

理事会の業務を一部委任する等の機関は設置していない。

8.1.4　監事業務についての寄附行為上の規定、前年度における監事の業務執行状況

寄附行為第 14 条において「監事の職務」を規定している。

（監事の見解）

平成 16 年度における監事の業務執行状況について、監事は理事会には必ず出席し、経営方針を絶えず聴取し、また関係の者からヒアリングするなどしてきたが、理事会の業務執行については適正かつ的確に執行されていると認める。さらに、計算書類の内容については、公認会計士による厳正な監査を受けており、計算書類に添付されているように当学園の経営状況は適正に表示されていると認めている。また、監事は文部科学省の「監事の研修会」へは努めて出席し、文部科学省の指導を念頭に監事としての業務を果たしている。

平成 17 年度４月から実施されている「法人と大学との連絡会議」には可能なかぎり参加し、法人と大学の運営について積極的に意見を述べさせてもらっている。

8.1.5　評議員会についての寄附行為上の規定、前年度の評議員会の開催状況

寄附行為第 18 条において「評議員会」を規定している。また、平成 16 年度の評議員会の開催状況は次のとおりである。なお、議題については本学に関するものを記載している。

【平成 16 年度】

開催日等	主な議題
16 年　5 月 29 日 出席評議員 15 名	(1) 評議員の選任について (2) 平成 15 年度業務執行状況報告 (3) 平成 15 年度決算報告・監査報告 (4) その他
16 年　9 月 25 日 出席評議員 17 名	(1) 平成 16 年度収支予算の変更について (2) 広島文化短期大学「生活文化学科」の廃止に伴う寄附行為の変更届出について (3) 平成 17 年度学生納付金について (4) 栄養教諭養成課程認定申請について (5) 音楽学科専攻科カリキュラムの変更について (6) 専攻科幼児教育専攻の名称変更について (7) その他
16 年 12 月 18 日 出席評議員 15 名	(1) 私立学校法の一部改正に伴う寄附行為の変更について (2) 特別奨学生制度について (3) その他
17 年　3 月 26 日 出席評議員 10 名	(1) 呉大学、呉大学短期大学部及び広島文化短期大学学長の選任について (2) 広島文化短期大学入学定員増及び保育学科の専攻分離の廃止に係る学則の一部改正について (3) 平成 16 年度予算の変更について (4) 平成 17 年度事業計画(案)について (5) 平成 17 年度予算(案)について (6) 役員の選任について (7) 学則の一部改正について (8) その他

8.1.6　管理運営について今後の改善や変更事項

（１）寄附行為の見直し

平成 16 年５月 12 日公布、平成 17 年４月１日施行の改正私立学校法により、本学園の寄附行為の見直しを行った。その結果、平成 17 年２月 21 日付けで文部科学大臣に寄附行為の変更認可申請を行い、法人における管理運営について改善を図ると共に、財務情報の公開を規定化し改正法の主旨に沿った改善をした。

（２）連絡会議の改善

従来より、大学と法人との連絡調整を図ることを目的に、連絡会議を設置し円滑な管理運営に資してきたが、平成 17 年４月１日施行の改正私立学校法の主旨に則り、理事長が招集し法人が主体となる会議であることを明確にした上で、名称も「法人と大学による連絡会議」とした。

8.2　教授会等の運営体制

8.2.1　リーダーシップ

学長は学長選考規程によって選考され、任命される。学長の任期はない。現在は理事長との兼務になっているが、これを改善すべく準備中である。

学長は教授会の議長となり、重要事項を審議すると共に、事務部、学生部、図書館、各種委員会を指揮している。

本学の場合、学長が 74 歳と高齢であると共に、協会役員等の公務に忙殺されているため、学長補佐を置きリーダーシップの強化を図っている。

8.2.2　教授会についての学則上の規定、前年度における開催状況

学則第９章（第 47 条～第 51 条）において「教授会」を規定している。なお、教授会で審議すべき事項は、第 51 条において次のとおりに定められている。

教授会で審議すべき事項

事項
(1)教育課程及び授業に関する事項
(2)学則及び学内諸規程に関する事項
(3)学生の入学、退学、転学、休学、除籍及び卒業に関する事項
(4)学生の厚生補導に関する事項
(5)学生の賞罰に関する事項
(6)教授、助教授、講師、助手の候補者の選考、昇格等に関する事項
(7)教員の研究等に関する事項
(8)その他教育研究上必要と思われる重要事項

平成 16 年度における教授会の構成メンバーは、学長、学長補佐、教授 29 名、助教授９名、講師１名、計 41 名であった。本学では、学則第 48 条第２項（「教授会が必要と認めたときは、教授会に助教授その他のものを加えることがある。」）の規程を拠り所として、授業担当者はすべて議論に参加すべきとの認識の下、講師以上の教員によって教授会を構成している。なお、平成 16 年度の開催状況は次のとおりである。

【平成 16 年度】

開催日	主な議題	出席状況
16 年 4 月 2 日	(1)学生の休学について (2)学生の転学科について (3)科目等履修生の入学について (4)留学生の単位認定について	出席 40 名 欠席 1 名
16 年 4 月 21 日	(1)学生の休学について (2)既修得単位の認定について (3)授業料の分納について (4)平成 17 年度入学試験について (5)音楽練習室の使用時間について (6)セクシュアル・ハラスメントの防止に関する規程の制定について (7)平成 16 年度自衛消防組織について	出席 40 名 欠席 1 名
16 年 5 月 19 日	(1)学生の休学について (2)授業料の延納・分納について (3)広島県高等教育機関協議会単位互換生について	出席 39 名 欠席 2 名
16 年 6 月 2 日	(1)オープンキャンパスの実施について (2)第1回高校訪問実施について	出席 39 名 欠席 2 名
16 年 6 月 16 日	(1)教育内容説明会の実施について	出席 39 名 欠席 2 名
16 年 7 月 7 日	(1)学生の休学について (2)専攻科音楽専攻・音楽演奏専攻のカリキュラムの変更について (3)時間割の変更について (4)オープンキャンパスの実施について (5)音楽学科「定期演奏会」開催日変更について	出席 38 名 欠席 3 名
16 年 7 月 21 日	(1)学生の退学について (2)専攻科幼児教育専攻の名称変更について (3)AO入学制度の実施について	出席 40 名 欠席 1 名
16 年 8 月 4 日	(1)留学生の指導について (2)AO入学制度の登録認定について	出席 40 名 欠席 1 名
16 年 9 月 1 日	(1)卒業判定について (2)学生の退学・復学について (3)履修形態の変更について (4)科目等履修生の入学について (5)科目等履修生の単位認定について (6)既修得単位の認定について (7)AO入学制度の登録認定について (8)課程認定申請(栄養教諭二種)について (9)高校巡回について (10)「就職指導委員会規程」の改定について (11)第三者評価実行組織について (12)ALOの人選方法について	出席 39 名 欠席 2 名
16 年 10 月 6 日	(1)学生の退学・休学について (2)学生の処分について (3)科目等履修生の入学について (4)科目等履修生の単位認定について (5)授業料の分納について (6)AO入学制度の登録認定について (7)第三者評価の実施に関する組織について	出席 40 名 欠席 1 名

開催日	主な議題	出席状況
16 年 10 月 20 日	(1)AO入学制度の登録認定について (2)長期履修学生の登録認定について (3)授業料の延納・分納について (4)三大学単位互換について	出席 39 名 欠席 ２名
16 年 11 月 17 日	(1)学生の処分について (2)授業料の延納・分納について	出席 38 名 欠席 ３名
16 年 12 月 ４日	(1)学生の休学について (2)授業料の延納について	出席 36 名 欠席 ５名
16 年 12 月 15 日	(1)授業料の分納について (2)長期履修学生の登録認定について (3)平成 17 年度カリキュラムについて	出席 40 名 欠席 １名
17 年 １月 ５日	(1)授業料の分納について (2)長期履修学生の登録認定について	出席 39 名 欠席 ２名
17 年 １月 19 日	(1)学生の退学・休学について (2)長期履修学生の登録認定について (3)卒業(修了)証書授与式について (4)オープンキャンパスの日程について (5)学生相談室・保健室について	出席 41 名 欠席 ０名
17 年 ２月 ２日	(1)学生の退学・休学について (2)科目等履修生の受け入れについて (3)長期履修学生の登録認定について (4)卒業(修了)証書授与式について (5)個人情報保護法対策準備委員会(仮称)設置について	出席 40 名 欠席 １名
17 年 ２月 16 日	(1)卒業判定について (2)学生の表彰について (3)平成 17 年度カリキュラムの変更について	出席 40 名 欠席 １名
17 年 ３月 ２日	(1)卒業判定について (2)学生の退学・休学について (3)学生相談室等の規程の変更について (4)科目等履修生の単位認定について (5)平成 17 年度前期時間割について	出席 40 名 欠席 １名
17 年 ３月 23 日	(1)名誉教授の推薦について (2)コミュニティ生活学科の定員増について (3)音楽学科の定員増について (4)保育学科の定員増及び専攻課程の廃止について (5)学生の退学について (6)学生の除籍について (7)特別奨学生について (8)広島文化短期大学個人情報保護に関する暫定規則(案)について (9)平成 17 年度運営組織について (10)平成 17 年度広島文化短期大学組織表について (11)平成 17 年度入学宣誓式について (12)平成 17 年度後期時間割について (13)平成 17 年度授業日程の変更について (14)平成 17 年度教員への併任・非常勤講師委嘱について	出席 39 名 欠席 ２名

8.2.3 各種委員会

教育・研究に関する各種委員会の状況については次のとおりである。

【紀要編集委員会】

根拠規程	「広島文化短期大学紀要」投稿規程
主な業務	本学教員及び共同研究者の研究成果を社会に公開するための機会を設けるため、年に1回本学の紀要を編集し（投稿論文の精査を含む）、発行する。
構成員	図書館長（委員長）及び各学科から教員1名（委員）を選出している。
前年度の開催状況	3篇の投稿があり、委員会を開催して全論文の紀要への掲載を決めた。その後、編集と校正作業を行い、8月5日付けで発行した。

【人権教育推進委員会】

根拠規程	規程の作成について検討中
主な業務	教職員及び学生が人権問題に関心を持ち、人権を尊重する姿勢を高めていく。
構成員	学長（委員長）、学長補佐、学生部長及び各学科から教員1名（委員）を選出している。
前年度の開催状況	特に問題がなく開催していない。ただし、新任の教職員に対して就任時に人権問題に関する研修会を実施した。

【教育装置管理運営委員会】

根拠規程	教育装置管理運営委員会規程
主な業務	学内におけるコンピュータ教育システムの有効かつ適切な管理運営を図る。
構成員	学長（委員長）、学長補佐、学生部長、教養教育代表、各学科長、図書館長、事務部長、学生部教務担当次長、学生課長、総務課長、管理課長、外国語科目担当者、情報処理科目担当者で構成されている。
前年度の開催状況	情報処理科目担当者を中心に当面の問題に直接関係する委員を必要に応じて招集した。

【美化推進指導委員会】

根拠規程	規程の作成について検討中
主な業務	学生で構成される美化委員会を通じ、美化委員としての自覚を持たせ、その任を果たせるよう協力する。また環境美化への取組みを推進するために、美化担当教室の時間割を点検し、教室へ掲示している。
構成員	各学科から教員1名を選出し、その中から委員長を選んでいる。
前年度の開催状況	2回の委員会を開催し（4月、9月）、委員会の役割の検討、構内巡回の方法、掃除機の購入等について検討した。

【服装指導委員会】

根拠規程	学生準則第2条
主な業務	服装指導を人間教育の一環としてとらえ、TPOに合わせた服装ができるような指導を通して、豊かな人間性の涵養と知的品性を育成する。
構成員	委員長1名ほか、各学科から1名の委員を選出している。
前年度の開催状況	4回の委員会を開催し（4月、7月、10 月、12 月）、上履き励行の指導法や委員会のあり方等について検討した。

【就職指導委員会】

根拠規程	就職指導委員会規程
主な業務	学生の就職活動の支援、就職情報の収集・提供、就職先の開拓等を行っている。
構成員	委員長1名ほか、各学科のクラス主任またはチューター、各専攻科主任、実務教育担当教員、学生部厚生補導担当次長、就職課長、学生課長で構成されている。
前年度の開催状況	4回の委員会を開催し（5月、7月、10 月、11 月）、求人データ・就職希望調査データの共有、規約の一部改正、就職相談室の運営法等について検討した。

【厚生補導委員会】

根拠規程	広島文化学園事務組織規程第 10 条及び自治会会則第 11 条
主な業務	学生の厚生補導に関して連絡協議を行う。自治会と連絡協議する。
構成員	学生部長（委員長）、学生部厚生補導担当次長、自治会参与（3名）、美化推進参与（4名）、学生相談参与（3名）、厚生参与（1名）のほか、各学科のクラス主任（またはチューター）で構成されている。
前年度の開催状況	特に問題がなく開催していない。

【留学生支援委員会】

根拠規程	規程の作成について検討中
主な業務	留学生が円滑な学生生活を送れるよう支援する。
構成員	学長補佐（委員長）、学生部長、学生部教務担当次長・厚生補導担当次長・事務次長、留学生参与（1名）、教養教育代表、各学科長、事務部長、学生課長、就職課長、総務課長、管理課長で構成されている。
前年度の開催状況	留学生参与を中心に当面の問題に直接関係する委員を必要に応じて招集した。

【学生寮生活指導委員会】

根拠規程	学生寮生活指導規程
主な業務	寮生の指導と問題発生時の対応をしている。
構成員	委員長1名のほか、各学科のクラス主任（またはチューター）、学生部学生課長によって構成されている。
前年度の開催状況	特に問題がなく開催していない。

【一般下宿生活指導委員会】

根拠規程	学生寮生活指導規程を準用
主な業務	一般下宿生の指導と問題発生時の対応をしている。
構成員	委員長1名のほか、各学科のクラス主任（またはチューター）、学生部学生課長によって構成されている。
前年度の開催状況	特に問題がなく開催していない。

【演奏委員会】

根拠規程	音楽学科学生の学内演奏会開催規程第4条
主な業務	学生が関係する演奏発表の主旨、目的、曲目、演奏形態、技術等、演奏全般の妥当性について検討し、演奏会開催、出演の可否を判定する。
構成員	音楽学科長（委員長）のほか、音楽学科の教員3名で構成されている。
前年度の開催状況	毎月2回開催し、定期演奏会、専攻科学外演奏、授業演奏活動・学外演奏、卒業・修了演奏会について検討した。

8.2.4　運営全般の問題、課題（理事長の見解）

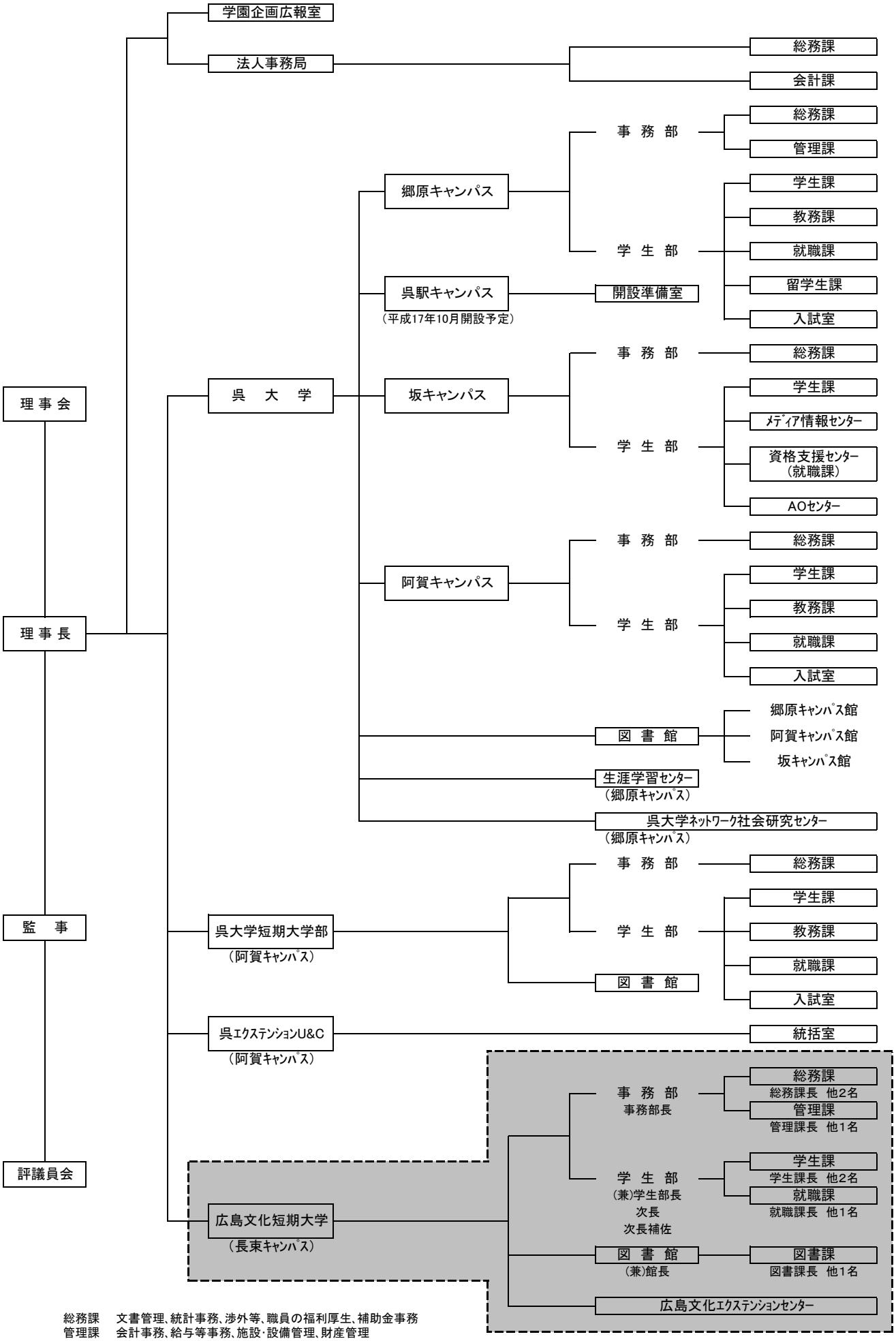
8.5 の項（特記事項）に示すとおり、全般的に民主的な運営ができているので、特に問題はない。

8.3　事務組織

8.3.1　現在の事務組織図

次頁に示すとおりである。

事務組織図（広島文化学園全体）



総務課　文書管理、統計事務、渉外等、職員の福利厚生、補助金事務
管理課　会計事務、給与等事務、施設・設備管理、財産管理
学生課　学生募集に関すること、学生相談・証明書等・入試・学籍に関すること、教育課程に関すること、単位の履修に関すること
就職課　学生の進路に関すること、就職開拓
図書課　教育及び研究に必要な資料等を収集・管理・閲覧及び利用に供すること

8.3.2　事務職員の任用

（１）事務職員の採用

事務職員の採用については、職員の中で欠員が生じた場合に実施している。また、採用に関しては本学園の卒業生を優先的に採用している。このことは、学生の雇用という点から評価できると共に、愛校心を持って就業していることも特筆できる。各自の業務を円滑に遂行することはもちろんのこと、その他の業務も自主的・積極的に参画し（例えば、ホームページ委員など)、学生や教員からの信頼が厚い。

（２）中間管理職

学園内の職員の中から、選考して昇任させている。

（３）上級管理職

学園内の職員の中から、選考して昇任させているが、昇任で補充できない場合は、主として官公庁の職員を選考して採用している。

8.3.3　事務組織について整備している諸規程

事務組織に関する規程は次のとおりである。

名　　称
⑴広島文化学園事務組織規程
⑵広島文化学園事務職員等の職の設置に関する規程
⑶広島文化学園公印取扱規程
⑷広島文化学園文書処理取扱内規
⑸広島文化学園文書起案内規
⑹広島文化学園給与規程
⑺広島文化学園旅費規程
⑻広島文化短期大学消防計画
⑼広島文化短期大学SD委員会規程

8.3.4　決裁処理の概要と流れ等

（１）決済処理の概要と流れ

決裁文書については、学内組織の流れに従い縦覧し、決裁を受けている。決裁済みの確認のもとに公印を押印し、文書施行している。

（２）公印、重要書類の管理

公印等の管理は、施錠できる金庫で保管し、原則として勤務時間内でしか使用しないように努めている。

重要書類の管理も厳重に行っている。たとえば、学生カード（学籍簿に相当）をはじめ、成績関係書類（成績証明書、履修届、成績原本等)、学生名簿等、学生の個人情報に関わるデータが記載されているものはすべて金庫または鍵付ロッカーに保管し、持ち出し厳禁としている。

（３）防災の状況

毎年度当初に消防計画を示し、自営消防隊の確認、火気取締責任者の確認等を徹底し、防災管理に努めている。

（４）情報システムの安全対策

広島文化学園が保有する４つのキャンパスに設置されているパソコンは１つのネットワークで結ばれ、外部からの侵入に対してきわめて制限の厳しいファイヤーウォールを設置している。また、重要なデータを保存している事務職員用ドメインは別のファイヤーウォールで守られ、外部からはもちろん教員や学生もアクセスできないようになっている。

8.3.5　事務職員の信頼度（事務部長の見解）

事務職員は、学生との対応は主として事務室での対応となるが、親切・丁寧な対応を心がけており、学生も気軽に事務室に来ている。また、教員からの諸々の要望にも適切かつ迅速に対応しているので厚く信頼されている。

8.3.6　事務組織の SD 活動の現状

平成 16 年 12 月に Stuff Development 委員会（ＳＤ委員会）を発足させ、事務職員の資質の向上に努めている。この委員会の活動は、各事務職員の自己点検・評価に加え、自己点検・評価に対する同僚による相互評価という２つの柱で支えられている。さらに、ＳＤ委員会は、Faculty Development 委員会（ＦＤ委員会）と相互評価を行うこととしている。原則として月１回のＳＤ委員会の開催に努めている。

8.3.7　事務組織が抱えている問題、課題

それぞれが専門的な（分野の違った）仕事に従事しており、共通課題を持って本務を進めることが必要なことから、定期的な学園内研修や各種機関や団体が主催する研修会に参加し、資質の向上に努めているが、今後は研修体制や研修機会の増加を図る必要がある。

8.4　人事管理

8.4.1　教職員の就業

教職員の就業については、「広島文化学園就業規程」をはじめとして諸規程を設けており、任免、休退職、服務、休暇等について詳細に規定している。また、「広島文化学園給与規程」、「広島文化学園旅費規程」等により待遇面での条件を明確にしている。いずれも地方公務員に準じた内容になっている。

8.4.2　法人と短期大学教職員との関係（理事長・学長の見解）

本学園には労働組合がいまだ結成されたことはない。これに代わって全職員協議会という組織がある。これは対話の教育を推進し、本学園の充実に寄与するものである。役員は４名で任期は１年である。引き継ぎをスムーズに行うために、２名は前期に、残り２名は後期に選挙によって改選される。平成３年に自己点検・評価が始まったとき、その推進に当たったのはこの協議会であった。

本学の特徴は、法人、教員、事務職員が一体となって職務を遂行していることであり、法人と教職員との関係はきわめて良好な状況を長く継続している。これは「対話」の教育が、まず教える立場の人間にこそ求められているのであり、法人対教職員といった対立や分極を超越した場によってのみ M.ブーバーの意図するところが実現するのである。

8.4.3　教員と事務職員との関係

【コミュニティ生活学科】(学科長の見解)

総務関係、予算執行、施設管理等、事務職員との接触があるが、重要な業務について教員と事務職員は一体となって事にあたっているので、関係は概ね良好であると考えている。

【食物栄養学科】(学科長の見解)

学生と接触の多い学生課・就職課・管理課（納付金の支払い）には「学生に対する躾」という点で協力いただいており感謝している。総務課・学園本部には、教育活動の円滑化に常に努力いただいている。多くの学校行事は教員と事務職員が共同して作業を行っているので関係は極めて良好であると感じている。

【音楽学科】(学科長の見解)

事務職員と教員が多くの職務を分担し協力している。特に学生募集及び入試に関わる諸業務については事務職員と教員の良好な協力関係によってこそ成功していると思っている。

【保育学科】(学科長の見解)

教員と事務職員が多くの職務で役割を分担し、相互に連携を取りながら運営しているため、これまで大きな問題は起こっていない。

【事務部】(事務部長の見解)

本学の特徴の１つとして教員と事務職員の全員が参加する全職員協議会がある。これは、重大な事項については大学に関わる者すべてが関わって対処するというシステムである。通常は毎年、本学の自己点検・評価公表資料の作成や学生募集のための学習会などを教職員が一体となって行っている。また、原則として月２回開く教授会には「授業を担当するすべての専任教員」のほか、事務部、学生部、図書館から各課長以上の事務職員も参加し、相互の緊密な連携を図っている。教授会に参加しない事務職員に対しては各課長が教授会の内容を課員に伝達し、情報を共有するようにしている。

そのほか、日常的な業務も事務職員と教員の間で分掌しながら行っており、教員と事務職員は良好な関係にあると言える。

8.4.4　教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の遵守等の現状

（１）教職員の健康管理

年１回、年度当初、学内において一斉にエックス線検査を実施している。

（２）就業環境

教員は、土曜日を含めた週２日の研修日があり、授業や会議に差し支えない範囲で自由な勤務時間となっているので、研修しやすい勤務形態と言える。また、学内においては個室の研究室があり、研修しやすい環境が保たれている。

事務職員は、原則として、１日８時間の勤務時間である。週休２日制で祝祭日も暦どおり休日とするなど、地方公務員に準じた勤務条件としている。職場の勤務環境においては、全教職員に冷暖房の完備された部屋が与えられており、効率よく勤務できている。

（３）就労時間の遵守

１日の勤務時間は明確にされており、勤務時間中に私用で外出する場合は、休暇簿により有給休暇を取得するなど遵守されている。ただし、教員については授業に差し支えない範囲内で弾力的に運用されている。

8.5　特記事項

8.5.1　法人、大学の管理運営

法人、大学の管理運営に当たっては、すべての営みが「究理実践」という建学の精神をふまえ、常に学習者である学生の教育を中心に考え、教育をどのように展開し、学生をいかに支援していくかという視点から行っている。中でも、開学以来一貫して変わらない方針は、次のとおりである。

（１）人事の透明性

人事はすべて透明性を確保しており、採用、昇任、給与等についてはそれぞれの規程により実施し、個人による特別な扱いはしていない。

（２）予算の編成

予算の編成においては、担当者の幅広い知識と経験により、必要な経費、機器等の資料収集に基づく概算要求がなされており、特別な事情のないかぎりそれを尊重して予算化している。

（３）入試の合否判定

入試の合否判定はすべて教授会で決定する。入試判定に法人が介入することはない。入試はすべて公明正大に実施されている。また、これまで寄付金入学者は皆無である。

（４）教材・備品の選定と購入

教材・備品の選定と購入に当たっては、担当教員の判断を尊重している。教員の幅広い知識と経験により、教育に必要な物品が購入されるようにしている。法人が特定の業者を指定することはない。

（５）教員の勤務時間

教職員の勤務時間については原則的には就業規則に定めているが、教員については研究・研修を重要視する視点から授業や会議に支障のないかぎり勤務時間を弾力的に運用している。それがより質の高い教育と研究の実績をあげているが、これは教員として当然の責任でもある。

8.6　自己評価及び今後の課題

8.6.1　自己評価

特記事項として上述した大学の管理運営の５つの基本方針により経理や人事の公平性が保たれ、教職員の厚い信頼を得ている。一方、教員に対する勤務時間の弾力的運用は私学としての自律性を示すもので、これによって学位（論文）を取得した教員は４人で現在も勤務している。優れた芸術作品を発表している教員も多数いる。

公平性、透明性、平等性を守りながらも、その運用にあたっては硬直的にならず弾力性を失わない運営は正に大学管理の妙と評価している。

8.6.2　今後の課題

（１）大学の質の保証をするため、また法人の安定性を守るため、引き続きこの基本方針を堅持する。

（２）この基本方針の真意について常に研修を重ね、これを日々の実践に生かすよう学園全体が努め、その方法について検討する。

（３）ネットワーク経由の情報流出防止にとどまらず、あらゆる観点から情報管理について再検討を行うと共に、個人情報保護について教職員の意識を向上させるよう努める。

Ⅸ　財務

Ⅸ　財務

9.1　財務運営

9.1.1　「中・長期の財務計画」の計画

特に中･長期の財務計画は策定していないが､学園内の各大学の改革等に伴う申請書の提出に併せて、向こう３ヶ年の短期計画を作成している。この資料をもとに各大学の財務運営の趨勢を予測し、健全な財政運営が図られるよう努めている。

9.1.2　事業計画と予算の決定にいたる過程

約30年続いている方法により、法人事務局が学園内の事業計画と各大学の予算を作成している。作成までの過程は次のとおりである。

（１）各大学から法人へ予算要求及び事業計画を提出する。（１月まで）
　　特に、平成４年以降は、自己点検・評価に基づいて事業計画を立てて概算要求を提出することを求めている。

（２）提出書類を法人で検討後、各大学からの要求をヒアリングする。（２月末）

（３）次年度の学生数の概数を把握し、概算予算を算出後、各大学へ要求に対する内示を行う。（３月中旬）

（４）理事会及び評議員会で予算の承認を得て決定する。（３月末）

9.1.3　予算の各部門への伝達方法

各学科、図書館、事務部、学生部からの予算要求に対して、法人事務局から各長へ査定を伝達し、その後理事会において決定された予算は、事務部長を通して予算書を配付している。

学科内の教職員は予算の範囲で発注決裁書兼支出調書に必要な決済を受け、管理課へ提出する。緊急止むを得ず事前に購入した場合は支払い調書を添付して提出する。

9.1.4　過去３ヶ年の監事の監査状況

（１）監事の監査状況について

過去３ヶ年の監査の状況は次のとおりである。なお、平成17年度から年度監査の始まりと終わりには監事と公認会計士との意見交換を行うこととした。

【平成14年度】

年　月　日	状　況
14年５月23日	財産(施設設備)、会計の全般にわたり特に重要と思われる点を中心に状況聴取及び決算概要の確認
14年９月21日	常勤理事の業務執行状況の確認
14年11月３日	常勤理事の業務内容の確認
15年３月16日	コミュニティ生活学科開設に伴う主要な業務の確認及び新年度予算の編成方針の確認
会計士との連携	法人会計については、数回にわたって、複数の公認会計士による監査、指導を受けているが、特に大きな問題がないかぎり、監事と公認会計士との直接の連携はとっていない。公認会計士からの指摘事項はなかった。

【平成15年度】

年　月　日	状　　況
15年５月22日	財産(施設設備)、会計の全般にわたり特に重要と思われる点を中心に状況聴取及び決算概要の確認
15年９月13日	常勤理事の業務執行状況の確認
15年11月３日	常勤理事の業務内容の確認
16年３月16日	コミュニティ生活学科に伴う主要な業務執行の確認及び新年度予算の編成方針の確認
会計士との連携	法人会計については、数回にわたって、複数の公認会計士による監査、指導を受けているが、特に大きな問題がないかぎり、監事と公認会計士との直接の連携はとっていない。公認会計士からの指摘事項はなかった。

【平成16年度】

年　月　日	状　　況
16年５月27日	財産(施設設備)、会計の全般にわたり特に重要と思われる点を中心に状況聴取及び決算概要の確認
16年５月29日	常勤理事の業務執行状況の確認
16年９月25日	常勤理事の業務執行状況の確認
16年11月３日	常勤理事の業務内容の確認
17年３月16日	コミュニティ生活学科の完成年度にあたり履行状況の確認及び新年度予算の編成方針の確認
17年３月26日	常勤理事の業務執行状況の確認
会計士との連携	法人会計については、数回にわたって、複数の公認会計士による監査、指導を受けているが、特に大きな問題がないかぎり、監事と公認会計士との直接の連携はとっていない。公認会計士からの指摘事項はなかった。

（２）公認会計士の監査状況について

【平成14年度】

年　月　日	状　　況	年　月　日	状　　況
14年９月25日	期中取引監査	15年４月30日	実査監査
14年10月９日	期中取引監査	15年５月13日	残高監査
15年１月18日	期中取引監査	15年５月16日	残高監査
15年３月１日	期中取引監査	15年５月17日	残高監査
15年３月８日	期中取引監査	15年５月20日	残高監査
15年４月19日	期中取引監査		

【平成15年度】

年　月　日	状　　況	年　月　日	状　　況
15年10月６日	期中取引監査	16年４月８日	実査監査
15年12月８日	期中取引監査	16年４月20日	残高監査
16年１月９日	期中取引監査	16年４月30日	残高監査
16年２月13日	期中取引監査	16年５月11日	残高監査
16年３月19日	期中取引監査	16年５月20日	残高監査

【平成16年度】

年　月　日	状　　況	年　月　日	状　　況
16年10月５日	期中取引監査	17年４月11日	実査監査
16年12月13日	期中取引監査	17年４月18日	残高監査
17年１月11日	期中取引監査	17年５月９日	残高監査
17年２月４日	期中取引監査	17年５月20日	残高監査
17年３月25日	期中取引監査	17年５月23日	残高監査

9.1.5　財務公開の考え

財務の公開については、本学の「自己点検・評価公表資料―内容と特色の経年比較―」の中の「財務の状況」の項で貸借対照表（中科目単位）を掲載し、今後の取組み等も記載している。今後は、資金収支・消費収支の概要も開示していきたい。

9.1.6　寄附行為

資金の保有と運用について、寄附行為では資金の運用は確実な定期預金等で保管するようになっており、平成 16 年度までは「ペイオフ」に備え全額普通預金としていたが、運用収入増を図るため、平成 17 年度からは理事協議会での協議を経て、半額を定期預金とし、残りは決済用預金に預けている。

9.1.7　寄付金・学校債の募集

寄付金･学校債の募集はしていない。

9.2　財務体質の健全性と教育研究経費

9.2.1　過去３ヶ年の資金収支計算書・消費収支計算書の概要

次頁に示すとおりである。

9.2.2　平成 16 年度末の貸借対照表の概要

（平成 17 年3月 31 日現在／単位:千円）

資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	9,898,015	10,076,216	△ 178,201
有形固定資産	9,895,409	10,073,119	△ 177,709
その他の固定資産	2,605	3,096	△ 491
流動資産	2,736,753	2,421,318	315,434
資産の部合計	12,634,768	12,497,535	137,233
負債の部			
固定負債	558,262	617,770	△ 59,507
流動負債	595,869	570,122	25,746
負債の部合計	1,154,132	1,187,893	△ 33,761
基本金の部			
基本金合計	13,660,021	13,463,022	196,998
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収支(支出)超過額	△ 2,179,385	△ 2,153,380	△ 26,004

9.2.3　過去３ヶ年における教育研究経費比率

内訳	14 年度	15 年度	16 年度
教育研究経費	148,726	177,273	181,789
帰 属 収 入	851,719	826,616	903,096
比　率（%）	19.8*	21.4	20.1

*退職金収入１億円を除く。

過去3ヶ年の資金収支計算書の概要

【資金収支計算書/資金収入の部】　（単位：千円）

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	2,056,283	611,104	2,143,498	660,931	2,048,882	724,561
手数料収入	37,834	13,986	34,959	13,496	37,423	13,988
寄付金収入	800	500	0	0	200	200
幇助金収入	340,048	114,965	492,583	114,049	466,908	117,755
資産運用収入	6,501	0	2,039	0	3,342	0
資産売却収入	200	200	74	74	0	0
事業収入	25,843	10,146	25,304	12,595	28,819	14,657
雑収入	133,719	100,815	75,494	25,319	57,257	27,231
借入金等収入	140,000	70,000	0	0	2,400	0
前受金収入	493,559	－	455,128	－	483,417	－
その他の収入	455,699	－	711,710	－	495,606	－
資金収入調整勘定	△ 556,459	－	△ 596,080	－	△ 559,934	－
前年度繰越支払資金	2,394,586	－	2,539,614	－	2,298,275	－
収入の部合計	5,528,616	－	5,884,328	－	5,362,597	－

【資金収支計算書/資金支出の部】

人件費支出	1,551,773	623,765	1,557,821	538,894	1,526,258	552,726
教育研究経費支出	342,410	77,611	390,005	89,965	381,381	96,286
管理経費支出	193,271	58,825	238,157	67,940	211,604	85,974
借入金等利息支出	15,954	11,978	14,788	10,742	12,510	8,701
借入金等返済支出	59,840	52,210	59,840	52,210	64,590	52,210
施設関係支出	368,660	281,646	663,255	1,216	123,471	14,901
設備関係支出	35,177	13,198	50,587	7,545	40,661	6,684
資産運用支出	0	0	0	0	0	0
その他の支出	465,900	－	647,962	－	456,061	－
資金支出調整勘定	△ 43,986	－	△ 36,366	－	△ 52,721	－
次年度繰越支払資金	2,539,614	－	2,298,275	－	2,598,778	－
支出の部合計	5,528,616	－	5,884,328	－	5,362,597	－

過去3ヶ年の消費収支計算書の概要

【消費支出計算書/消費収入の部】　（単位：千円）

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	2,056,283	611,104	2,143,498	660,931	2,048,882	724,561
手数料	37,834	13,986	34,959	13,496	37,423	13,988
寄付金	1,029	500	118,092	150	5,105	4,903
補助金	340,048	114,965	492,583	114,049	466,908	117,755
資産運用収入	6,501	0	2,039	0	3,342	0
資産売却差額	199	199	73	73	0	0
事業収入	25,843	10,146	25,304	12,595	28,819	14,657
雑収入	133,719	100,815	75,494	25,319	57,722	27,231
帰属収入	2,601,461	851,719	2,892,046	826,616	2,648,203	903,096
基本金組入額合計	△ 253,344	△ 216,311	△ 849,426	△ 35,460	△ 196,998	△ 43,583
消費収入の部合計	2,348,117	635,407	2,042,620	791,155	2,451,204	859,513

【消費支出計算書/消費支出の部】

人件費	1,577,461	629,818	1,555,898	542,930	1,514,300	545,686
教育研究経費	638,736	148,726	700,833	177,273	710,110	181,789
（うち減価償却額）	(296,326)	(71,115)	(310,827)	(87,307)	(328,729)	(85,502)
管理経費	209,428	63,251	254,399	72,859	228,552	90,825
（うち減価償却額）	(16,127)	(4,425)	(16,170)	(4,869)	(16,885)	(4,850)
借入金等利息	15,954	11,978	14,788	10,742	12,510	8,701
資産処分差額	2,143	2,050	1,037	708	1,072	837
徴収不能引当金繰入額	9,288	2,588	12,980	336	9,603	0
徴収不能額	－	－	－	－	1,058	0
消費支出の部合計	2,453,014	858,413	2,539,938	804,851	2,477,208	827,840
当年度繰越消費支入超過額	△ 104,897	－	△ 497,317	－	△ 26,004	－
翌年度繰越消費支入超過額	△ 1,656,062	－	△ 2,153,380	－	△ 2,179,385	－

9.3　施設設備の管理

9.3.1　施設設備の管理

固定資産管理規程等は次のとおりすべて広島文化学園経理規程の中で定められている。

規程	該当箇所
(1) 固定資産管理規程	広島文化学園経理規程　第５章　固定資産会計
(2) 図書管理規程	広島文化学園経理規程　第５章　固定資産会計
(3) 消耗品及び貯蔵品管理規程	広島文化学園経理規程　第６章　物品会計
(4) 施設設備等管理規程	広島文化学園経理規程　第５章　固定資産会計
(5) 財務諸規程	広島文化学園経理規程　第８章　実算

9.3.2　危機管理対策

（１）入学試験対策

入学試験については、次の点に留意し、万全の体制で準備及び運営を行い、過誤のないようにしている。

①入試事務担当者の早朝出勤

②広島駅及びバスセンターへの情報収集員の派遣

③大雪対策としての緊急連絡体制

④入試前日の入試運営協議会の開催、試験会場の準備及び確認

⑤試験前の授業終了時から入学試験終了時までの部外者・学生の学内立ち入り禁止

（２）火災等の災害対策

年度当初の教授会で消防計画を示し、自営消防隊の確認、火気取締責任者の確認をしている。消防訓練については、職員に対して消防機器の設置場所の確認、消火器の取扱説明、非常放送設備の機器チェック等を実施している。

（３）防犯対策

昼間は特に定期的な学内の巡回は実施していない。夜間（午後５時～翌朝８時 30 分）については、警備会社に委託して有人警備を実施、定期的に学内を巡回している。なお、午後９時 30 分以降は正門を施錠し、外部から進入できないようにしている。

平成 16 年度から体育館に防犯警報装置を２ヶ所設置している。

（４）学生、教職員の避難訓練等の対策

計画はしていたが、訓練の実施には至っていない。平成 17 年度は実施する予定である。

（５）コンピュータのセキュリティ対策

ファイヤーウォールによって外部からの進入を厳しく制限している。なお事務室内のパソコン（端末）についてはさらにファイヤーウォールを設置し、２重のセキュリティをかけている。

（６）省エネ及び地球環境保全対策

主に次の対策をとっている。

①毎年春秋に省エネ対策を教授会で説明し各自の認識を改めると共に、無駄な電気の消灯に努める。

②教室等のエアコンを事務室で集中管理し、無駄をなくした空調管理を行う。

③ごみ箱を可燃物と不燃物にわける分別収集を行う。

9.4　自己評価及び今後の課題

9.4.1　自己評価

法人全体の財務状況は近年堅調に推移していると考えているが、今後は中期的な財務計画を策定し、この計画をもとに施策を実行することが必要である。

本学においては、コミュニティ生活学科の新設、保育学科の定員増、コミュニティ生活学科と音楽学科が地域総合科学科として適格認定を受けたこと等により、各学科の定員を概ね確保した。さらには教職員の意識改革の過程を通して国庫補助のうち特別補助の獲得等で収入は増加している。これらのことにより財政的には収支差額がプラスに改善し、評価は全国の短期大学の中でも良好と言える。

しかし、学園全体を見ると大学間に収支のばらつきがある。経営の合理化を図るため、平成 18 年度から呉大学短期大学部の募集を停止し、収支の改善を図る予定である。

9.4.2　今後の課題

（1）中期的な財務計画を策定する。

（2）財政の健全性を保つために、今後も特別補助のさらなる獲得に努める。

（3）一部校舎の老朽化に対する改修工事を実施する。

Ⅹ　改革・改善

Ⅹ　改革・改善

10.1　自己点検・評価

10.1.1　自己点検・評価の位置づけ

本学では、これまで、全教職員が自己点検・評価活動を自主・自律的に取り組んできた。そしてこの度、教員と事務組織を束ねる改革推進部を設置すると共に、新たな規程に基づいてＦＤ委員会、ＳＤ委員会を設置した。今後は、２つのステップ（①自己点検・評価、②同僚による相互評価）を中心に学内全体の改革・改善による教育の質の向上・充実をめざしていくこととした。

10.1.2　過去３ヶ年の自己点検・評価報告書の発行状況

本学では、「本学の内容と特色－入試説明会資料－」と題する冊子を毎年６月に発行し、主に高校に配付して教育内容等を公表してきた。平成５年からこれを「本学の内容と特色－自己点検・評価公表資料－」に名称を変更し、本学の自己点検・評価の内容を示す資料とした。平成 12 年からは内容をさらに充実させ、過去３ヶ年を比較しながら自己点検・評価を行うこととし、名称も「本学の自己点検・評価公表資料－内容と特色の経年比較－」に改めた。なお、過去３ヶ年の発行部数は毎年 500 部で、配付先は次のとおりである。

年度	配付先等
14～16 年度 （６月発行）	・本学教職員 ・呉大学教職員 ・近隣大学 ・教育内容説明会出席の高校教諭等 ・本学来学者

10.2　自己点検・評価の教職員の関与と活用

10.2.1　前年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲

平成 16 年度までは、広島文化短期大学自己点検及び評価規程に基づき、教員、組織、大学とそれぞれが所属する立場において自己点検・評価活動を行ってきた。今後は、各年度とも前年度の自己点検・評価結果を受けて、次の３つのステップ、①大学の目標設定（教授会協議事項)、②大学の目標を受けて各組織の目標設定（組織内協議事項)、③組織の目標を受けて教職員の目標設定、で行う予定である。

10.2.2　前年度までに行った自己点検・評価結果の活用についての実績

前述のとおり「本学の自己点検・評価公表資料－内容と特色の経年比較－」として毎年６月に公表している。今後も、自己点検・評価の結果を公表すると共に、大学の改革・改善に活用したいと考えている。

10.3　相互評価や外部評価

10.3.1　概要及び評価結果の活用実績

短期大学間の相互評価は、家政系学科を対象として平成 11 年３月に帝塚山短期大学（家政系学科）と本学（生活文化学科、生活科学科）との間で実施した。

相互評価の内容として教育理念・目標及び教育活動に関するものに重点を置き、事前に

当該校の自己点検・評価報告書（過去５ヶ年分）を交換・検討し、質問事項を提出した。その後に訪問し合い（３月４日に本学から帝塚山短期大学へ、３月 13 日に帝塚山短期大学から本学へ)、質問事項に対し資料による説明を中心に質疑応答が行われた。本学からの質問は 13 項目であった。また本学への質問は「経営理念、学科の経年変化、対話による教育、学生自身の自己点検・評価、検定試験への対応、就職と資格との状況、専攻科栄養専攻、栄養士研究会、ＡＯ入学制度、学内施設状況」であった。

これらについての質疑応答は、双方の教育理念、教育活動を再認識することとなり、見直しや改善への参考となった。

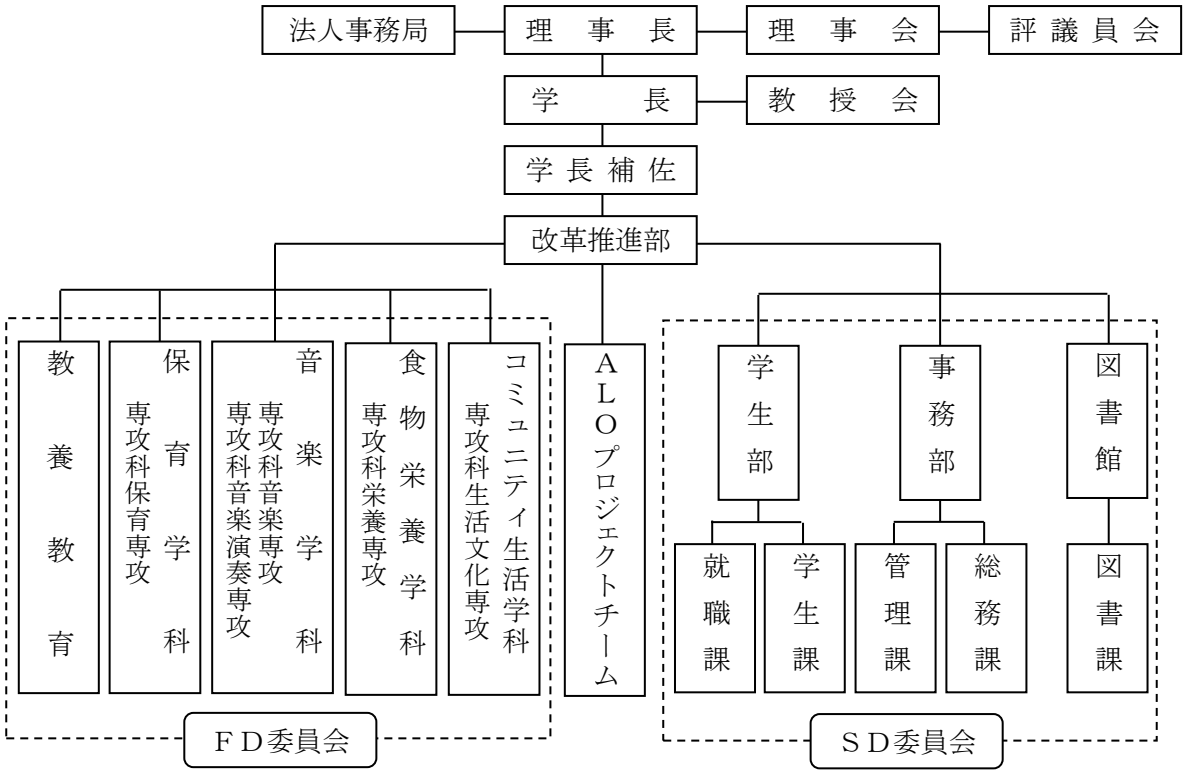
10.3.2　整備状況

本学は平成４年に、広島文化短期大学自己点検及び評価規程、広島文化短期大学自己点検・評価実施細則を作成しており、それに基づいて自己点検・評価を行ってきた。平成 11 年には、帝塚山短期大学との間で相互評価を行った。この度、(財)短期大学基準協会が実施する第三者評価を受けるに当たり、本学のさらなる向上・充実のため学内運営組織を再編し、改革推進部を設置した。改革推進部にはＦＤ委員会、ＳＤ委員会を設け、新たに改革推進部、ＦＤ委員会、ＳＤ委員会の規程を整備した。

10.4　第三者評価（認証評価）

10.4.1　学内組織の概要

第三者評価を実施するための学内組織としては、改革推進部、ＡＬＯプロジェクトチーム、ＦＤ委員会、ＳＤ委員会があり、組織図は次のとおりである。



10.4.2　第三者評価を迎えるに当たっての決意

今から 14 年前、平成３年７月 20 日、本学園では「自己点検・評価」に取り組み始めた。短期大学設置基準改正の直後のことである。平成６年には学生自身による自己点検・評価もスタートさせている。この頃、自己点検・評価を正しく理解している短期大学はきわめて少なかった。この栄光ある伝統を守り続けていきたいと考えている。しかし、同僚による相互評価については欧米に後れを取っていたことは否定できない。大学内における同僚による相互評価、大学間の同僚評価の双方ともに反省するところ大である。

この度、(財)短期大学基準協会の第三者評価を受けることは、大学という同僚による相互評価にほかならず、他を裏切ることのない誠実な教育を続けていくため、新たな気持ちで自己点検･評価を行った。ややもすればマンネリズムに陥りやすい自己点検･評価も、(財)短期大学基準協会が作成した統一的なマニュアルによって、これまで見落としてきた点についても発見でき、本学の教育改革において大いなる歩みを踏み出すことができたと考えている。

平成 16 年度には教職員が同僚による相互評価を行う体制作りも整った訳であるから（改革推進部・ＦＤ委員会・ＳＤ委員会)、欧米と比較しても恥ずかしくない日本の短期大学として、これからも発展を続けていかなくてはならない。

これから学内で、質の高い自己点検・評価、そして同僚による peer review という意味においての相互評価を、高いレベルで継続的に実施することを肝に銘じながら、大学間相互評価の延長線上にある第三者評価を凛然として迎えたい。

10.5　特記事項

10.5.1　ホームページ委員会

本学の自己点検・評価の実績を如実に表しているものは、平成 15 年 12 月に発足したホームページ委員会である。この委員会は、早くから公開していた本学のホームページの「分かりにくい、見づらい、情報が古い、デザインが悪い」などについて自己点検を繰り返し、より良い公式サイトを公表し続けることを目的としている。特筆すべきは、この委員会が自主的に志願した教職員によって構成されていることであり、本学の特徴とも言うべき「教職員一体」の業務となっていることである。大学及び各学科のトップページデザインは外注しているが、その他のページはホームページ委員会のメンバーが写真撮影も含めて手作りで作成している。また、各学科からの意見を採り入れながら、分かりやすさ、見やすさ、情報の新しさなどについて常に委員会が点検を行い、サイトの更新に努めている。さらにそれと並行して、大学案内の作成においても中心的役割を果たしている。

大学ホームページや大学案内は学生募集にも大きく影響するものであり、また学内の学科を超えた相互評価の材料にもなるので、このホームページ委員会の活動は非常に重要なものとなっている。

10.6　自己評価及び今後の課題

10.6.1　自己評価

(財)短期大学基準協会の認証評価を受けるに当たり、自己点検・評価報告書を作成し、本学が実行してきた改革・改善を改めて認識する機会が与えられた。

そして、新しい課題に対して全教職員、全学生が常に前向きに取り組んできた 42 年間であったと自己評価している。この姿勢は今後も堅持したい。

10.6.2　今後の課題

（1）改革推進部の下、特にＦＤ委員会、ＳＤ委員会が改革・改善に向けて十分に機能を発揮する。

（2）特に、大学全体でまだまだ未熟な部分を残している peer review の精神に基づいた教育文化を育成する。

（3）各領域について継続的実行体制を確立する。

将来計画の策定

１．短期大学教育の将来ビジョン

日本の短期大学教育は今から 55 年前に 1/2 大学からスタートした。教育内容も教育条件もすべて４年制大学の 1/2 を基準にしていた。しかし、それは日本の高等教育の風土になじみ今日までやってきた。

しかし、今、転換期を迎えている。すなわち、1/2 大学を脱却し、コミュニティカレッジに生まれ変わるときを迎えたのである。

その時のコミュニティカレッジの教育目標は大きく分けて２つある。１つはコミュニティカレッジを修了して自主・自律できる「生きる力」を獲得し、社会で活躍できる人間を育てること。２つは、コミュニティカレッジで発見した自らの個性をさらに上級の大学・大学院で花開かせるための基礎教育をしっかり行うことである。前者は新教養教育と呼ばれたり資格取得教育と呼ばれている。後者は高等教育のファースト・ステージと呼ばれている。また、地域総合科学科とも呼ばれたりする。

これらの短期大学教育を逐次実現することが広島文化短期大学の将来計画の基本である。

２．広島文化短期大学の将来計画

（１）「生きる力」の育成のための教育は新教養教育と言われる。情報操作能力の向上、語学力の育成、各種の資格取得のための教育などであるが、これらを自由に学べる地域総合科学科の拡大に努めなければならないと思っている。

（２）ファースト・ステージとしての短期大学においては、幅広く多くの学問に接近させ体験することが必要となってくる。それらの機会をできるだけ多くの人に年齢を問わず学歴を問わず提供する教育機関でなければならないと思っている。

（３）そのための教育条件の整備には、まず、校地、校舎が整備されねばならない。校地は現在の土地が 19,187 ㎡、未利用の隣地が 7,237 ㎡残っていて合計 26,424 ㎡所有している。これを一体的に利用する方法を策定する必要がある。校舎は現在でも約 14,000 ㎡あるが老朽化した部分もあり立体的活用を視野に総合的に再開発する計画を策定しなければならないと思っている。

おわりに

この度本学は、(財)短期大学基準協会の平成 17 年度第三者評価（短期大学の機関別評価）の評価校に決定した。これを受けて、この自己点検・評価報告書は「(財)短期大学基準協会が実施する第三者評価の要綱」、「短期大学評価基準」、「自己点検・評価報告書作成マニュアル」、「第三者評価実施要領」等に基づいて作成したものである。

報告書や資料の作成に当たって、全教職員がその業務の重要性を正しく理解し、すべての作業が本学の現状を真摯に自己点検・評価するという態度で進められた。そして本学の抱える様々な課題やその改善・改革に向けての議論が重ねられていく過程で、本学の教育改革に向けた新システムの構築・学内の相互評価の組織が立ち上がった。このことは本学にとって極めて有益なものであった。また、この度の自己点検・評価は、従前の「本学の自己点検・評価公表資料」の見直しの機会となり、点検項目の不十分なものやその改善等への示唆も与えられた。その一方で、本学の個性・特色を明確に再認識することもできた。これらのことは本来のあるべき自己点検・評価、相互評価への第一歩であり、改善・改革への新しい始まりと理解している。

今後、アクレディテーション（自己点検・評価、相互評価、訪問調査、認証評価、継続的実行）に基づく(財)短期大学基準協会の第三者評価による助言・提言を真摯に受けとめ、新組織の活動を推進させていくことが本学の今後の発展につながっていくと確信している。

最後に、この報告書は、全教職員の理解と協力のもとに、また各部門の担当者の自主的な活動によって完成されたものであることを述べ、ここに敬意を表し、深く感謝する。

平成 17 年 7 月

ＡＬＯ　水井富美恵

報告書作成メンバー

坂田　正二	海見　俊宏	森元　弘志	川本　靖徳	藤森　弘子	水井富美恵	
松元　健治	堀江　周三	廣兼　孝信	澤原　英彦	満嶋　　明	井後　勝彦	原田　宏司
向井　景昭	石井　聖昭	和田　幸子	瀧川　康雄	金川　邦宏	平岡　正臣	明賀由里子
白砂千登勢	田浦　智子	星出　仁美				